

第1回メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査の在り方に関する検討会

令和6年12月27日（金）10:00～12:00
環境省第2会議室（オンライン及び対面）

議事次第

1. 開会

2. 議題

- （1）座長の指名について
- （2）メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査について
- （3）その他

3. 閉会

配付資料

- 資料1 メチル水銀による健康影響に係る疫学調査の在り方に関する検討会開催要綱
- 資料2 メチル水銀による健康影響に係る疫学調査の在り方に関する検討会委員名簿
- 資料3 水俣病にかかる経緯について
- 資料4 メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査について

- 参考資料1 水俣病にかかる主な住民健康調査
- 参考資料2 メチル水銀にかかる疫学調査例
- 参考資料3 国立水俣病総合研究センターにおける取り組みについて（水俣病研究紹介）
（委員提出資料）
- 参考資料4 国立水俣病総合研究センターにおける取り組みについて
- 参考資料5 メチル水銀の健康影響に係る疫学調査のあり方の検討に関する研究について
- 参考資料6 重金属等による健康影響に関する総合的研究等一覧（水俣病関係）
- 参考資料7 水俣病対策にかかるその他参考資料
- 参考資料8 水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法
- 参考資料9 水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法の
救済措置の方針

メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査の在り方に関する検討会 開催要綱

令和 6 年 12 月 17 日
大臣官房環境保健部長

1. 目的

メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査の在り方に関する検討会（以下「検討会」という。）は、水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法（平成 21 年法律第 81 号）第 37 条の規定により政府が行うこととされているメチル水銀による健康影響にかかる疫学調査の在り方について、専門的見地から検討及び助言を行うことを目的に開催する。

2. 検討内容

検討会は、メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査の在り方について、検討及び助言を行う。

3. 構成及び運営

- （1）検討会委員（以下「委員」という。）は大臣官房環境保健部長が指名する者で構成する。
- （2）座長は委員の中から大臣官房環境保健部長が指名し、検討会を運営する。
- （3）座長が検討会に出席できない場合は、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

4. 庶務

検討会の庶務は、大臣官房環境保健部企画課特殊疾病対策室が行う。

5. その他

- （1）会議について、公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがある場合又は行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成 11 年法律第 42 号）第 5 条に定める不開示情報を扱う場合には非公開とし、その他の場合は公開とする。公開とした会議については議事録を、非公開とした会議については議事要旨を公開するものとする。
- （2）この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は座長が定める。

メチル水銀による健康影響にかかる疫学調査の在り方に関する検討会
委員名簿

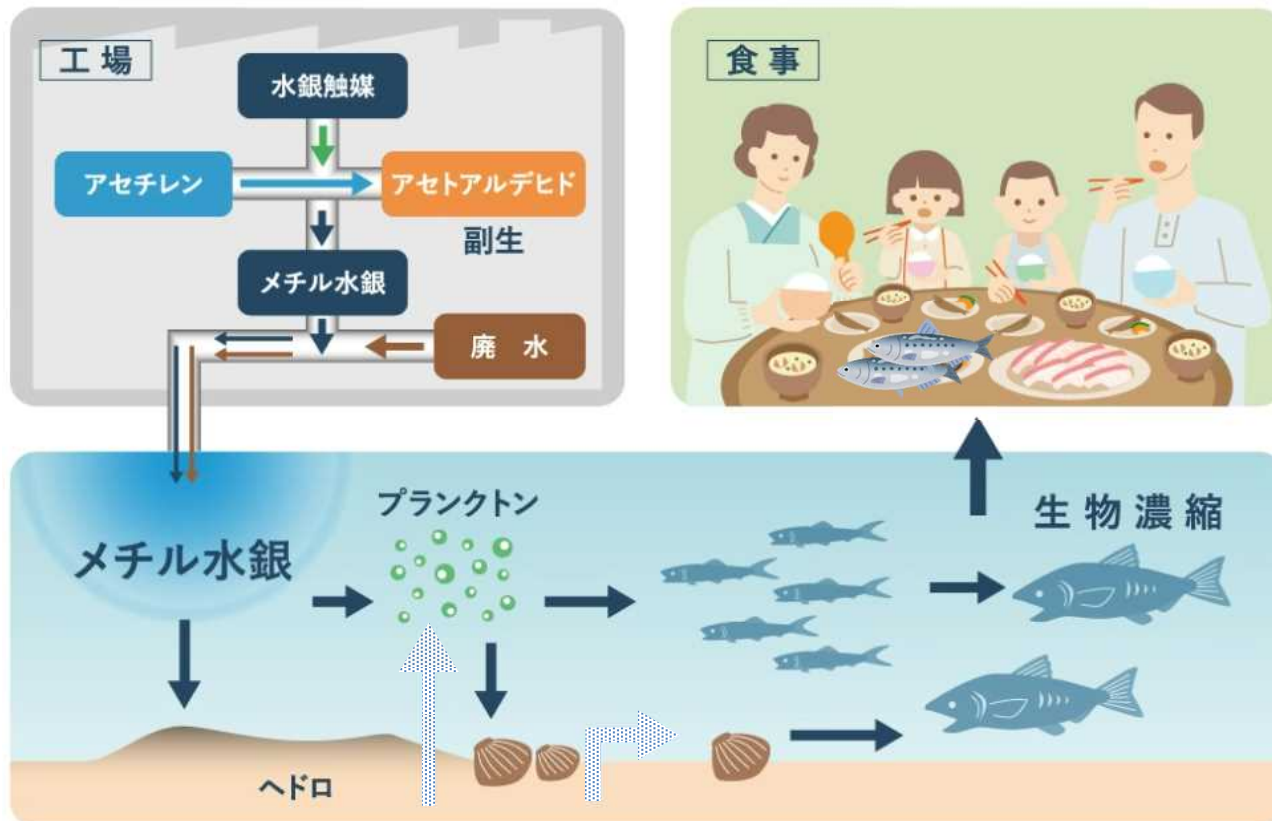
(五十音順、敬称略)

氏名	所属・役職
内野 誠	熊本大学 名誉教授
納 光弘	公益財団法人慈愛会 会長
坂本 峰至	国立水俣病総合研究センター 所長特任補佐
新美 育文	明治大学 名誉教授
平野 照之	杏林大学医学部脳卒中医学 教授
福田 吉治	帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授
二塚 信	熊本大学 名誉教授
横山 徹爾	国立保健医療科学院生涯健康研究部 部長

水俣病にかかる経緯について

水俣病とは

- メチル水銀化合物に汚染された魚介類を日常的にたくさん食べた住民の間に発生
- 中毒性の中樞神経系疾患



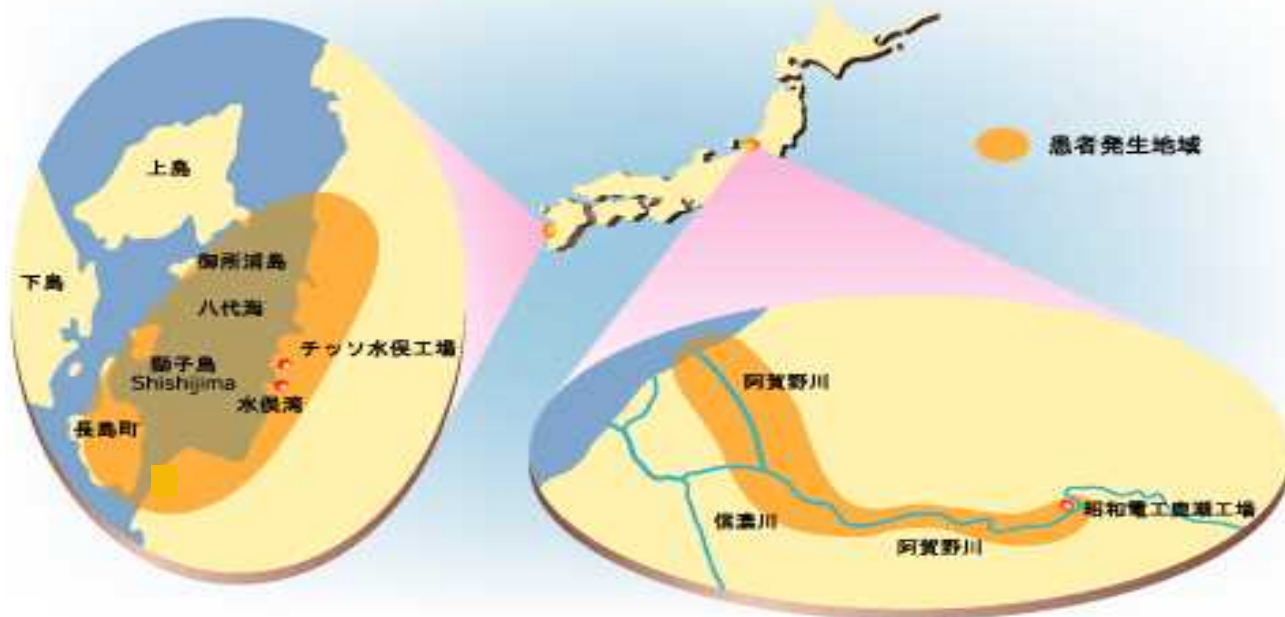
水俣病発生地域

熊本県、鹿児島県： チッソ水俣工場 ⇒ ^{やつしろかい}八代海沿岸

新潟県： 昭和電工^{かのせ}鹿瀬工場 ⇒ 阿賀野川流域

・水俣病発生地域

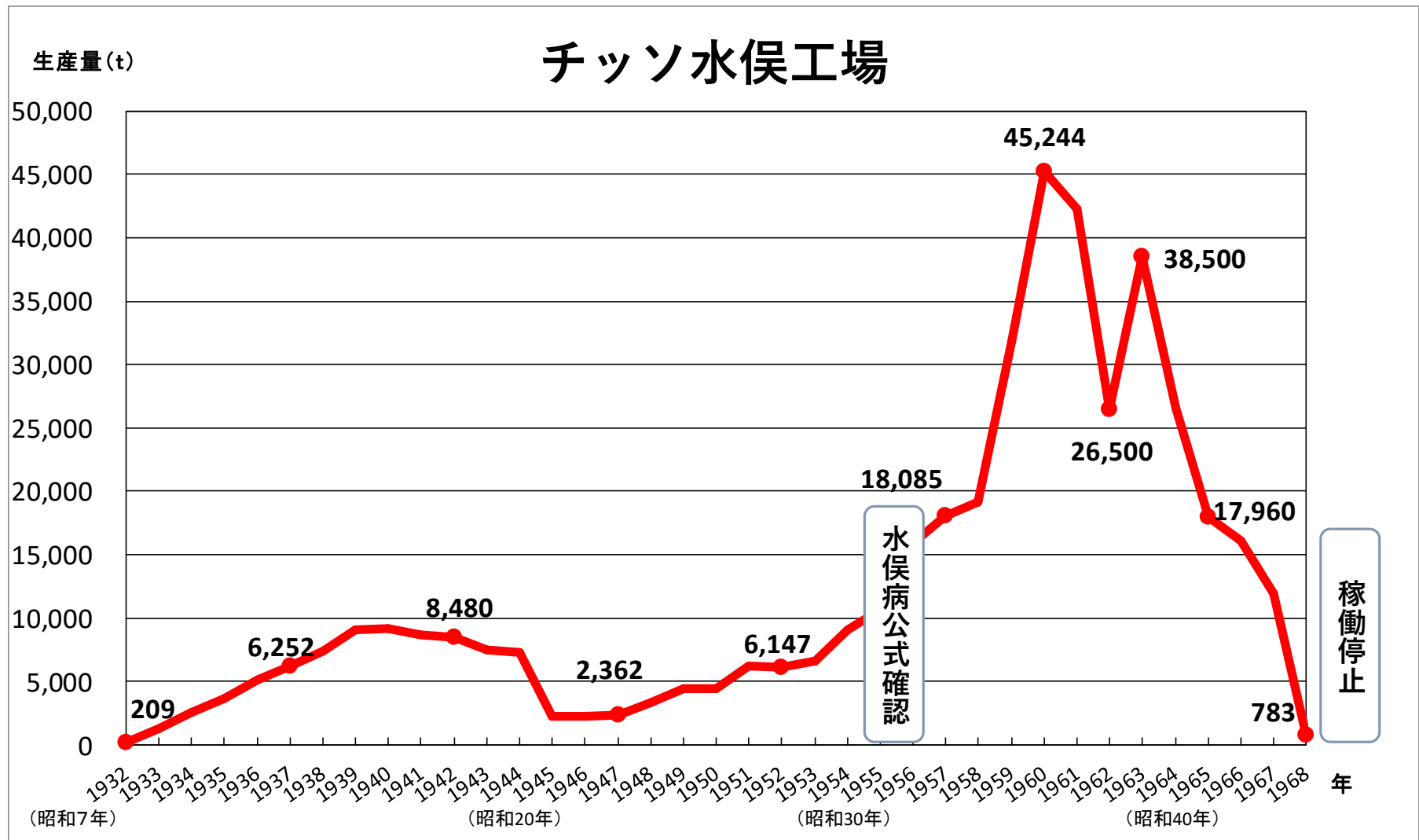
環境保健部「水俣病 その歴史と対策 1999」より



昭和31年患者公式確認

昭和40年患者公式確認

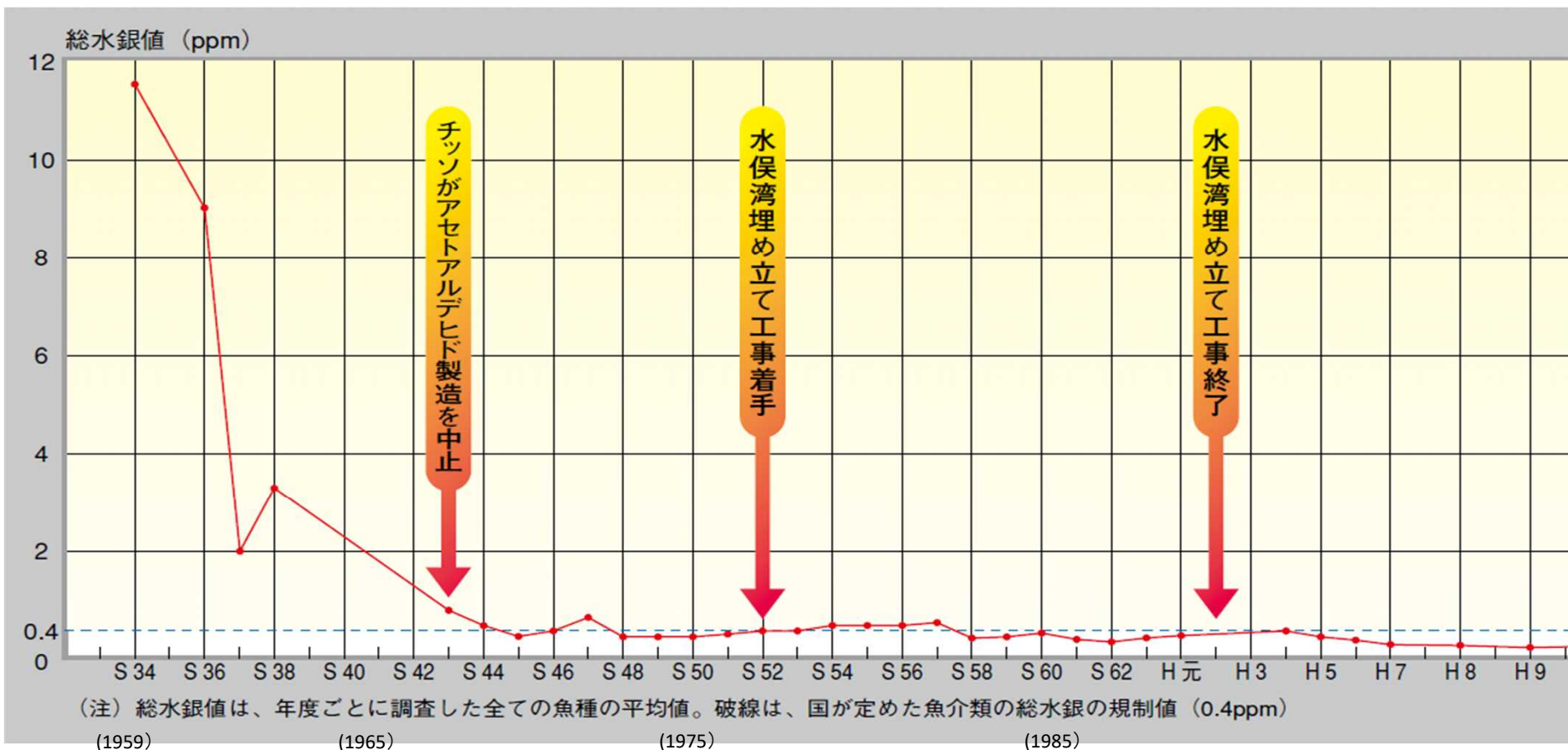
アセトアルデヒド生産量の推移



国立水俣病総合研究センター「水俣病に関する社会科学的研究会」報告書を元に環境省作成

魚類の総水銀値年次推移

水俣湾



(出典) 熊本県『はじめて学ぶ水俣病』(平成24年度)

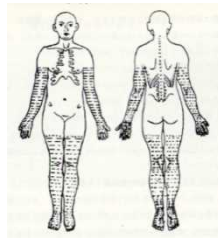
水俣病

熊本県水俣市のチッソ水俣工場、新潟県の昭和電工鹿瀬工場から排出されたメチル水銀化合物に汚染された魚介類を食べることによって起こった中毒性の神経系疾患

1 後天性水俣病

- 感覚障害
- 運動失調
- 求心性視野狭窄
- 聴力障害 等

●感覚障害



手足の先ほど
感覚が鈍い

●運動失調



字が上手く
書けない



バランス障害
歩行障害

●求心性視野狭窄



個々の症状は水俣病特有のものではない（非特異性）

2 胎児性水俣病

（妊娠中に胎盤を介して曝露）

水俣病のこれまでの経緯

昭和31年 (1956)	水俣病公式確認 5月1日、チッソ附属病院が水俣保健所に<u>患者の発生を報告</u>
昭和34年 (1959)	熊本大学医学部が有機水銀説を発表
昭和40年 (1965)	新潟水俣病公式確認 5月31日、新潟大学が新潟県に<u>患者の発生を報告</u>
昭和43年 (1968)	政府統一見解の発表 - 熊本水俣病の原因はチッソ水俣工場の排水中のメチル水銀化合物であること - 新潟水俣病の原因は昭和電工（現レゾナック）鹿瀬工場のメチル水銀を含む排水が基盤であること
昭和48年 (1973)	「公害健康被害補償法」（公健法）成立 - 環境汚染による健康被害への補償等を制度化。（慰謝料、療養費、通院・入院手当等） 認定者数：3,000名（令和6年5月現在）
昭和52年 (1977)	公健法に基づく水俣病の認定の判断条件（52年判断条件）を公表

水俣病のこれまでの経緯

平成 3年 (1991)	中央公害対策審議会答申 ・ 水俣湾周辺地域では遅くとも昭和 4 4 年以降、阿賀野川流域においては昭和 4 1 年以降、水俣病が発生する可能性のあるレベルの持続的メチル水銀ばく露が存在する状況ではなくなっていると認められる。 ・ 健康管理事業、医療事業（療養費、療養手当）の実施
平成 7年 (1995)	政治解決 ・ 与党三党（自由民主党、日本社会党、新党さきがけ）合意による解決（一時金、療養費等） ・ 救済対象者： 12,374名
平成16年 (2004)	関西訴訟最高裁判決 ・ 規制権限の不行使につき国と熊本県に賠償責任が認められた。 ・ <u>昭和52年判断条件は否定されていない。</u>
平成21年 (2009)	「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」（水俣病被害者特措法）成立 ・ 超党派の議員立法。 ・ 公健法に基づく判断基準を満たさないものの救済を必要とする方々の救済を図る。（一時金、療養費等） ・ 「<u>あたら限りすべて救済されること</u>」を旨とする。地域づくり（35条、36条）、健康に係る調査研究（37条） ・ チッソの分社化（子会社JNCに営利事業を譲渡、被害者への補償等の業務に特化した会社として存続）を規定。 ・ 同様の内容により、訴訟原告団と和解。 ・ 救済対象者： 38,320名

公害健康被害補償法の現状

(令和6年6月末現在)

	熊本県	鹿児島県	新潟県	合計
申請者数	22,560	10,604	2,757	35,921
処分件数	15,200	5,034	2,322	22,556
うち認定	1,791	493	716	3,000
うち棄却	13,422	4,541	1,622	19,585
取下げ	7,026	4,480	347	11, 853
未処分	321	1,090	72	1,483

水俣病被害者特措法の状況

- 平成21年（2009年）「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」（水俣病被害者特措法）成立
- 救済申請受付期間：平成22年5月～平成24年7月

申請・判定結果（平成30年1月判定終了）

	一時金等の給付申請者数				切替者数 （※）
	① 一時金等 対象該当者数	② 療養費 対象該当者数	③ ①、②のい ずれにも該当しな かった数	④ 合計 （①＋②＋③）	
熊本県	19,306	3,510	5,144	27,960	14,797
鹿児島県	11,127	2,418	4,428	17,973	1,998
新潟県	1,816	143	120	2,079	29
3県合計	32,249	6,071	9,692	48,012	16,824

（※）水俣病特措法施行前に保有していた保健手帳から水俣病被害者手帳（水俣病特措法に基づく手帳）への切替え人数

- 水俣病被害者特措法第37条は、政府は健康に係る調査研究を行うこと、及びこのための手法の開発を図ることを規定している。

(参考) 水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法
(平成21年法律第81号)

(調査研究)

第37条 政府は、指定地域及びその周辺の地域に居住していた者（水俣病が多発していた時期に胎児であった者を含む。以下「指定地域等居住者」という。）の健康に係る調査研究その他メチル水銀が人の健康に与える影響及びこれによる症状の高度な治療に関する調査研究を積極的かつ速やかに行い、その結果を公表するものとする。

2 (略)

3 政府は、第一項の調査研究の実施のため、メチル水銀が人の健康に与える影響を把握するための調査、効果的な疫学調査、水俣病問題に関する社会学的調査等の手法の開発を図るものとする。

4 (略)

- 水俣病の公式確認以降、様々な健康調査がなされ、公害健康被害補償法（以下「公健法」という。）で3千人を認定。
*公害健康被害補償法は現在も申請可
- また、平成21年には、地域における紛争を終結させ、水俣病問題の最終解決を図り、環境を守り、安心して暮らしていける社会を実現すべく、水俣病被害者特措法（以下「特措法」という。）が制定された。同法においては、あとう限りすべて救済されることを目指して、救済措置の開始後3年以内を目途に救済措置の対象者を確定することや救済措置の内容が定められ、平成7年の政治救済とあわせて合計5万人以上の方々を救済してきた。
- その上で、安心して暮らしていける社会の実現には、地域に居住している方々の水俣病に関する健康不安の解消等に向けた更なる取組が必要。
- 特措法第37条において、政府は健康に係る調査研究を行うこと、及びそのための手法の開発を図ることが規定されており、環境省は、同規定に基づくメチル水銀による健康影響にかかる疫学調査を令和8年度を目途に開始することを考えている。

- 一方で、公健法における水俣病の個々の認定にあたっては総合的な検討を行う等、丁寧な審査が行われている。具体的には、水俣病は魚介類に蓄積されたメチル水銀を経口摂取することにより起こる神経系疾患であるが、長期間経過した現在においては、毛髪水銀値によるばく露評価が難しく、メチル水銀により汚染された魚介類の喫食状況等の評価を慎重に行う必要がある。また、水俣病にみられる個々の症候は、非特異的なものであること等から丁寧に評価を行う必要がある。
- 今回の疫学調査は、認定審査とは異なり、集団に対して効率的に調査を行うことが求められる。また、地域に居住している方々の水俣病に関する健康不安の解消に資するよう、地域間の比較を念頭に行う方針でどうかと考えている。
- 以上のような方針が妥当と考えられるか。またこうした方針に基づき、特措法第37条に基づく疫学調査を行うにあたっては、どのような手法によって行われるべきか。

- 昭和31年(1956) 水俣病公式確認
- 昭和40年(1965) 新潟水俣病公式確認
- 昭和43年(1968) 政府統一見解の発表

人数は対象者数（受診率%）

- ・ 昭和46-47 熊本大学：水俣、御所浦、有明の一部 4,170人 (94.5%)
- ・ 昭和46-49 熊本県：水俣湾周辺地区住民健康調査 55,606人 (94.2%)
- ・ 昭和46-49 鹿児島県：不知火海沿岸地域住民健康調査 78,611人 (94.2%)
- ・ 昭和48-49 熊本県：八代海沿岸地域住民健康調査 5,186人 (97.5%)
- ・ 昭和48-49 熊本県：有明海沿岸地域住民健康調査 25,930人 (98.5%)

- 昭和48年(1973) 公害健康被害補償法（公健法）成立 認定者数：3,000名（令和6年5月現在）

- ・ 昭和50-56 水俣市：水俣市住民健康調査 37,145人 (90.0%)

- 平成7年(1995) 政治解決 救済対象者：12,374名

- 平成21年(2009) 水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法
救済対象者：38,320名

水俣病にかかる主な住民健康調査の概要

実施時期	実施者	実施地域	対象者数 (受診率%)	結果 (水俣病・疑い含む)
昭和46-47年 1971-1972	熊本大学 *1	水俣（出月、月浦、湯堂）、 御所浦、有明	4,170人 (94.5%)	204人
昭和46-49年 1971-1974	熊本県 *2	水俣湾周辺地区住民健康調査 水俣、津奈木、芦北、田浦、 御所浦、竜ヶ岳、苓北	55,606人 (94.2%)	155人
昭和46-49年 1971-1974	鹿児島県 *2	不知火海沿岸地域住民健康調査 出水、長島、東、高尾野、 野田、阿久根	78,611人 (94.2%)	61人
昭和48-49年 1973-1974	熊本県 *2	八代海沿岸地域住民健康調査 八代海沿岸10市町村	5,186人 (97.5%)	0人
昭和48-49年 1973-1974	熊本県 *2	有明海沿岸地域住民健康調査 有明海沿岸18市町村	25,930人 (98.5%)	1人 *4
昭和50-56年 1975-1981	水俣市 *3	水俣市住民健康調査 水俣市全住民	37,145人 (90.0%)	— *5

*1 一次アンケート調査、二次検診（専門医）

*2 一次アンケート調査、二次検診（地元開業医）、三次検診（専門医）

*3 一次アンケート調査、二次検診（地元開業医）

*4 水俣地区に主に滞在し魚介類を多食

*5 健康不安解消を目的として、住民の健康状態を調査

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

- **1984年（昭和59年）から1998年（平成10年）まで毎年夏、不知火海沿岸A町***
の40歳以上1500人を対象に検診を実施
*比較的メチル水銀曝露が高かったと考えられる地域
- 尿検査、血液検査、身体検査、超音波検査、インタビュー等により調査
- 肝疾患、腎疾患及び糖尿病の有病率について、日本の他地域と比較して高くはなかった。また、これらの疾患とメチル水銀曝露との間に正の相関は認められなかった。
- 一方、メチル水銀曝露のない地域の住民より自覚症状が多く、種類も多かった。
- **A町の40歳以上1,304人と対象地区446人について、自覚症状を多変量解析で分析したところ、自覚症状は四肢の痙攣を含む不定愁訴群、感覚障害を表す群、関節障害を表す群、筋力障害を表す群の4つの因子に分類された。**
- 漁村集落に因子得点は高く、加齢とともに上昇。一方で、測定した赤血球水銀とは関連のないことが確認された。

M Futatsuka, T Kitano, M Shono, Y Fukuda, K Ushijima, T Inaoka, M Nagano, J Wakamiya, K Miyamoto. Health Surveillance in the Population Living in a Methyl Mercury-Polluted Area over a Long Period. Environ Res. 2000 Jun;83 83-92, 2000

Y Fukuda, K Ushijima, T Kitano, M Sakamoto, M Futatsuka. An Analysis of Subjective Complaints in a Population Living in a Methylmercury-Polluted Area. Environ Res 1999; 81: 100-107

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

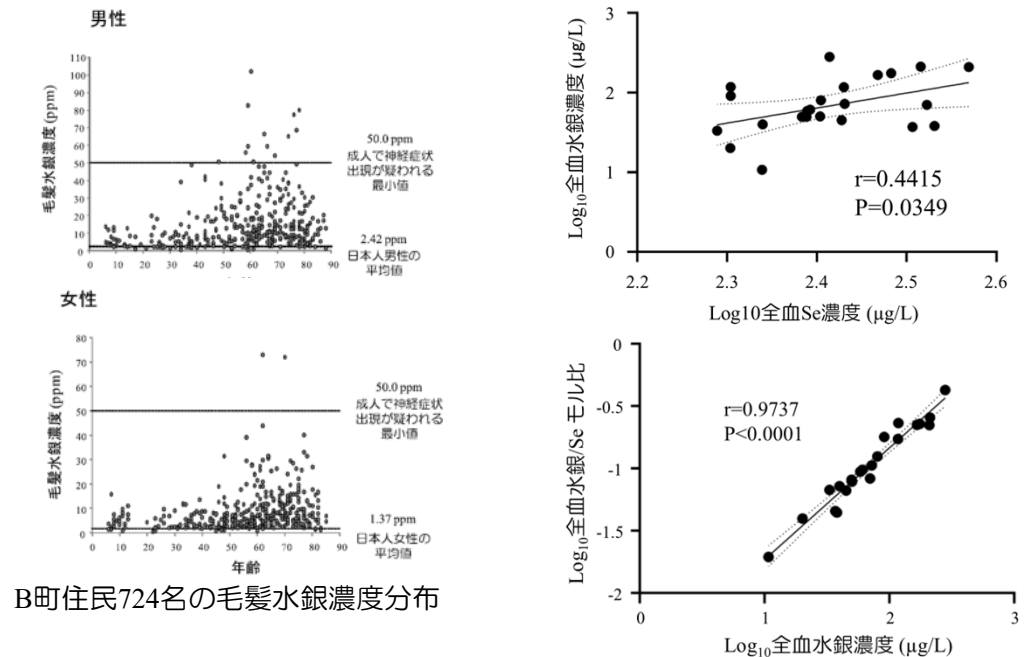
水俣病発生から約30年後の近隣住民の赤血球中の水銀濃度

- 1988年A町の住民（男性 546 人、女性 795 人（40 歳以上））の調査
- 赤血球中水銀濃度は男性が女性よりも高かった。
- 赤血球中の水銀濃度の幾何平均は、男性 27.5 ng/g (8.0 ~ 69.1 ng/g)、女性 20.4 ng/g (7.0 ~ 63.7 ng/g) であった。
- 赤血球中の水銀濃度は加齢とともに低下した。
- 男女ともに、赤血球中の水銀濃度の幾何平均と年齢の間には有意な正の回帰が得られた。
- 沿岸部男性住民の赤血球中水銀濃度は、内陸部男性住民より有意に高かった。
- 職業別では、漁師の赤血球中水銀濃度が最も高かった。
- 水俣病患者と対照群の間で、有意差は見られなかった。
- 現在の住民の曝露レベルはWHO発症閾値の1/10であり、健康影響の危険はないことが示された。

Sakamoto M, Nakano A, Kinjo Y, Higashi H, Futatsuka M. Present mercury levels in red blood cells of nearby inhabitants about 30 years after the outbreak of Minamata disease. *Ecotoxicol Environ Saf.* . 1991 Aug;22(1):58-66

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

- 伝統的な沿岸捕鯨が行われ、クジラやイルカなどを摂食する食習慣のある和歌山県B町において2009～2010年に調査。
- 住民724名の毛髪水銀濃度を測定したところ、男性平均値 9.86 ppm、女性平均値6.22 ppmとなり、日本人平均値（男性2.42 ppm、女性1.37 ppm）より高かった。
- WHO基準で軽度の神経症状がでる恐れがあるとする50 ppmを超える方が16名、100 ppmを超える方も1名含まれ、メチル水銀高濃度曝露集団と考えられた。
- 研究協力の同意が得られた194名（毛髪水銀濃度平均値14.9 ppm; 50 ppm以上12名、最高値101.9 ppm）について、神経内科専門医3名による詳しい神経内科学的検診を行った。
- 毛髪水銀値と神経所見を統計処理した結果、年齢と有意な相関を認める神経症候（難聴、ふるえ、失調、上下肢深部反射、痛覚、触覚、振動覚、二点識別覚など：過去の疫学研究の結果と一致）はあったが、メチル水銀濃度と有意に相関する神経症候は認められなかった。
- セレンはメチル水銀毒性を防御することが知られており、検診を受けた23名で血中の水銀値とセレン値を測定したところ、血中水銀値とセレン値は有意に正の相関、また血中水銀値とセレンのモル比は1以下であることが明らかになった。B町住民では、クジラに多く含まれるセレンがメチル水銀毒性防御の一因になっていることが考えられた。



■ メチル水銀にかかる疫学調査例

- 和歌山県B町では、メチル水銀に汚染されたクジラ肉を摂取することによりメチル水銀に高度に曝露していることが示されている（毛髪総水銀の範囲：1.1～101.9 $\mu\text{g/g}$ 、幾何平均：14.9 $\mu\text{g/g}$ ）。
- 小学1年生を対象として、乾燥臍帯中のメチル水銀を利用して胎児期曝露を推定し、その影響を調査。同時に小学1年生より毛髪を採取し総水銀の分析を実施。
- アウトカムにはIQや語彙検査（BNT）、聴覚脳幹誘発電位（BAEP）、視覚誘発電位（VEP）、色覚検査を測定。
- 食事調査を実施した112名のうち47人がクジラ肉を食べ、8人がクジラの脂を食べていた。
- 児の毛髪総水銀については米国EPAが示している RfD（1 $\mu\text{g/g}$ ）を91.8%の児が超過していた。乾燥臍帯中のメチル水銀と児の毛髪総水銀の間には、弱い相関があった（ $r=0.3401$ ）。
- 解析では男女別に重回帰分析を用い、共変量は年齢と出生体重。
- IQおよび語彙検査では胎児期および検査時の曝露指標との間に関連性は認められていない
- 電気生理学的指標では、男児においてのみ乾燥臍帯メチル水銀の曝露レベルの上昇に伴ってBAEPのIII-Vピーク間隔 およびVEPのN145潜伏期間が延長し、胎児期曝露の影響が示唆された。さらに、男児の毛髪総水銀濃度が高くなるとBAEPのI-VおよびIII-Vのピーク間隔が延長し、検査時の曝露の影響についても示唆された。ただ、重回帰分析の際に胎児期曝露指標を追加すると、毛髪水銀とBAEP I-VおよびIII-Vのピーク間隔との関連性は消失し、さらに毛髪水銀の増加に伴って動作性IQ（PIQ）は増加（魚摂取の栄養学的効果が示唆）。
- これらの結果から、全体的に負の影響は観察されず、BAEPやVEPといった電気生理学的指標の結果からは男児において胎児期でメチル水銀曝露に対して感受性が高い可能性が示唆されるものの、聴覚および視覚経路の遅延は知的発達には大きな影響を与えない。
- 本研究の限界点として、サンプル数が少ないこと、セレンやDHAなどの影響が考慮されていない。

Table 3

Associations of prenatal and postnatal MeHg exposure with neuropsychological indicators.

a. Associations of prenatal MeHg exposure with neuropsychological indicators									
臍帯MeHg		preserved umbilical cord MeHg log ($\mu\text{g/g}$)							
		boys				girls			
		n	regression coefficient	95% CI	p value	n	regression coefficient	95% CI	p value
IQ	total	61	-4.219	-12.16, 3.722	0.298	67	-4.905	-16.22, 6.410	0.396
	verbal	61	-2.830	-11.22, 5.555	0.508	67	-1.572	-12.69, 9.545	0.782
	performance	61	-5.117	-13.70, 3.466	0.243	67	-8.373	-21.89, 5.142	0.225
BNT	cue (-)	53	-1.960	-5.390, 1.470	0.263	60	-1.840	-7.893, 4.213	0.551
	cue (+)	53	-1.964	-5.735, 1.807	0.307	60	-2.157	-8.287, 3.972	0.490

b. Associations of postnatal MeHg exposure with neuropsychological indicators									
7歳児毛髪Hg		children's hair mercury concentration log ($\mu\text{g/g}$)							
		boys				girls			
		n	regression coefficient	95% CI	p value	n	regression coefficient	95% CI	p value
IQ	total	61	1.774	-7.213, 10.76	0.699	67	-0.779	-11.76, 10.21	0.889
	verbal	61	-1.800	-11.23, 7.632	0.708	67	0.193	-10.54, 10.93	0.972
	performance	61	5.495	-4.143, 15.13	0.264	67	-1.489	-14.69, 11.71	0.825
BNT	cue (-)	53	-0.350	-4.514, 3.813	0.869	60	-2.993	-9.082, 3.096	0.335
	cue (+)	53	-1.094	-5.650, 3.462	0.638	60	-3.136	-9.306, 3.033	0.319

Table 5

Association between mercury levels in children's hair and neurodevelopmental endpoints after adjustment for prenatal MeHg exposure in boys.

children's hair mercury concentration log ($\mu\text{g/g}$) 7歳児毛髪Hg									
adjustment for preserved umbilical cord MeHg levels									
		before 共変量：臍帯MeHgなし				after 臍帯MeHg投入			
		n	regression coefficient	95% CI	p value	n	regression coefficient	95% CI	p value
BAEP	I-V interpeak intervalsa	66	0.150	0.011, 0.289	0.035	66	0.001	-0.36, 0.282	0.126
	III-V interpeak intervalsa	66	0.159	0.052, 0.265	0.004	66	0.001	-0.08, 0.232	0.067
IQ	PIQb	61	11.57	0.665, 22.47	0.038	61	11.57	0.665, 22.47	0.038

Covariants adjusted for ^a age in months of the child, ^b sex, ^c the preserved umbilical cord MeHg levels, ^d the preserved umbilical cord MeHg levels and MeHg levels in the postnatal hair.

BAEP I-VおよびIII-Vの
ピーク間隔の延長

関連性が消失

動作性IQ (PIQ) は増加

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

慢性水俣病の神経学的特徴と加齢に伴う合併症の発生率

- 1986年から1994年にかけて水俣病と診断された患者80名の調査
 - 主要な神経学的所見のうち、感覚障害は患者の98.8%に見られ、四肢に限定は86.3%に認められた。下肢協調障害は60%、視野狭窄は51.9%、難聴は41%に認められた。
 - 加齢に伴う合併症を評価するために、患者はグループI（10～39歳）、グループII（40～69歳）、グループIII（70歳以上）に分けた。
 - 高血圧症、脳血管疾患、器質性眼疾患（白内障を含む）、老人性難聴、変形性頸椎症は加齢に伴い有意に増加した。
 - 前回調査（1981～85年、対象者171名、平均年齢63.5歳）と比較し、合併高血圧症、白内障は減少。脳血管疾患、網膜色素変性症は変化無し。
 - 脳CT異常、老人性難聴、変形性頸椎症、尿糖陽性も増加した。網膜色素変性症以外のこれらの合併症は一般集団と同程度であった。
- これらの結果は、近年の日本の疫学的疾患傾向を反映している。

水俣病（MD）における感覚障害の原因病変の解明：感覚障害の特徴を臨床的に検討

- 古典型MD患者では全例、二点識別が重度に障害されていたが、表在感覚の障害は比較的軽度であった。
- 短潜時体性感覚誘発電位検査では、N20に相当する成分が完全に消失し、N9、N11、N13成分は正常であった。
- 慢性MD患者38名中14名は表在感覚が正常であったが、この14名中10名は二点識別において軽度から中等度の障害を示した。
- 慢性MD患者の二点識別は、表在感覚障害にかかわらず有意に高かった。
- これらの所見は、MD患者の感覚障害が末梢神経ではなく、主に感覚皮質の病変によって引き起こされる可能性を示唆している。しかし、慢性MD患者38名のうち9名が2点識別能力を損なわなかったことから、他の病巣も感覚障害の原因となっている可能性がある。

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

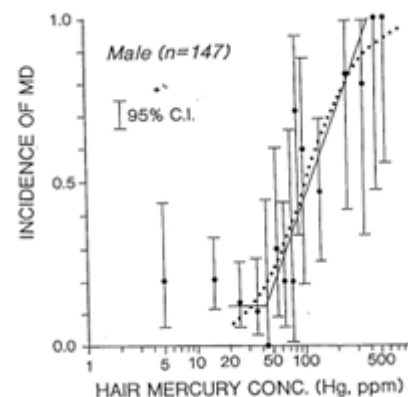
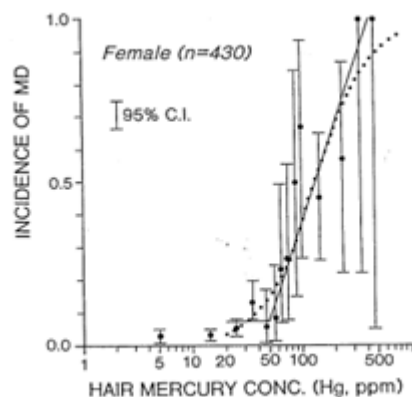
水俣病の重症度は25年間で低下した：多重ロジスティック回帰モデルによる神経学的所見の時系列的解析

- ほとんどの患者において、予測指標の重症度は25年間で低下した。
- 少数の患者において神経学的所見の悪化がみられたが、これは脊髄小脳変性症などの合併症によるものであった。
- 45歳以上の慢性水俣病患者は複数の合併症を有しており、臨床像は複雑であった。
- 感覚障害のみに基づく統計的に確立された判別式を用いて慢性水俣病を判別することは困難であった。結論として、加齢に伴う併存疾患による修飾に伴い、水俣病の重症度は25年間で低下した。

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

新潟水俣病集団発生における成人のメチル水銀曝露の発症閾値

- 新潟県における毛髪水銀濃度と水俣病発症との関係を明らかにするため、線量反応解析をretrospective行った。
- 対象は、水俣病汚染地域に居住する男性205人、女性96人で、うち男性61人、女性73人が水俣病患者である。
- 毛髪水銀濃度の最大値は、被験者の毛髪水銀濃度の測定値に基づいてsingle-compartment modelを用いて推定した。
- 毛髪水銀の発症閾値は、Hockey-Stick Modelにより40～70ppmと推定された。



Y Kinjo, Y Takizawa, Y Ando, Y Shibata, M Watanabe, H Kato. Threshold dose for adult exposed to methylmercury in Niigata Minamata disease. Environmental Science. 3,2 1995 091-101

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

標準化死亡比(SMR)と生命表法による水俣病患者の死因と生存率評価

- 水俣病による死亡者439名（29.6%）のうち、最初の死亡は1954年に発生した。水俣病が初めて報告された1956年に最初のピークがあったが、死亡者の大半は1972年以降に発生しており、2度目のピークが顕著であった。
- 初期の症例とは対照的に、後期の水俣病症例は高齢化し、平均死亡年齢は一般人口と変わらなかった。
- 全死因の死亡率は、一般人口と比較して男女ともに有意に高かった。高齢患者では生存率が有意に低かった。
- 死因別死亡率でも、男性患者では肝疾患と腎炎・ネフローゼ・ネフローゼ症候群、女性患者では腎炎・ネフローゼ・ネフローゼ症候群およびその他の疾患のSMRが有意に高かった。
- 精神病を伴わない老齢のSMRは、男女ともに予想より有意に低かった。

H Tamashiro, M Arakaki, H Akagi, M Futatsuka, L H Roht. Mortality and survival for Minamata disease. Int J Epidemiol . 1985 Dec;14(4):582-8

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

水俣地域住民から採取した保存臍帯中のメチル水銀濃度の歴史的経時変化と地域分布

- 合計325の臍帯データを分析し、水俣地域に生まれた住民のメチル水銀の時間的および空間的分布を推定した。対照として、宮崎、鳥取、秋田、対馬（長崎）、福岡、東京のデータを使用した。
- メチル水銀濃度の上昇（ ≥ 1 ppm）は、主に1947年から1968年の間に生まれた住民に見られた。そのピークは、水俣でのアセトアルデヒド生成のピークと一致していた。
- メチル水銀濃度は、1968年に停止したアセトアルデヒド生成の減少に合わせて減少し始め、その後、メチル水銀レベルは徐々に対照レベルまで低下。
- メチル水銀濃度の上昇は、最初に水俣地区で観測され、続いて出水、津奈木、芦北の各地区で観測され、メチル水銀汚染の地域分布は時間経過に依存していることが示された。

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

メチル水銀汚染が児の出生性比と死産性比に及ぼした影響

- メチル水銀汚染が最も深刻だった1955年から1959年の5年間のうち4年間、市の住民において出生時の男児の数が少ないことが観察された。
- 1950年から1969年までの5年間ごとの子孫の性別分布は、出生証明書のデータを使用して、市の全人口、最も蔓延した地域、漁師（最も多く曝露された職業グループ）および水俣病患者について計算した。
- 熊本県の死産に関する人口動態統計を使用して、市の人口における死産胎児の性比も計算した。
- メチル水銀汚染が最も深刻だった1955年から1959年にかけて、市内の人口全体、漁師、および市内の水俣病患者の母親の男児出生数の減少が観察された。
- 当時、市内の男児死産率の増加が観察された。男児は女児よりも汚染の影響を受けやすく、出生時の男児数が少ない原因の可能性がある。

M Sakamoto, A Nakano, H Akagi. Declining Minamata Male Birth Ratio Associated with Increased Male Fetal Death Due to Heavy Methylmercury Pollution. Environmental Research Volume 87, Issue 2, October 2001, Pages 92-98

埋立地に存在する汚泥/堆積物の漏出時における潜在的リスクの評価

- 保存された水俣湾へドロサンプル（水俣湾環境修復プロジェクト終了前に湾内から採取、 $n=4$ ）と最近の水俣湾堆積物（湾の浚渫区域外で採取、 $n=5$ ）中の水銀の化学種別分析を行った。
- THg（乾燥）濃度の中央値は、保存されたヘドロでは $241 \mu\text{g/g}$ 、最近の水俣湾堆積物では $6.1 \mu\text{g/g}$ 、対照では $0.18 \mu\text{g/g}$ であった。
MeHg濃度の中央値（THg中のMeHgの割合）は、それぞれ 108 ng/g （0.031%）、 3.7 ng/g （0.12%）、 0.71 ng/g （0.41%）であった。
- 全サンプルで、THg 濃度が増加すると MeHg% は指数関数的に減少。
海水への THg の抽出率は MeHg の抽出率よりはるかに低かった。
- 抽出された MeHg は保存ヘドロでは 0.86%、最近の水俣湾堆積物では 4.57%、対照では 7.89% であった。
- 最も高い THg 濃度を含む保存ヘドロ中の水銀の主な化学形態は、安定した β -硫化水銀 (HgS) であることがわかり、万が一ヘドロが水俣湾に流出しても水俣病を再度引き起こすリスクは低いと考えられた。

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

水俣病患者の健康状態調査研究：ADLおよび自覚症状を中心として

- 水俣病発生から30年後の加齢に伴う水俣病認定患者の健康状態の変化に関する、現在のADLや自覚症状に関する面接調査。
- 40歳以上の認定患者(患者群)については、メチル水銀 非汚染地域の40歳以上の住民を対照群とし、自覚症状の出現頻度を比較した。
 - 1) 30歳未満の患者(出生前曝露)は30歳以上の患者(出生後曝露)よりADLは劣り、自覚症状の分布も両群で異なった。
 - 2) 患者の自覚症状は加齢と共に出現頻度が増加する群と、出現頻度が高く年齢間の変動が小さい群(一定群)に二分できた。
- 対照群の自覚症状は全て加齢と共に出現頻度が増加する傾向を示した。
- 本研究により、患者群と対照群における自覚症状の出現頻度の相違が明確になり、メチル水銀曝露の後影響の評価には曝露時年齢の考慮が重要であることが示された。

金城 芳秀, 東 博文, 中野 篤浩, 坂本 峰至, 二塚 信, 前田 和甫. 水俣病患者の健康状態調査研究 ―ADLおよび自覚症状を中心として―. 民族衛生/57 巻 (1991) 4

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jshhe1931/57/4/57_4_142/_pdf/-char/ja

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

日本人の現在の毛髪水銀濃度

- 対象地区：日本各地の一般住民を対象に水俣、熊本、鳥取、和歌山、千葉の5地区
- 毛髪は、年齢、性別、普段食べる魚の量と種類、毛染めの有無、人工毛髪のパーマ（パーマネントウェーブ）の有無に関する質問票とともに、各地区の美容院、理髪店、小学校で1999-2002年に採取。
- 採取された3686の毛髪の総水銀濃度の幾何平均は、男性の方が女性よりも有意に高く、それぞれ $2.55 \mu\text{g/g}$ と $1.43 \mu\text{g/g}$ であった。
- 毛髪水銀の平均値は、男女とも5地区の中で千葉が最も高かった。
- 重回帰分析の結果、年齢、性別、毎日の魚の消費量、普段食べている魚としてのマグロとカツオ、人工ウェーブ、千葉の居住地域と水銀レベルの間に有意な相関関係があることが明らかになった。

A Yasutake, M Matsumoto, M Yamaguchi, N Hachiya. Current hair mercury levels in Japanese: survey in five districts. Tohoku J Exp Med 2003 Mar;199(3):161-9.

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

胎児性水俣病患者の現在のActivity of Daily Living (ADL) 実態と15年前との比較

- 2002年に行った調査結果を基に、胎児性患者の家族構成、医療状況、ADLを解析して現状の問題把握を行い15年前との比較を行なった。
- 平均年齢は男性で 45.5 ± 3.5 歳(n=20)、女性で 46.1 ± 1.9 歳 (n=11)、患者の家族の平均数は2人で、15名の患者は独居。
- 患者の約50%が歩行や入浴ができず、30~40%が1人で食事、排泄、着替え、洗顔ができなかった。約80%は日常会話のある程度理解可能。
- しかし、自分の要求や考えを表現する、アイデアを実行する、出来事を記憶する、及び一般人のように生活する能力は、日常会話を理解する能力よりも有意に劣っていた。
- 22人の患者のADLは過去15年間で有意な変化はなかった。しかし、2人の患者は移動のADLが急速に低下し、2人の患者は50歳を前に死亡。
- 胎児性水俣病患者にとって、日常生活における適切なケア、患者の個別の健康管理は緊急の課題である。

劉 曉潔, 坂本 峰至, 加藤 たけ子, 岡元 美和子, 有村 公良.胎児性水俣病患者の現在のActivity of Daily Living (ADL) 実態と15年前との比較およびコミュニケーション障害に関する研究. 日本衛生学会誌2007 年 62 巻 3 号 p. 905-910

■ メチル水銀にかかる疫学調査例

フェロー諸島出生コホート研究

- スコットランドの北に位置し、魚介類を多食。
- 南デンマーク大学研究グループにより、1986～1987年に出生した1,022組の親子を対象に、7歳及び14歳で神経発達検査を実施。
- 神経心理・行動学的検査では、記憶、注意、言語などの能力が、母親毛髪メチル水銀（平均値 $4.3\mu\text{g/gm}$, $0.2\text{--}39.1\mu\text{g/g}$ ）の増加に伴って低下。
- 聴性脳幹誘発電位の潜時延長や自立新規の機能低下も、出生時のメチル水銀の増加により観察。

セイシェル小児発達研究

- アフリカ大陸の東に位置するインド洋の島国であり、魚介類を多食。
- 米国ロチェスター大学研究グループにより、1989～1990年に出生した779組の親子を対象に実施。
- 神経心理・行動学的検査を5.5歳及び9歳で行ったところ、母親毛髪メチル水銀（平均値 $6.8\mu\text{g/gm}$, $0.5\text{--}26.7\mu\text{g/g}$ ）と神経発達影響との間に一貫性のある関係はみられず。わずかに9歳児の毛髪メチル水銀濃度と注意欠陥多動性障害指標の間に有意な関連がみられるのみであった。

セイシェル小児発達栄養研究

- 229組の親子を対象に、魚由来の母親血漿n-3多価不飽和脂肪酸（PUFA）が小児神経発達に有益な影響を及ぼすことを立証。（2008年発表）
- 母親の出産時毛髪メチル水銀濃度を調整すると、その有益影響が消失。n-3 PUFA値で数理統計学的に調整すると、毛髪メチル水銀濃度と神経発達の間には有意な負の関連が見られた。
- 魚摂取量の増加により、セイシールの母親の血漿n-3 PUFA及び毛髪メチル水銀は平行して高くなり、有意な相関が見られた。

水俣病研究紹介

環境省 国立水俣病総合研究センター
坂本峰至



NIMD
N ational
I nstitute for
M inamata
D isease

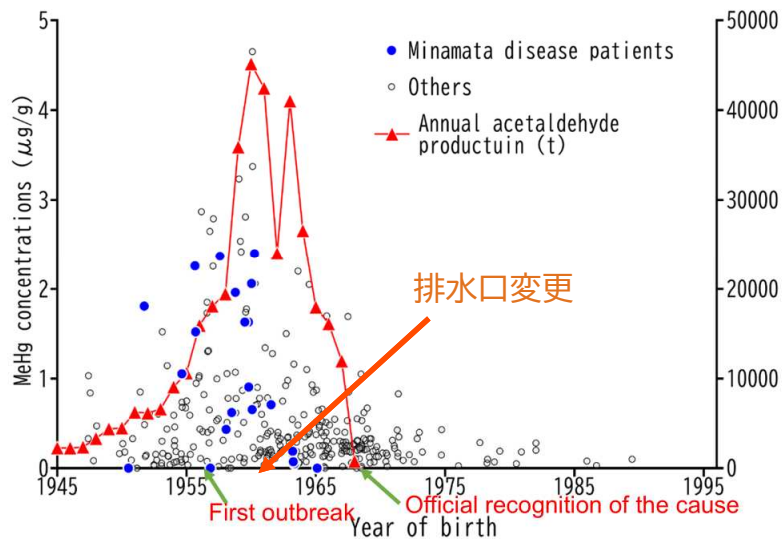
公式確認から政府見解までの歴史

- 1954 猫てんかんで全滅の新聞報道
- 1956 5月脳症患者4名の報告(公式確認)
- 同年8月 熊本大学「水俣奇病研究班」調査開始
 - 同年11月 ある種の重金属汚染魚類が原因と発表
 - 1958 水俣湾→水俣川へ排水口の変更→汚染拡散
 - 1959 有機水銀説、細川一ネコ400号発症確認(公表せず)
- 1961 武内忠男による胎児性水俣病の診定
- 1965 新潟で第二の水俣病発生
- 1968 原因物質はメチル水銀化合物と公式見解

保存臍帯調査で汚染推移が明確に



メチル水銀の半減期は約70日で、汚染が激しかった1955-59年当時の指標は残存せず保存臍帯が過去に遡って汚染状況及び出生時の曝露量を把握できる曝露指標(原田正純)



18

水俣の男児出生数低下

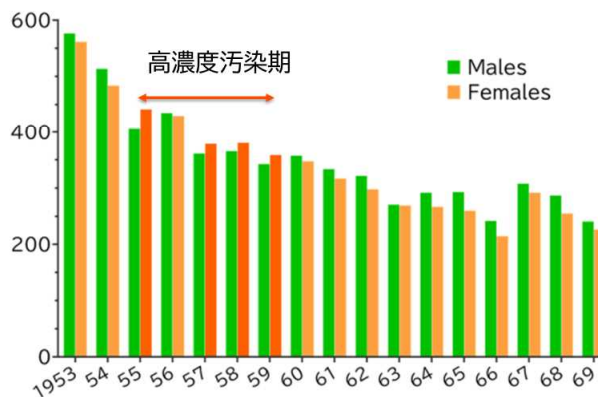
出生数・性比の異常

水俣病多発地区の出生数と胎児性患者発生数			
年次	男	女	計
1955	24	26 (1)	50 (1)
1956	16 (2)	28 (4)	44 (6)
1957	15	26 (4)	41 (4)
1958	30 (1)	23 (1)	53 (2)
1959	17	15	32
計	102(3)	118(10)	220(13)

熊大神経精神科調べ

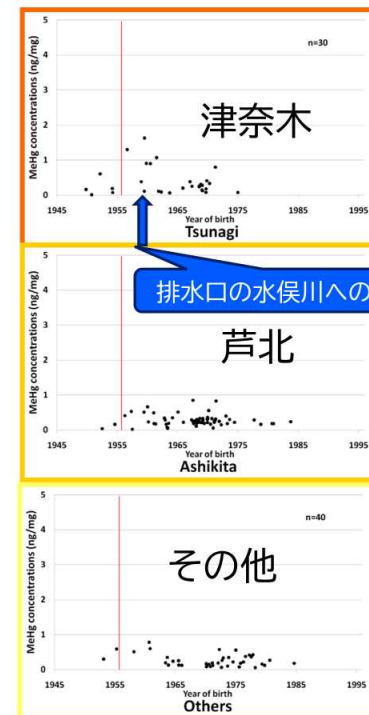
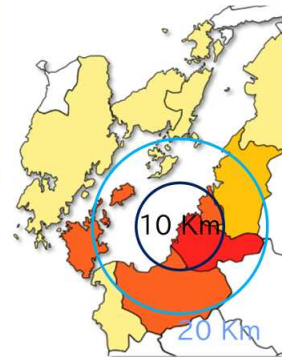
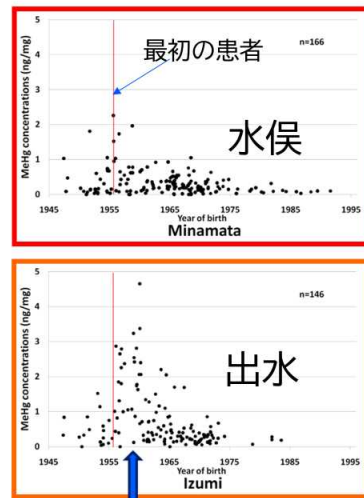
?

水俣市の出生性比低下



8 / 55

汚染地域の拡散

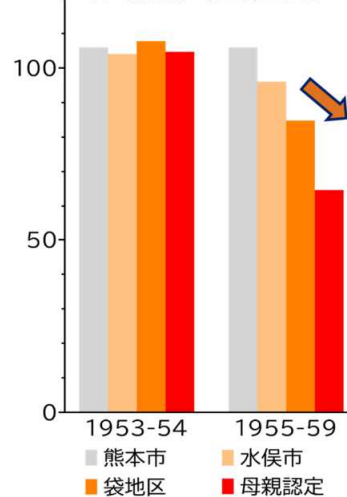


19

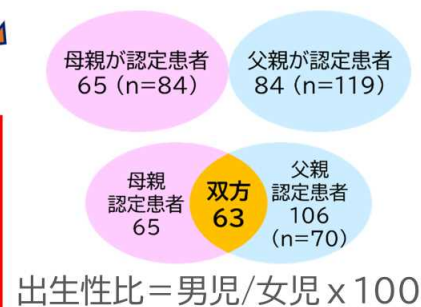
男児出生性比と死産性比

死産による男児の過剰死亡が男児出生性比低下の原因！！

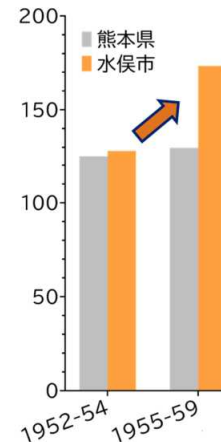
地域別出生性比



認定患者出生性比



死産男児性比



9 / 55



水俣湾高濃度水銀汚泥リスク

今も眠る水銀汚泥



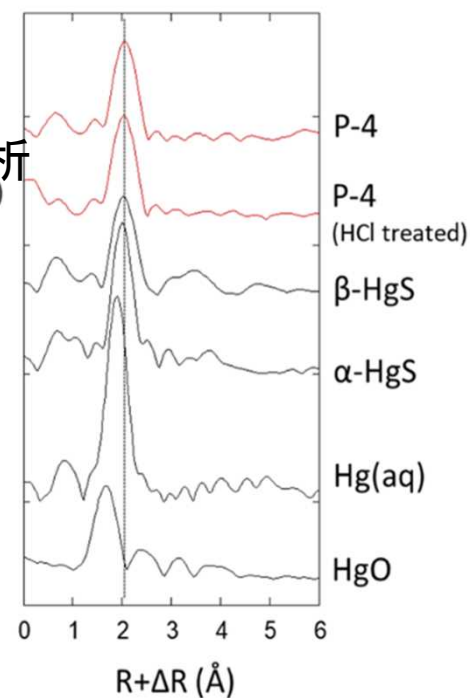
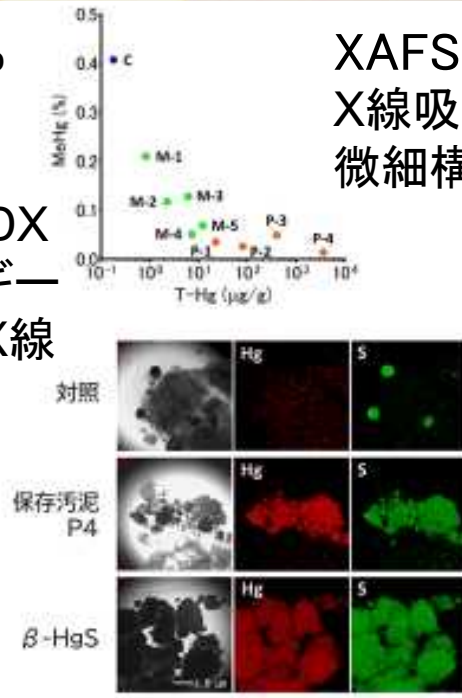
浚渫前の保存汚泥の化学形態別水銀解析 (科研費)

- C: 対照
- M: 現在の水俣湾 (非浚渫)
- P: 保存ヘドロ

MeHg%

TEM-EDX
エネルギー分散型X線分光法

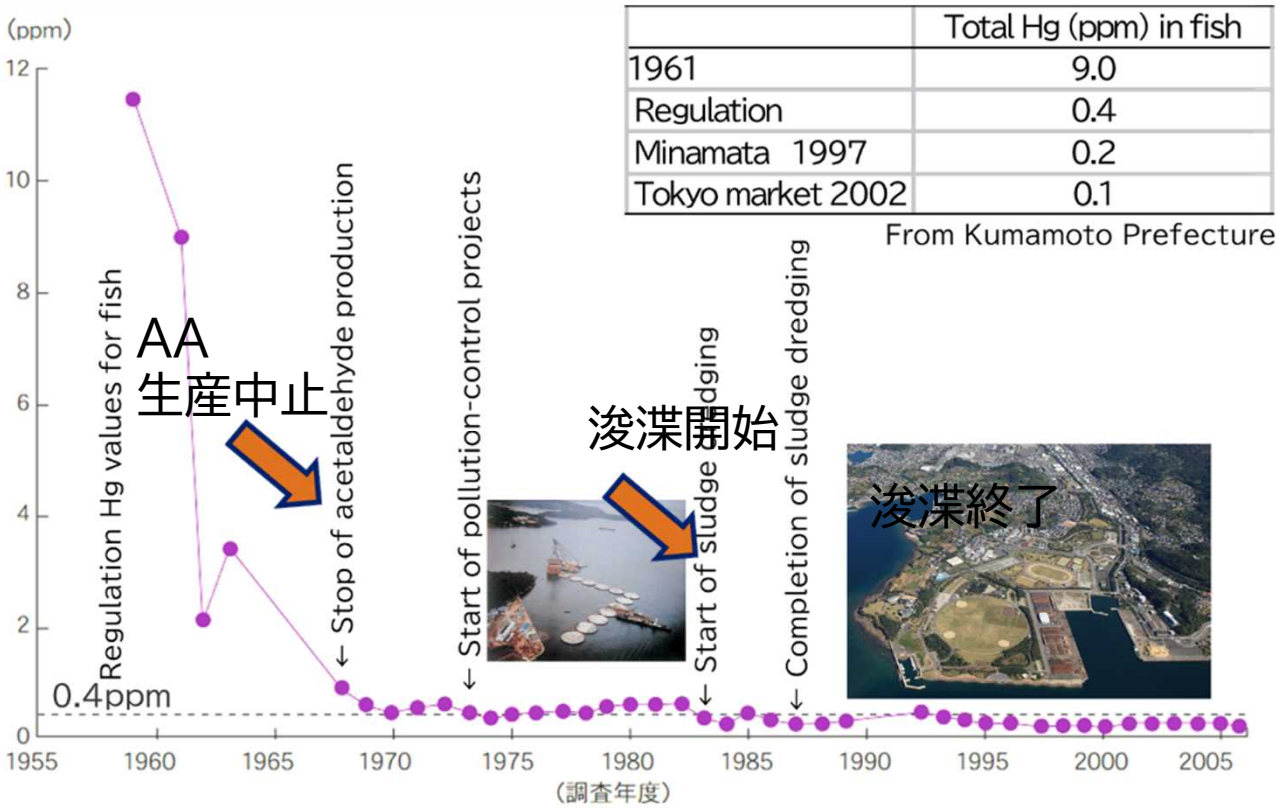
XAFS
X線吸収微細構造解析



安定な硫化水銀が主要水銀で、メチル水銀0.05%未満(108 ppb)でMeHgの溶出率は0.1%

万一、浚渫汚泥漏出があっても、水俣病を再度引き起こすリスクは低いと考える

魚介類水銀：汚泥からのメチル水銀移行は低い



水俣病資料館「水俣病 ―その歴史と教訓― 2015」より抜粋

水俣湾や阿賀野川流域でAA生産停止後魚介類の水銀濃度は急激に低下している

水俣湾の水銀多量有する汚泥土を用いて飼育した魚介類中への水銀蓄積

第 10 表 有毒化試験魚貝類への経日的水銀蓄積量

ハオコゼ飼育日数	対照	5日間	10日間	15日間	20日間	25日間	30日間	同左へい死
水銀量(ppm)	0.00	0.00	0.08	0.12	0.12	0.21	0.23	0.47

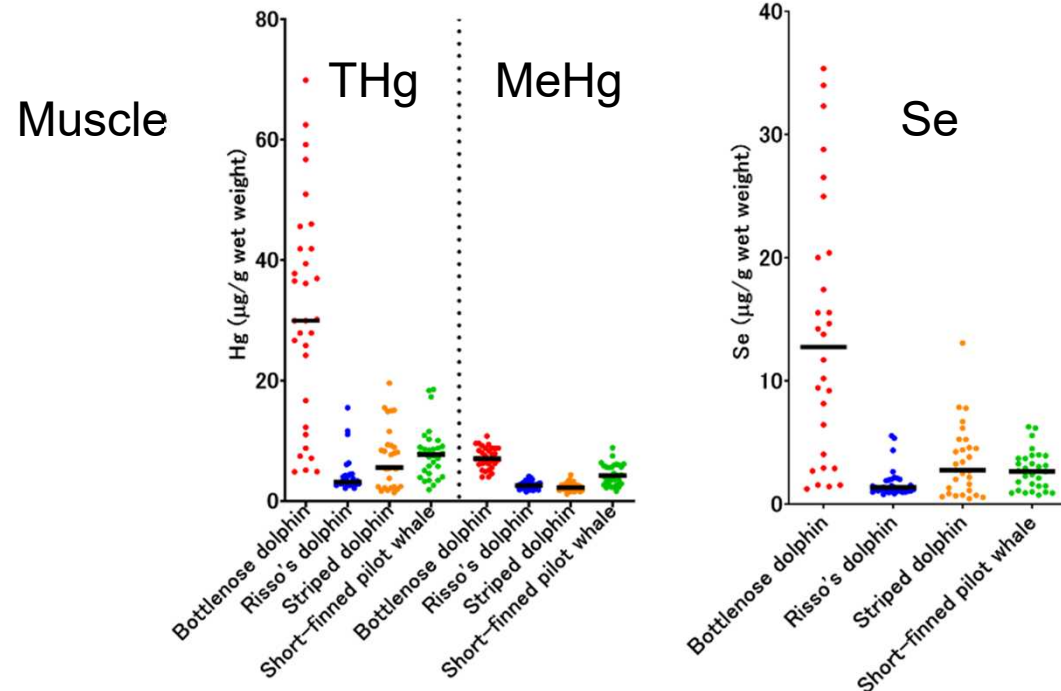
アサリ飼育日数	対 照	10日間	20日間	30日間	40日間
水銀量(ppm)	0.20	1.64	2.02	0.42	0.52

湿重量 260 ppm の底生汚泥を入れた容器内に空気で懸濁させて無投餌で飼育。(喜田村ら、熊本医学会雑誌昭和32年)

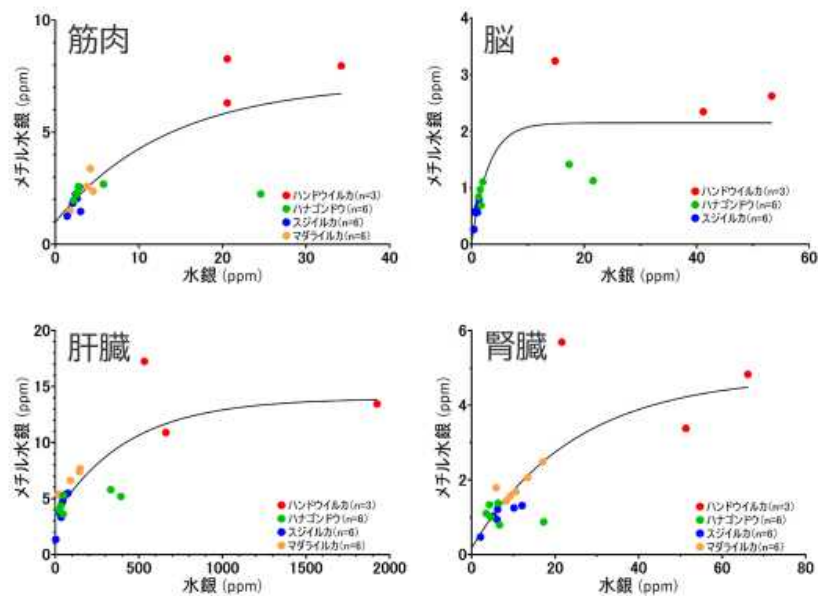
水俣湾魚類の水銀大量蓄積は、汚泥中よりの直接移行と認められないと報告された

歯クジラ肉リスク

クジラ肉は
危険との報道！

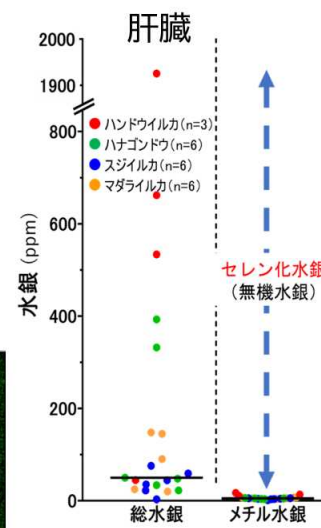
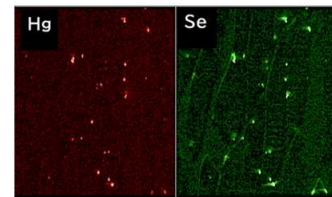


総水銀とメチル水銀濃度



歯鯨の水銀の健康リスク

電子プローブマイ
クロアナリシスで
水銀とセレン共存
を証明

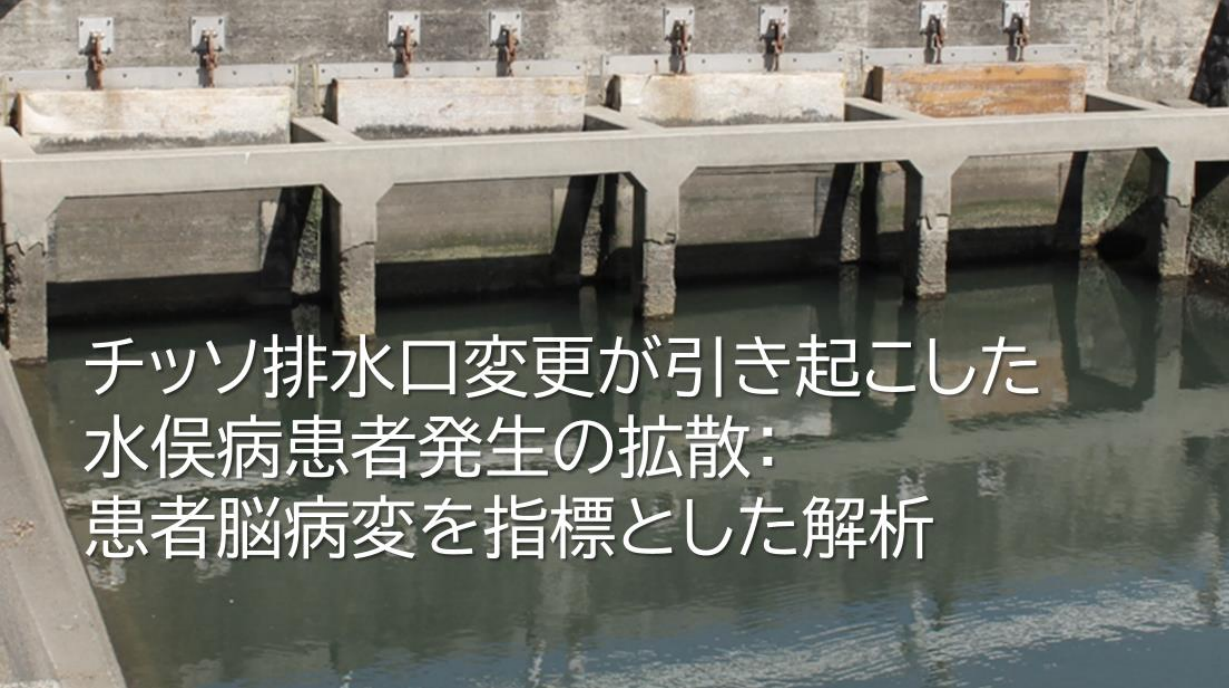


高い総水銀濃度に比べて、
メチル水銀濃度は低く、殆ど
は不活性なセレン化水銀

総水銀濃度から考えられる
ようなクジラ自身やヒト成人
への健康影響は考えにくい



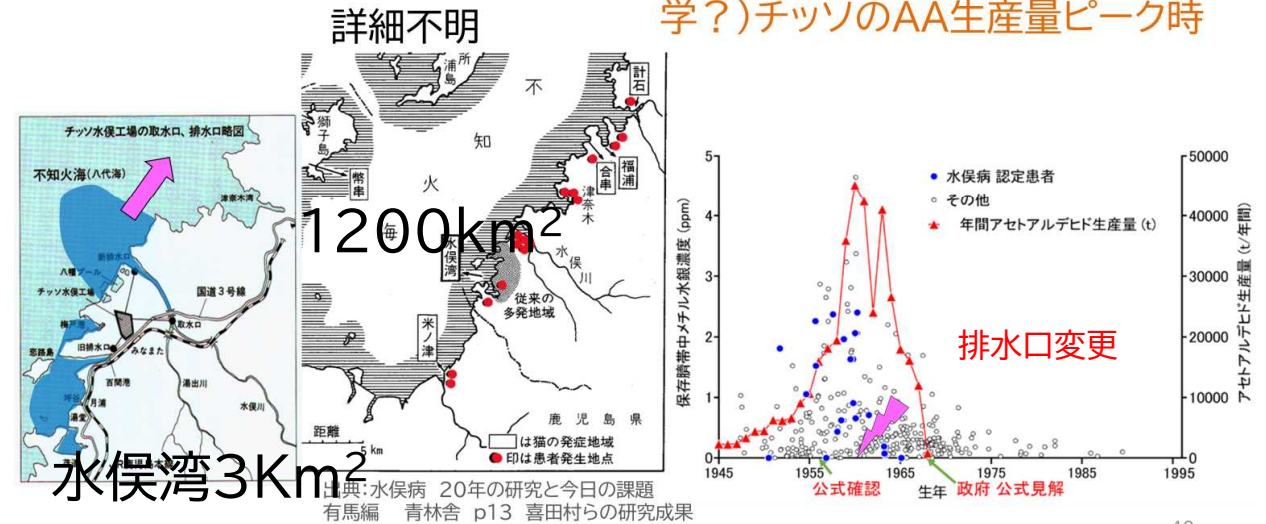
健康調査で水俣病と同様な症状は観察されなかった



チッソ排水口変更が引き起こした
水俣病患者発生の拡散：
患者脳病変を指標とした解析

排水口変更と汚染拡散

1958年9月から翌年10月まで約
1年間、水俣川河口へ排水(介入疫
学?)チッソのAA生産量ピーク時



新潟水俣病



新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～ホームページより

- 公式確認:熊本水俣病発生に遅れること約9年
- 1965年阿賀野川流域に汚染源不明の有機水銀中毒患者散発
- 旧昭和電工から下流域ほど認定患者数が多い傾向。但し、日本海沿岸地域での発生報告は無し

背景・方法と目的

背景:時間的変遷、発生の地域分布、重症度の詳細な検討は無く、現在も不知火海沿岸広域で健康調査の実施を求める声がある

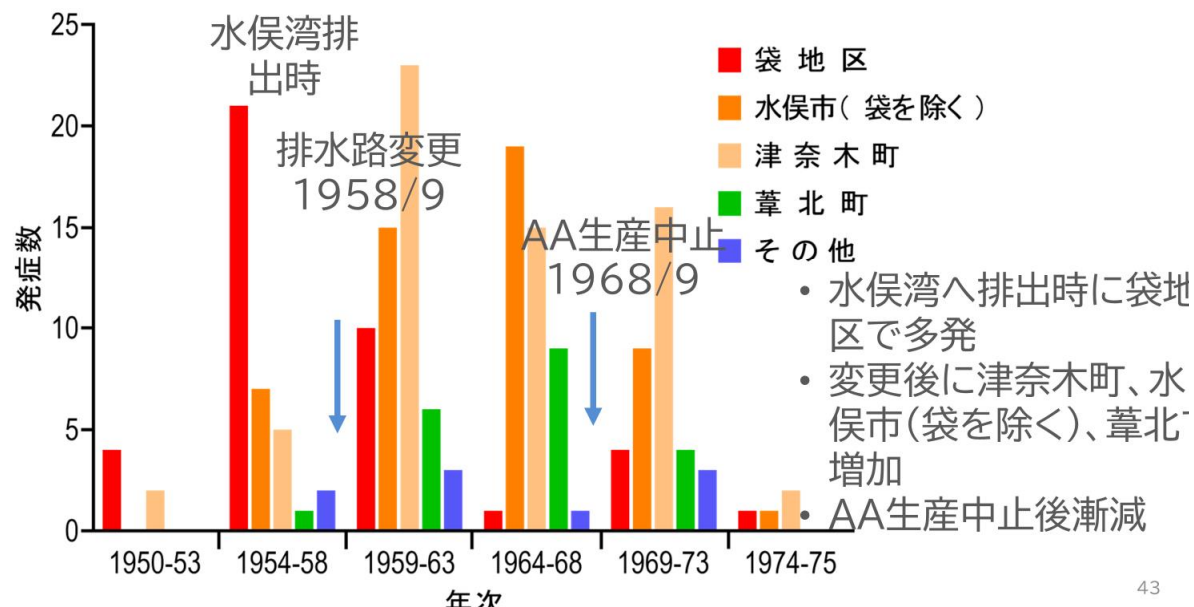
方法:発症時期、住所、病理の重症度を確認可可能な認定患者 184例 (Takeuchi, T., Eto, K., 1999. The Pathology of Minamata Disease, 衛藤光明集計)

発症時期:四肢末端の痺れ出現

病変の程度:大脳と小脳病変(軽度から重度までを1から5で評価)で、どちらかが4以上を重症、3以下を中・軽症と定義

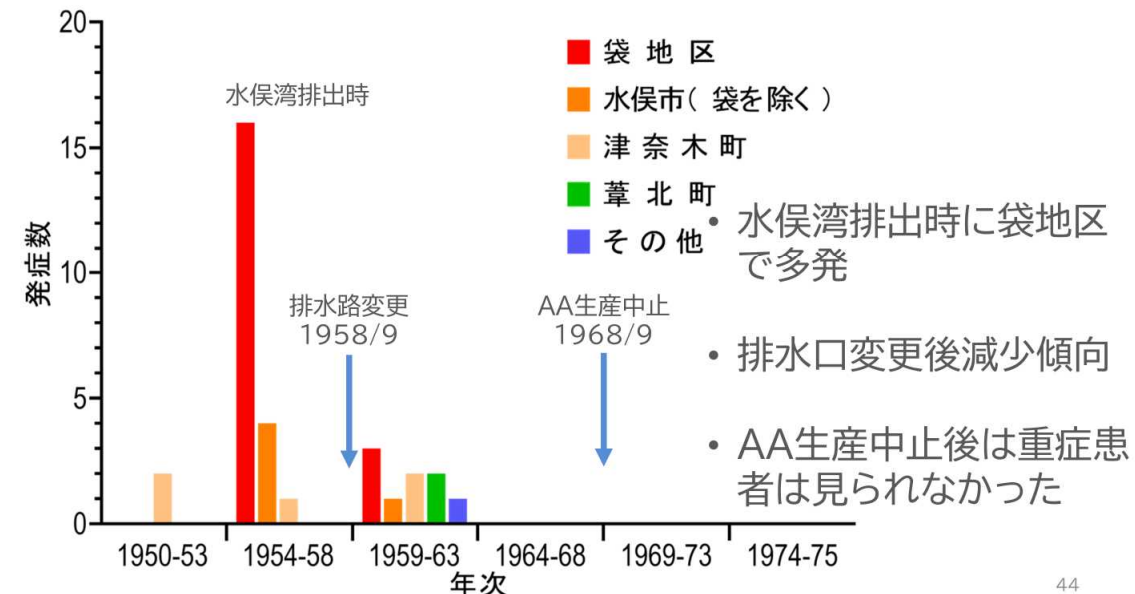
期間と地域:1954から1970年を中心に5年間ごと、袋地区、水俣市(袋を除く)、津奈木町、葦北、その他の5地域

年次、地域別全患者発症数



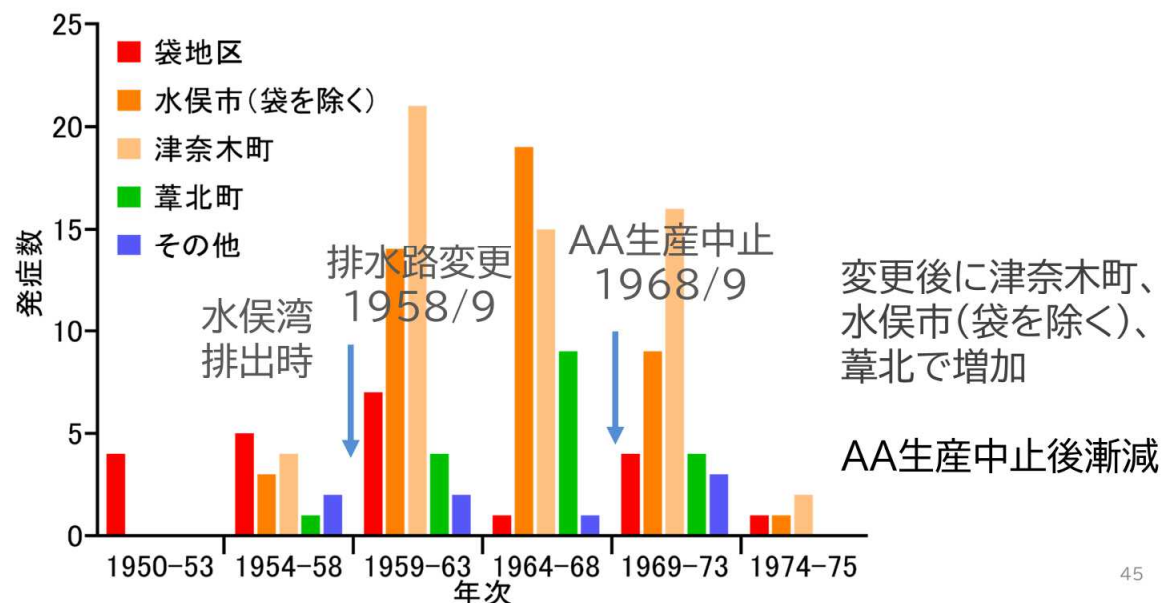
43

年次、地域別重症者発症数



44

年次、地域別 中・軽症者発症数

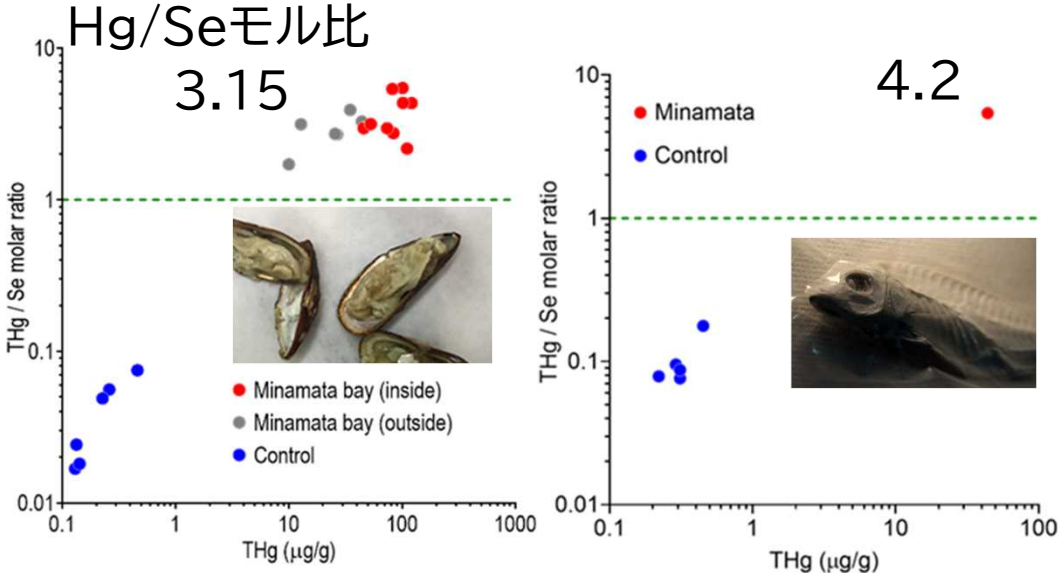
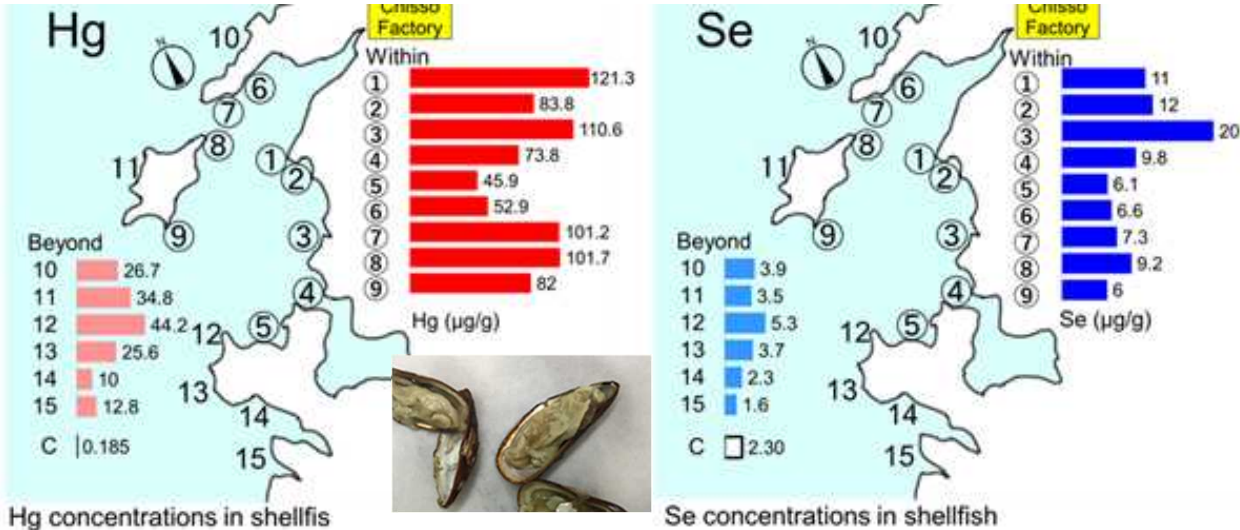


45

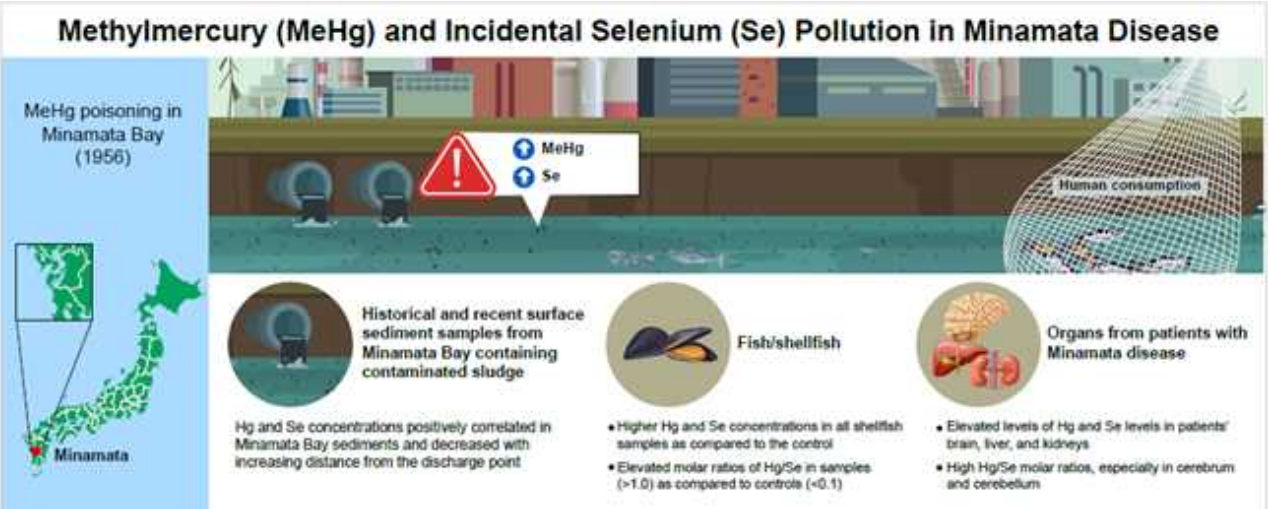
患者拡散の結果(長所と限界)

- 水俣湾排水時は、袋地区で高症患者が多発が特徴的であった
- 水俣川への変更後は、水俣以北へ患者の発生が拡散したが中・軽症が多い傾向が認められた
(次は、軽症：重症度1の出現数も検討したい)
- 悉皆やサンプリング調査でない、例数が少なく偏った集団であるという選択バイアスを含み、発症率の算出に堪えない。更に、水俣以南への患者拡散について検討不可能
- 発症時期と重症度が評価可能な患者発症に関する貴重なデータと考えるが、慎重な評価が必要と思われる

メチル水銀とセレンの魚介類蓄積とHg/Seモル比



工場からは多量のメチル水銀に加え
セレンも流失し魚介類に蓄積（新事実）



Selenium in Ocean Fish Protects Against Mercury

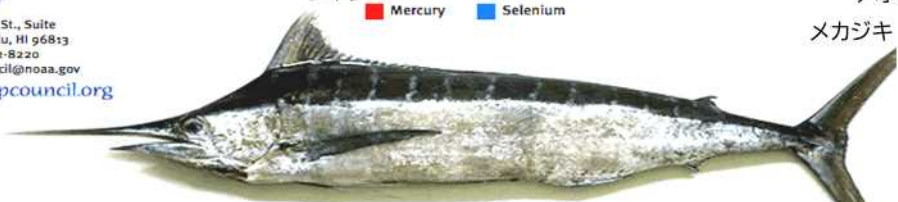
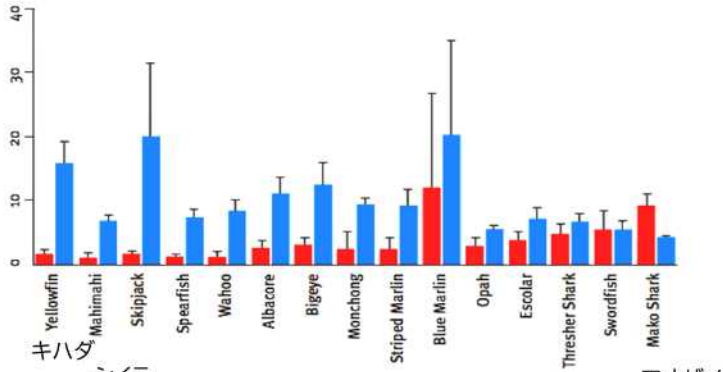
Selenium, an essential element in our diet, is vital to the body's antioxidant system and proper immune system function. It has anti-cancer effects and is known to detoxify metals including mercury.¹

Regardless of the amount of mercury in fish, if the selenium level is higher, the fish is safe to eat. On the graph, molar concentrations of mercury and selenium in 15 Hawaii fish species are expressed as means ± standard deviations. The graph lists the species from lowest to highest mercury-to-selenium ratios.²

All of our popular ocean fish are an excellent source of health promoting selenium as well as high quality protein and omega-3 fatty acids. (Mako shark is not popular or commonly eaten in Hawaii.) Our favorite fish are more likely to protect against mercury toxicity, than cause it.



1164 Bishop St., Suite 1400 Honolulu, HI 96813
Tel (808) 522-8220
info.wpcouncil@noaa.gov
www.wpcouncil.org

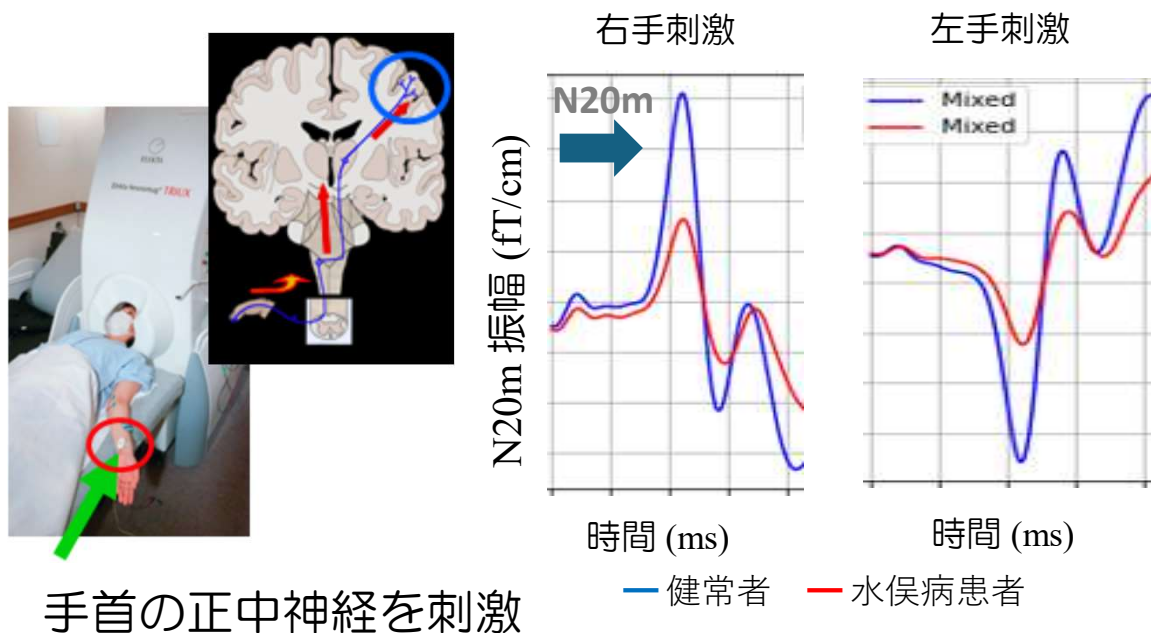


研究のまとめ

- 保存臍帯を使った経時的・地域的メチル水銀曝露評価
- 水俣における出生性比の低下
- 成人と胎児性患者の脳傷害部位と症状の違い
- メチル水銀の脳・胎児への移行機序
- 水俣湾の高濃度水銀の健康リスク
- 歯クジラの健康リスク
- チッソの排水口変更と患者の拡散
- 水俣湾にセレンも流されていたという新事実

■ 脳磁計 MEG : Magnetoencephalography

- 国立水俣病研究センターにおいて、水俣病患者42名、健常者289名を対象に、脳磁計（MEG）により体性感覚誘発磁場を測定
- 健常者では、刺激20ms（0.02秒）後に観察される最初のピーク（N20m）が出現
- 中枢性感覚障害を呈した脳卒中急性期でN20mの振幅が低下し、感覚障害が改善した慢性期でもN20mの振幅の低下は持続→N20mは慢性期の水俣病の感覚障害を評価できる指標になる可能性がある
- 水俣病患者では、中枢性感覚障害を呈した慢性期の脳卒中で見られたN20mの振幅の減弱ないし消失に加えて、刺激に反応しない応答や異常な応答であるP20m応答の増加や情報伝達に重要なガンマ帯域反応が弱いことが認められた



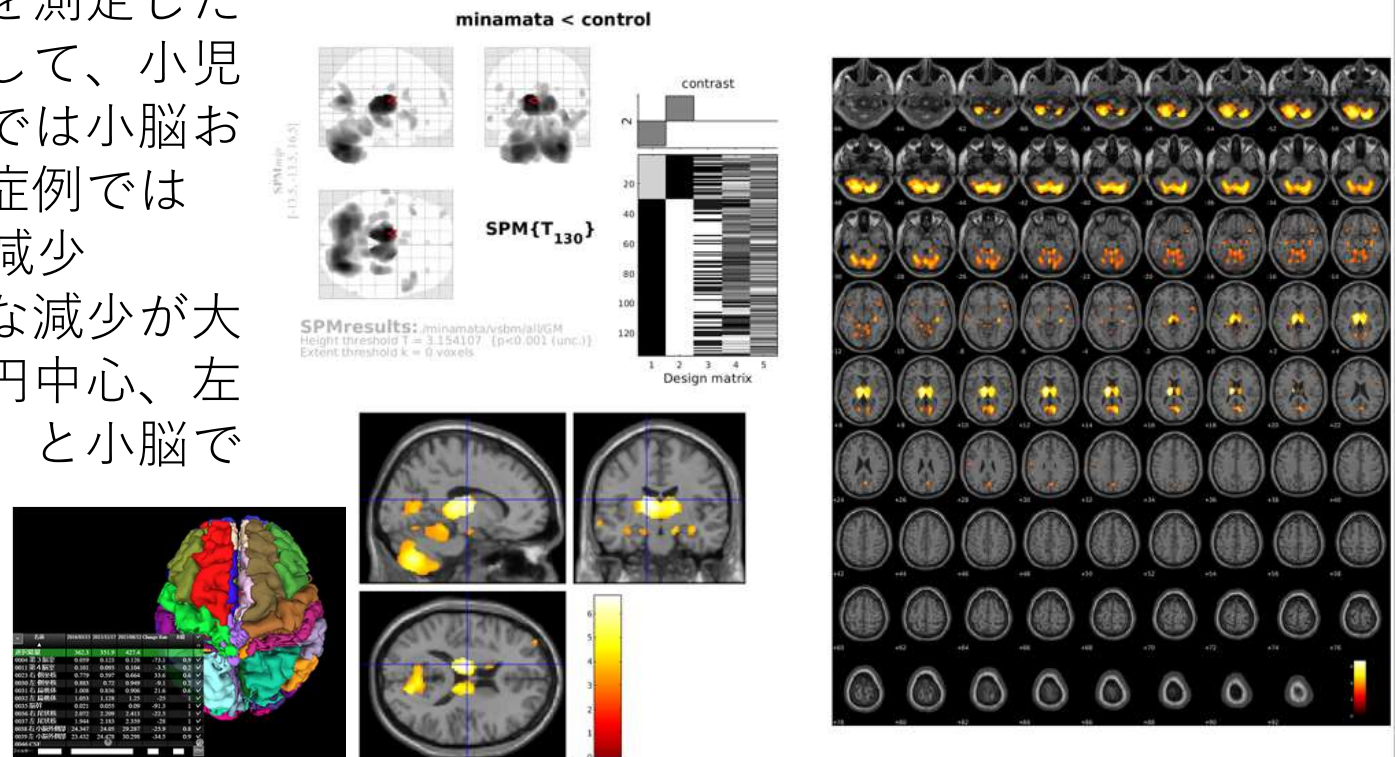
<脳磁計とは>

脳の神経細胞が活動し、電流が流れると微弱な磁気が発生。そのわずかな磁気をリアルタイムに計測し、脳の活動状況を捉える機器。

- 脳磁計とMRIの組み合わせにより、水俣病認定患者のうち約8割でメチル水銀による影響の可能性を示す反応を検出（感度8割）
- 健常者において約1割で同様の反応を検出（特異度9割）

■ 磁気共鳴画像 MRI: Magnetic Resonance Imaging

- 水俣病患者の全脳を対象として、磁気共鳴（MR）イメージングによって神経解剖学的差異の探索的検討（全脳ボクセルベースの形態計測（VBM）解析により、灰白質と白質の容積差を比較）を行なった。
- 調査対象者は水俣病患者37名と対照群141名からなる症例対照研究
- 水俣病患者：胎児期曝露群、15歳未満で曝露を受けた小児群、15歳以上で曝露を受けた成人群の3つのカテゴリー各10名（計30名）
- 対照群：水俣市以外に在住で神経疾患などがなく、年齢と性別をマッチさせた健康人を、それぞれ53名、37名、15名を対象（計105名）
- 灰白質と白質の容積差を測定したところ、健常者と比較して、小児型および成人型の症例では小脳および視覚野、胎児型の症例では視床で灰白質が大幅に減少
- 白質は、小児型で顕著な減少が大腦領域（視覚野、半卵円中心、左の側頭葉、右の前頭葉）と小脳で大幅に減少



*Hirai T, Abe O, Nakamura M, Inui S, Uetani H, Ueda M, Azuma M. Brain structural changes in patients with chronic methylmercury poisoning in Minamata. Brain Res. 2023 Apr 15;1805:148278.

- 「令和5年度重金属等の健康影響に関する総合的研究（水俣病に関する総合的研究）」において「**脳磁計とMRI等を活用した健康調査のあり方の検討**」を掲げて研究公募手続きを行い、以下の研究班が採択

- ・ 研究課題名：脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な課題整理を行うための研究
- ・ 研究予定期間：3年
- ・ 主任研究者：中村 好一（宇都宮市保健所 保健医療監）
研究協力者：水澤 英洋（国立精神・神経医療研究センター理事長特任補佐）
小佐見 光樹（自治医科大学助教）
高橋 邦彦（東京医科歯科大学教授）
立森 久照（慶應義塾大学特任教授）
中村 政明（国立水俣病総合研究センター臨床部長）
平井 俊範（熊本大学教授）
- ・ 研究の概要：脳磁計とMRI等を活用した、特措法第37条第1項の健康調査研究を行う上での技術的な課題や手法等について、公衆衛生学、生物統計学、脳神経内科学の観点を踏まえて、調査デザインの検討等を行う（脳磁計とMRIに関する研究についての評価分析や過去に実施された調査及び研究の情報収集・分析を行った上で、健康調査研究を行う場合の対象地域の設定、サンプリングの方法（inclusion criteria, exclusion criteria、募集方法など）、標本数の設定について、調査デザインの検討を行う。また、期待される結果、結果の解釈方法、limitation等を検討するとともに、調査を行う場合の技術的な課題を整理する。その後、その技術的な課題への対応策を検討するとともに、適切な調査デザインの設計を行う）。

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	48	アルキル水銀のマウス・ラットにおける生物学的半減期について	喜多村正次
昭和	48	無機水銀による水質汚染と生物汚染経路に関する研究	南部祥一
昭和	48	人体内水銀の蓄積に関する研究	西村秀雄
昭和	49	水俣病の臨床的研究－水俣病患者の頸部X線所見についての考察	荒木淑郎
昭和	49	水俣病の色覚	井形昭弘
昭和	49	水俣病患者の自覚症状の推移	井形昭弘
昭和	49	水銀汚染微量地区における健康障害	井形昭弘
昭和	49	有機水銀中毒と脳血管性障害	井形昭弘
昭和	49	サルにおける微量メチル水銀中毒の神経病理学的研究	生田房弘
昭和	49	実験的メチル水銀中毒における自律神経障害の電顕的研究	生田房弘
昭和	49	有機水銀中毒症の診断に対する平衡機能検査の意義について	猪初男
昭和	49	生体の関与するメチル水銀の生成とその蓄積に関する研究	井村伸正
昭和	49	新潟水俣病の固視微動について	岩田和雄
昭和	49	VERIによる視野障害の他覚的評価	岩田和雄
昭和	49	ラットにおける放射性水銀化合物の全身及び臓器別半減期	上田喜一
昭和	49	低級アルキル水銀の毒性と生体内動態について	喜多村正次
昭和	49	有機水銀中毒の臨床的研究－とくに診断について－	黒岩義五郎
昭和	49	無機水銀投与ラットに及ぼすメチルB12の影響	黒岩義五郎
昭和	49	最急性期に属するエチル水銀中毒の一部検例神経病理学	白木博次
昭和	49	メチル水銀の脳蛋白合成に与える影響	菅野浩
昭和	49	Thiolaの体内水銀排泄促進効果の検討	高橋等
昭和	49	メチル水銀の腸管吸収に及ぼす重金属イオンの影響	高橋等
昭和	49	メチル水銀とセレンの拮抗に関する実験	高橋等
昭和	49	有機水銀投与ラットにおける軸索流について	高橋康夫
昭和	49	脳の二つの酵素活性に対するメチル水銀の影響	高橋康夫
昭和	49	生体内におけるメチル水銀の蓄積分布 1)腹腔内投与したメチル水銀の鯉の脳における生物学的半減期	滝澤行雄
昭和	49	水俣病認定患者・申請患者及び疑似患者等の主要臓器内水銀含量	滝澤行雄
昭和	49	Autoradiographic techniqueを応用した組織細胞内金属(Hg)の組織化学的証明について	武内忠男
昭和	49	急性発症の小児水俣病長期経過の一部検例	武内忠男
昭和	49	実験的メチル水銀中毒症の発症機構	立津政順
昭和	49	水俣病の臨床知見補遺	立津政順
昭和	49	有機水銀中毒とパルキンソニスムス	立津政順
昭和	49	水俣病の眼球運動異常の研究-特に滑動性前庭眼球運動反射とComputer EOGについて	筒井純 岡村良一
昭和	49	新潟水俣病における毛髪水銀値と臨床症状	椿忠雄
昭和	49	メチル水銀の人体汚染に関する研究-MPG6カ月投与と水銀尿中排泄効果-	椿忠雄
昭和	49	老人健診よりみた水俣病診断の問題点	徳臣晴比古
昭和	49	有機水銀中毒患者の電気生理学的検査による研究	永木譲治
昭和	49	某漁村地区住民の健康調査成績	野村茂
昭和	49	先天性水俣病患者の追跡調査	原田義孝
昭和	49	自然環境におけるメチル水銀生成に関する研究	藤木素士
昭和	49	オートラジオグラフィーによる各種細胞への有機水銀化合物の取り込みと運命に関する研究	藤田恒夫
昭和	49	水俣病の症候に関する研究	三嶋功
昭和	49	まぐろ中の総水銀・メチル水銀及びセレンウムの研究	山口誠哉
昭和	50	尿中 β 2ミクログロブリンと水俣病	井形昭弘
昭和	50	遅発性水俣病の検討	井形昭弘
昭和	50	水俣病の小脳症状	井形昭弘
昭和	50	水俣病の視野-特に内部イソプターの評価とその問題点について-	井形昭弘
昭和	50	水俣病患者の聴力像、特にその低音域障害について	井形昭弘
昭和	50	いわゆる健康老人検診成績	井形昭弘
昭和	50	A) サルにおける実験的メチル水銀中毒症 投与量による病変の差異	生田房弘
昭和	50	B) サルにおける実験的メチル水銀中毒症 メチル水銀の組織障害量	生田房弘
昭和	50	硬組織における有機水銀の沈着と残留について(第1報)	生田房弘
昭和	50	有機水銀中毒症にみられた固視による前庭性眼振解発抑制の解除について	猪初男
昭和	50	水銀化合物の生体内変換と体内蓄積について	井村伸正
昭和	50	Friedmann Visual Field AnalyserとPattern Reversal VERIによる視野異常の研究	岩田和雄
昭和	50	メチル水銀添加マクロ試料の投与実験(第1報ラット)	上田喜一
昭和	50	低級アルキル水銀投与ラットにおける有機・無機水銀の分布並びに排泄	喜多村正次
昭和	50	淡水魚中におけるアルキル水銀の減衰	喜多村正次
昭和	50	有機水銀の末梢神経毒作用についての実験的研究	黒岩義五郎
昭和	50	有明海沿岸住民健康調査成績と認定水俣病患者の比較検討	佐藤武男
昭和	50	有機水銀中毒症における神経軸索病変-最急性例と慢性例を中心に-	白木博次
昭和	50	メチル水銀投与における脳蛋白合成及びRNA合成の阻害	菅野浩
昭和	50	メチル水銀の光化学的分解	高橋等
昭和	50	有機水銀投与ラットにおける神経系の水銀分布、後根神経節における蛋白合成及び軸索流	高橋康夫
昭和	50	自然界での水銀のメチル化とその毒性(第1報)	滝澤行雄
昭和	50	水俣病患者の全臓器中の水銀蓄積分布	滝澤行雄
昭和	50	オートラジオグラフィーの手技を応用した水俣病剖検例における組織内水銀の証明とその分布(第Ⅱ報)	武内忠男
昭和	50	塩化メチル水銀の脾臓B細胞障害性について特にその電子顕微鏡的研究	武内忠男

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	50	水俣病における後頭葉皮質の病理、特に慢性型及び遷延型患者について	武内忠男
昭和	50	水俣病患者における意識障害発作について	立津政順
昭和	50	水俣病の経過に関する二、三の問題	立津政順
昭和	50	有機水銀汚染地区住民と非汚染地区住民の神経学的及び精神医学的調査	立津政順
昭和	50	水俣病及び各種神経疾患の眼球運動異常の定量的研究、衝動運動の速度と正確度	筒井純
昭和	50	メチル水銀中毒ラットの末梢神経伝導速度の推移(予報)	椿忠雄
昭和	50	微量の有機水銀による健康障害(1)汚染川魚摂取の死亡率に及ぼす影響	椿忠雄
昭和	50	新潟水俣病にみられる口腔乾燥症について	椿忠雄
昭和	50	水俣病の治療について	椿忠雄
昭和	50	頸部脊椎症の疫学	徳臣晴比古
昭和	50	水俣病患者の腓腹神経誘発活動電位についての研究	永木譲治
昭和	50	水俣周辺地域住民の食生活構造に関する研究	野村茂
昭和	50	水俣地方精神薄弱児に関する研究(中間報告)	原田義孝
昭和	50	メチル水銀の魚体への蓄積機構に関する研究	藤木素士
昭和	50	オートラジオグラフィによる各種細胞への有機水銀化合物の取込みと運命に関する研究	藤田恒夫
昭和	50	水俣病の症候に関する研究第2報	三嶋功
昭和	50	ラットへの塩化メチル水銀及びセレン化合物の投与実験	山口誠哉
昭和	50	微量水銀の長期間摂取による生体への影響-まぐろ投与猫に於ける生体への影響-	山口誠哉
昭和	51	実験的有機水銀中毒症における微小部X線分析の試み	荒木淑郎
昭和	51	鹿児島県における自然界水銀汚染	井形昭弘
昭和	51	水俣病における尿中 β 2-ミクログロブリンの診断的価値	井形昭弘
昭和	51	水俣病像の解析:視野狭窄と末梢神経障害との相関の検討	井形昭弘
昭和	51	サルの実験的メチル水銀中毒症:微量長期投与時の最小組織障害量とその判定基準	生田房弘
昭和	51	実験的メチル水銀中毒サルの小脳病変の電子顕微鏡学的研究	生田房弘
昭和	51	有機水銀中毒症認定患者と非認定者の平衡神経学的所見の検討	猪初男
昭和	51	細胞膜の透過性に対する水銀化合物の影響	井村伸正
昭和	51	キハダマグロ臓器中蛋白質への水銀化合物の結合性	井村伸正
昭和	51	患者にみられたvisual acuityとLaser Interferometry値との非相関性	岩田和雄
昭和	51	マグロ飼料の投与実験(第2報、ネコの間報告)	上田喜一
昭和	51	水俣病の眼症状補遺	岡村良一
昭和	51	魚類におけるHgとSeの蓄積について	喜多村正次
昭和	51	有機水銀の末梢神経毒作用についての実験的研究(第2報)	黒岩義五郎
昭和	51	高齢水俣病患者と一般老人の聴覚検査所見の比較検討	佐藤武男
昭和	51	メチル水銀投与ラットの脳部域その他の神経系における蛋白合成	菅野浩
昭和	51	水銀性腎障害に対するスピノラク톤の防禦機構	高橋等
昭和	51	β -Thio-D-glucoseの体内メチル水銀排除効果	高橋等
昭和	51	脳RNAPolymerase I 及び II に対するメチル水銀の作用	高橋康夫
昭和	51	脳切片及びシナプトソームによるNeurotransmitterの取り込みに対するメチル水銀の作用(第1報)	高橋康夫
昭和	51	自然界における気相水銀の分布とその影響-桜島噴気中水銀の健康に及ぼす影響	滝澤行雄
昭和	51	水俣病患者及び水俣病認定申請者における主要臓器中の水銀蓄積量	滝澤行雄
昭和	51	水俣病神経病変の程度とその拡がり及び水俣病の死因について	武内忠男
昭和	51	水俣病申請患者の水俣病病変について	武内忠男
昭和	51	塩化メチル水銀の唾液腺細胞障害性について-特にその電子顕微鏡的研究	武内忠男
昭和	51	老年性神経精神障害と水俣病-高血圧、高血圧脳動脈硬化症症状を中心として-	立津政順
昭和	51	老年性神経精神障害と水俣病-巣症状、せん妄状態、内因性精神病状態について	立津政順
昭和	51	小児期発症の水俣病	立津政順
昭和	51	慢性水俣病患者におけるチオプロニン・スピロラク톤の使用経験	立津政順
昭和	51	Ocular motor apraxiaと水俣病	筒井純
昭和	51	水俣病の主要症候の分析的研究	椿忠雄
昭和	51	水俣病の神経系以外の機能障害の検討	椿忠雄
昭和	51	胎生期の水銀汚染経過を知り得た胎児性水俣病の1例と水銀汚染児の汚染度評価について	椿忠雄
昭和	51	水俣湾周辺地区における健康調査成績	徳臣晴比古
昭和	51	叩打刺激により誘発された指知覚神経活動電位の研究	永木譲治
昭和	51	不知火海沿岸漁家の食生活構造よりみたメチル水銀摂取量の推定	野村茂
昭和	51	水俣地方精神薄弱児並びに学童の運動能	原田義孝
昭和	51	メチル水銀の各種細胞への取込み-オートラジオグラフィによる検討	藤田恒夫
昭和	51	水俣病の症候に関する研究(第3報)-特に慢性型患者の手指の変形について-	三嶋功
昭和	51	水俣病患者の腓腹神経の病変について	宮川太平
昭和	51	メチル水銀とセレンウムの研究-メチル水銀とセレンウムの光化学反応	山口誠哉
昭和	51	水俣病発症当時のヒバリガイモドキ中の水銀、セレンウム、その他の重金属について	山口誠哉
昭和	51	メチル水銀の魚体への蓄積機構に関する研究-その2	山口誠哉
昭和	52	実験的塩化メチル水銀中毒における末梢神経の形態学的及びRIIによる研究	荒木淑郎
昭和	52	有機水銀とセレンウムとの競合(予報)-末梢神経障害の検討	井形昭弘
昭和	52	水俣病の失調症に対するTRHの効果	井形昭弘
昭和	52	胎児性水俣病の診断-Auditory Brain Stem Responseの応用	井形昭弘
昭和	52	水俣病の客観的診断法 (1)末梢神経伝導速度並びに腓腹神経生検所見	井形昭弘
昭和	52	水俣病の客観的診断法 (2)小脳性言語の解析	井形昭弘
昭和	52	軽症慢性有機水銀中毒症における軽微な鳥距野病変の診断とその特異性の検討	生田房弘
昭和	52	聴性脳幹反応(BSR)からみた有機水銀中毒症	猪初男
昭和	52	水銀及びセレンウム化合物の血液内相互作用	井村伸正

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	52	Clostridium cochlearium T-2による水銀化合物の変換反応	井村伸正
昭和	52	視野における明度識別isopterとフリッカーisopterの相関	岩田和雄
昭和	52	ネコのメチル水銀亜急性中毒におけるセレンの影響	上田喜一
昭和	52	有機水銀中毒による神経眼科学的所見(その1)視野	岡村良一
昭和	52	人体諸臓器中の水銀含有量(5年前との比較)	喜多村正次
昭和	52	有機水銀の末梢神経毒作用についての実験的研究(第3報)病理組織学的研究	黒岩義五郎
昭和	52	水俣病認定申請者における平衡神経科学的所見について	佐藤武男
昭和	52	ラット脳のニューロン及びグリア細胞体の蛋白合成に対するメチル水銀投与の影響	菅野浩
昭和	52	環境における微量メチル水銀の測定法	高橋等
昭和	52	水銀性腎障害に対するスピロラク톤の防禦構成(その2)	高橋等
昭和	52	脳Na-ATPaseに対するメチル水銀の作用	高橋康夫
昭和	52	脳切片及びシナプトソームによるNeurotransmitterの取り込みに対するメチル水銀の作用(第2報)	高橋康夫
昭和	52	自然界での水銀のメチル化とその毒性-第2報:環境大気のアルキル水銀の動態	滝澤行雄
昭和	52	魚介類中の蛋白結合水銀について	滝澤行雄
昭和	52	水俣病患者及び水俣病認定申請者における主要臓器中の水銀蓄積量(1977年)	滝澤行雄
昭和	52	ヒト水俣病の脊髄末梢神経病変についての研究	武内忠男
昭和	52	胎児性水俣病の腓腹神経生検の電子顕微鏡的所見の知見補遺	武内忠男
昭和	52	水俣病における薬物療法-バルプロ酸ナトリウムの治療成績	立津政順
昭和	52	水俣病における全身性知覚障害について	立津政順
昭和	52	視野狭窄と眼球運動異常をきたす神経疾患	筒井純
昭和	52	頭髮水銀量からみた最少発症量の再検討	樫忠雄
昭和	52	頭髮水銀分析値からみた新潟水俣病の汚染の特徴	樫忠雄
昭和	52	水俣病の協調運動障害の分析的研究	樫忠雄
昭和	52	水俣病患者のCT所見	樫忠雄
昭和	52	水俣病認定申請者に認められる筋力保持障害について	徳臣晴比古
昭和	52	水俣病患者指のTapping刺激による誘発知覚神経活動電位の研究	永木譲治
昭和	52	水俣地域住民にみられる臨床症状と多変量解析による検討	野村茂
昭和	52	先天性水俣病と精神薄弱に関する研究	原田義孝
昭和	52	マクロファージ細胞型へのメチル水銀の取込み-オートラジオグラフィーによる研究	藤田恒夫
昭和	52	明水園患者における水俣病症状の客観的評価	三嶋功
昭和	52	水俣病の疑いがもたれた腓腹神経の組織所見	宮川太平
昭和	52	金属中毒と複合作用-恒温・恒湿の環境条件下での水銀とセレンウム	山口誠哉
昭和	52	後天性水俣病の判断条件について	荒木淑郎
昭和	52	水俣病症状の客観的診断法 (I)小脳性言語の解析	井形昭弘・三浦功
昭和	52	水俣病症状の客観的診断法 (II)総括	井形昭弘・三浦功
昭和	52	水俣病患者の重心に関する研究	石川哲
昭和	52	コンピューターによる眼振波形の自動分析	猪初男・岩田和雄
昭和	52	新潟水俣病の神経眼科学的研究	猪初男・岩田和雄・樫忠雄
昭和	52	水俣病における視野測定精度向上に関する研究	岩田和雄・佐藤武男・荒木淑郎
昭和	52	正常視野及び透光体混濁の視野に及ぼす影響について	岡村良一・重野幸夫
昭和	52	有機水銀中毒における感覚性ニューロパチー電気生理学的診断についての基礎的研究-I	黒岩義五郎・井形昭弘
昭和	52	水俣病検診における神経耳鼻科学的所見の定量診断法に関する検討	佐藤武男・岡村良一
昭和	52	有機水銀中毒の実態把握と対策の適切化をはかるための基礎的研究	重野幸夫・徳臣晴比古・樫忠雄・立津政順
昭和	52	剖検例からみた慢性水俣病の病理学的特徴について	武内忠男
昭和	52	水俣病の神経眼科的研究-特に赤外線電子瞳孔計による瞳孔反応	武内忠男・石川哲・黒岩義五郎
昭和	52	水俣病における知覚検査法について	立津政順
昭和	52	水俣病患者に見られる協調運動障害の定量的解析	樫忠雄
昭和	52	水俣病診断における視野狭窄の意義	三嶋功・徳臣晴比古・井形昭弘
昭和	52	先天性水俣病患者の臨床	森本弘之
昭和	52	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	樫忠雄
昭和	53	実験的塩化メチル水銀中毒における末梢神経の電気生理学的及び形態学的研究	荒木淑郎
昭和	53	鹿児島県における自然界水銀汚染(続報)	井形昭弘
昭和	53	鹿児島県における水俣病像の解析 1)遅発性水俣病に関する検討	井形昭弘
昭和	53	鹿児島県における水俣病像の解析 2)水俣病における四肢痛性けいれんの検討	井形昭弘
昭和	53	鹿児島県における水俣病像の解析 3)水俣病における眼球運動失行	井形昭弘
昭和	53	鹿児島県における水俣病像の解析 4)いわゆるBorder lineにおける腓腹神経生検所見と臨床像との対比	井形昭弘
昭和	53	濃厚汚染地区における剖検脳の検討	井形昭弘
昭和	53	水俣病における耳鼻科病像の客観的評価 1)口腔感覚のBSR並びに口笛の音響学的分析について	井形昭弘
昭和	53	水俣病における耳鼻科病像の客観的評価 2)他覚的嗅覚検査法の検討	井形昭弘
昭和	53	軽症慢性有機水銀中毒症における鳥距野病変の定量形態学的検討	生田房弘
昭和	53	有機水銀中毒患者におけるVisual Suppression Test	石川喈
昭和	53	聴性脳幹反応(BSR)からみた有機水銀中毒症(第2報)	猪初男
昭和	53	Clostridium cochlearium T-2による水銀化合物の変換反応	井村伸正
昭和	53	メチル水銀が結合している赤血球内低分子物質	井村伸正
昭和	53	Automatic Perimeter(Field Master視野計101)による新潟水俣病の視野検査について	岩田和雄
昭和	53	某水銀鉱染地域河川の魚類中水銀濃度の推移について	喜多村正次
昭和	53	有機水銀の末梢神経毒作用についての実験的研究(第4報)メチル水銀中毒に対するセレン酸ナトリウムの投与効果-腓腹神経の組織定量的研究	黒岩義五郎
昭和	53	メチル水銀中毒ラットの血銀量と組織変化の経時的推移	佐藤猛
昭和	53	東京都移住後の水俣病1家族の症状推移	佐藤猛
昭和	53	メチル水銀投与ラットの脳細部域及び末梢神経系における蛋白合成阻害(14C-Valina High dose法による再検討)	菅野浩

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	53	Metallothioneinの水銀結合様式の変化	高橋等
昭和	53	マグロ筋肉中水銀とセレン分析の方法論的検討	高橋等
昭和	53	メチル水銀投与ラット後根神経節の神経化学的研究	高橋康夫
昭和	53	神経組織の可溶性酵素に対するメチル水銀の作用	高橋康夫
昭和	53	自然界での水銀のメチル化とその毒性－第3報環境大気中の各種水銀化合物の分布	滝澤行雄
昭和	53	水俣病患者及び水俣病認定申請者における主要臓器中の水銀蓄積量	滝澤行雄
昭和	53	重症小児水俣病の脳病変とDecortication Syndrome	武内忠男
昭和	53	EOG、OKPと水俣病神経病変(中間報告)	武内忠男
昭和	53	水俣病における下半身症状－運動系について	立津政順
昭和	53	水俣病の治療－ATP、ニコチン酸点滴療法	立津政順
昭和	53	Pattern shift VECPIによる他覚的視野測定	筒井純
昭和	53	水俣病患者の協調運動障害、感覚障害の定量分析	椿忠雄
昭和	53	新潟水俣病患者の $\beta 2$ -microglobulinの検討	椿忠雄
昭和	53	水俣病患者のCT所見の解析	椿忠雄
昭和	53	水俣病患者20年後の経過	徳臣晴比古
昭和	53	水俣病患者指の電気刺激による知覚閾値の研究	永木譲治
昭和	53	不知火海沿岸漁家の食生活構造とメチル水銀摂取量推定の試み	野村茂
昭和	53	先天性水俣病患者のsoft neurological sign's	原田義孝
昭和	53	水銀中毒マウスの各種組織への $3H$ -ドパミンの取込み	藤田恒夫
昭和	53	水俣病の症候に関する研究 第4報-Diadocho-meterによる運動緩慢の分析	三嶋功
昭和	53	実験的有機水銀中毒 1)有機水銀投与量と神経系の組織学的変化	宮川太平
昭和	53	実験的有機水銀中毒 2)有機水銀投与による脊髄・延髄の組織所見	宮川太平
昭和	53	メチル水銀中毒を修飾する複合因子と環境因子	山口誠哉
昭和	53	慢性水俣病患者の末梢神経伝達速度に関する研究	荒木淑郎
昭和	53	水俣病の客観的診断における研究	井形昭弘
昭和	53	有機水銀中毒脳組織におけるグングリオシドの変化	生田房弘
昭和	53	軽症慢性有機水銀中毒症における鳥距野病変の定量形態学的研究	生田房弘
昭和	53	水俣病患者におけるSpacial contrast sensitivityの検査－Arden grating testの応用－	石川哲
昭和	53	水俣病検診における計量診断法の確立に関する研究－視運動眼振の新しいパラメータの検討－	猪初男
昭和	53	Automatic Penimeter(Field Master視野計101)による新潟水俣病の視野検査について	岩田和雄
昭和	53	水俣病における電気重心計検査	岡嶋透
昭和	53	小脳失調症における指タッピング障害の分析－パーキンソン病との比較－	黒岩義五郎
昭和	53	水俣病認定者における末梢神経機能について－電気生理学的見地よりの検討－	重野幸次
昭和	53	臨床的軽症水俣病とその病理－血管障害に伴う脳病変との鑑別－	武内忠男
昭和	53	有機水銀中毒症と頸部脊椎症性脊髄症との鑑別診断に関する研究	田島達也
昭和	53	協調運動の定量分析と計量診断法の確立についての研究	椿忠雄
昭和	53	長期追跡よりみた水俣病病像の変遷－本病診断への応用－	徳臣晴比古
昭和	53	先天性水俣病の診断法に関する研究	森山弘之
昭和	53	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	54	メチル水銀及びセレンウムの血小板に対する影響に関する研究	井形昭弘
昭和	54	水俣病とパーキンソニズム	井形昭弘
昭和	54	現時点における掘り起こし検診－伊唐島における経験と統計的処理	井形昭弘
昭和	54	慢性有機水銀中毒症剖検例に認められた組織化学的変化	生田房弘
昭和	54	水俣病患者における断続音TTSについて	石川悱
昭和	54	聴覚障害に対する他覚的聴力検査－インピーダンス・オーディオメトリー	猪初男
昭和	54	水銀のbiotransformationにおけるplasmidの役割	井村伸正
昭和	54	メチル水銀と亜セレン酸の血液内相互作用－bis(methylmercuric)selenideの生成－	井村伸正
昭和	54	視野測定における上眼瞼の影響	岩田和雄
昭和	54	ネコのメチル水銀亜急性中毒に対するセレンの影響	上田喜一
昭和	54	水俣病における血圧及び糖尿－住民健康調査及び検診結果より	岡嶋透
昭和	54	水俣病患者の垂直EOG(ETT)、特に発症長期経過水俣病患者の垂直EOGについて	岡村良一
昭和	54	有機水銀の末梢神経毒作用についての実験的研究(第5報)－メチル水銀中毒に対するペニシラミンの効果－	黒岩義五郎
昭和	54	メチル水銀中毒ラットにおける水銀量と小脳の微細構造変化の経時的推移(第2報)	佐藤猛
昭和	54	関東地方在住水俣病患者の臨床症状(予報)	佐藤猛
昭和	54	メチル水銀中毒発症過程における脳及び血漿遊離アミノ酸の変動	菅野浩
昭和	54	メチル水銀－セレン反応系のMass Spectrometer－Computerによる検索	住野公昭
昭和	54	腎水銀Metallothioneinの酵素的分解	高橋等
昭和	54	メチル水銀投与ラット後根神経節の神経化学的研究	高橋康夫
昭和	54	自然界での水銀のメチル化とその毒性－第4報:大気中各種水銀化合物の日内変動	滝澤行雄
昭和	54	水俣地区居住者における主要臓器中の水銀蓄積量－1979年	滝澤行雄
昭和	54	水俣病脳病変の成り立ちに関する研究、特にその好発部位の発生機序に関する考察	武内忠男
昭和	54	老年期における水俣病症状の推移	立津政順
昭和	54	水俣病患者のCMI	立津政順
昭和	54	水俣病患者における膀胱機能障害について	立津政順
昭和	54	Pattern shift VECPIによる他覚的視野測定:水俣病への応用	筒井純
昭和	54	Horseradish Peroxidase(HRP)法によるネコ後頭葉皮質間連合に関する研究:実験的水俣病について	筒井純
昭和	54	メチル水銀汚染と運動神経伝導速度について	椿忠雄
昭和	54	遅発性水俣病と筋萎縮性側索硬化症を合併した一剖検例	椿忠雄
昭和	54	水俣病患者のSensory Evoked Ootential(SEP)とCT-Scan	徳臣晴比古
昭和	54	定量的分析方法による水俣病の振戦の研究	徳臣晴比古

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	54	水俣病の感覚神経伝導速度－糖尿病性末梢神経症との比較－	永木譲治
昭和	54	不知火海沿岸地域の人口動態指標の解析	野村茂
昭和	54	メチル水銀中毒ラットの内分泌神経系の形態変化	藤田恒夫
昭和	54	水俣病の症候に関する研究－第5報 特にDiadocho-Meterによる運動緩慢の分析	三嶋功
昭和	54	視運動性眼振における眼振急速相の振巾と速度との関係	水越鉄理
昭和	54	実験的有機水銀中毒による末梢神経病変の走査型電子顕微鏡による観察	宮川太平
昭和	54	温度環境がメチル水銀の毒性及びセレンウムとの相互関係に及ぼす影響について	山口誠哉
昭和	54	水俣病の末梢神経障害の電気生理学的検査－M波に関する検討－	荒木淑郎
昭和	54	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	井形昭弘
昭和	54	水俣病患者診断結果“他覚的診断法確立への試み”	石川哲
昭和	54	聴覚障害に対する他覚的聴力検査－インピーダンス・オージオメトリー－	猪初男
昭和	54	水俣病患者眼底の超精密検査とその意義	岩田和雄
昭和	54	水俣病における電気重心計検査(第2報)	岡嶋透
昭和	54	水俣病における失調症状	樺島啓吉
昭和	54	健康人の生理的振戦と水俣病患者の振戦の定量的分析	川崎渉一郎
昭和	54	塩化メチル水銀中毒ラットの末梢神経障害に及ぼすペニシラミンの効果	黒岩義五郎
昭和	54	水銀中毒症の文献調査－Preliminary report	重野幸次
昭和	54	水俣病の臨床症状と病変との相関について 特に感覚障害、視野狭窄、難聴および小脳症状と脳神経病変について	武内忠男
昭和	54	水俣病診断のためのCT検査の有用性についての検討	樺忠雄
昭和	54	慢性有機水銀中毒症剖検例に認められた内臓器変化	樺忠雄
昭和	54	水俣病患者のSEP(somato sensory evoked potenrial)とCT scan	徳臣晴比古
昭和	54	水俣病の症候に関する研究 特に運動緩慢の入院治療による変化について	三嶋功
昭和	54	先天性水俣病の診断法に関する研究	森山弘之
昭和	54	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	樺忠雄
昭和	54	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究②	二塚信
昭和	54	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究①	丸山定巳
昭和	55	汚染地区における水晶体内メチル水銀	井形昭弘
昭和	55	マイクロコンピュータによる水俣病自動診断機作成の試み	井形昭弘
昭和	55	有機水銀汚染地区住民より得られた腓腹神経正検所見の特徴	井形昭弘
昭和	55	有機水銀中毒の治療法に関する研究－第1報:Phtha lazene誘導体(EG626)no予防効果	井形昭弘
昭和	55	有機水銀中毒症例の脊髄前後根変化とSMON及びALSにおける病変との比較検討	生田房弘
昭和	55	衝動性眼球運動の定量分析－水俣病と他疾患における検査所見の比較検討－	石川和光
昭和	55	有機水銀中毒ラットのABR	石川喈
昭和	55	細菌の水銀耐性獲得機構について	井村伸正
昭和	55	メチル水銀とセレン化合物の生体内反応－bis(methylmercuric)selenideの成分と分解－	井村伸正
昭和	55	老人性変化の視野に及ぼす影響について	岩田和雄
昭和	55	水俣病における排尿障害	岡嶋透
昭和	55	水俣病剖検例における上丘の神経病理学的研究	岡村良一
昭和	55	ネコに対するカジキマグロの長期投与実験	河合正計
昭和	55	実験的メチル水銀中毒に対するセレン酸ナトリウム、メチルコバラミンの投与効果	黒岩義五郎
昭和	55	関東地方在住水俣病の一部検例	佐藤猛
昭和	55	メチル水銀投与ラットの末梢神経系における蛋白合成阻害:(1-14C)valine大量投与法による検討	菅野浩
昭和	55	メチル水銀投与ラットの脳における酵素活性の変動について	菅野浩
昭和	55	メチル水銀の遊離機序－結合型からビス(メチル水銀)サルフォイドの生成－	住野公昭
昭和	55	メチル水銀の生体内無機化とメタロチオネン	高橋等
昭和	55	新生ラットの脳蛋白代謝に対するメチル水銀の影響	高橋康夫
昭和	55	水俣地区居住者における主要臓器中の水銀蓄積量－1980年	滝澤行雄
昭和	55	体内メチル水銀の代謝の肝障害による修飾	滝澤行雄
昭和	55	軽症水俣病小脳病変の程度と分布について	武内忠男
昭和	55	Arachinoid cystsを伴った先天性水俣病の一例	立津政順
昭和	55	水俣病患者にみられる特徴的情意障害:無力－弛緩－疲労状態	立津政順
昭和	55	水俣病症状を伴ったパーキンソニスムス	立津政順
昭和	55	HRP法によるネコ脳の資格関連連野の連合に関する研究、実験的水俣病について	筒井純
昭和	55	慢性無機水銀中毒ラットにおける末梢神経病変の病理学的研究	樺忠雄
昭和	55	ペインメーターによる水俣病患者の感覚障害の検討	樺忠雄
昭和	55	水俣病の振戦の定量的分析方法による研究(第2報)	徳臣晴比古
昭和	55	水俣・芦北地区の死因別標準化死亡比の検討	野村茂
昭和	55	妊娠ラットへの微量有機水銀投与が胎仔へあたえる影響-出生仔の発達について	原田康隆
昭和	55	胎児性水俣病の聴性脳幹反応の検討(第2報)	三嶋功
昭和	55	前庭性動眼反射検査の定量的分析	水越鉄理
昭和	55	実験的有機水銀中毒の後遺症における末梢神経変化の走査電子顕微鏡による観察	宮川太平
昭和	55	メチル水銀中毒の修飾因子と温度環境に関する研究	山口誠哉
昭和	55	Pupillographic Permetry	青山達也
昭和	55	Pupillographic Permetry－臨床的応用について－	青山達也
昭和	55	水俣病患者における血中および尿中 β_2 -microglobulinについて	荒木淑郎
昭和	55	臨床的には有機水銀中毒症が疑われ、組織学的には同症と診断し得なかった7剖検例	生田房弘
昭和	55	水俣病における眼運動系障害の問題 とくに、加齢による影響について	石川和光
昭和	55	水俣病患者の身体平衡機能	石川哲
昭和	55	眼底所見の電子情報処理と視野の沈下	岩田和雄
昭和	55	水俣病汚染地区および非汚染地区住民の水晶体内メチル水銀量	大庭紀雄

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	55	音響外傷とメチルB ₁₂ —ABRならびにSEM観察法のメチル水銀中毒性難聴実験への応用についての基礎的検討—	大山勝
昭和	55	水俣病における電気重心計検査(第3報)	岡嶋透
昭和	55	水俣病患者におけるArden greating test 正常対照における年齢の影響について	小野美子
昭和	55	小脳障害の定量化についての研究—水俣病患者のCT—ScanとSEP—	川崎渉一郎
昭和	55	水俣病における脳幹部機能検査法 短潜時体性件各誘発電位応用の試み	黒岩義五郎
昭和	55	有機水銀中毒ラットのABR	黒田建彰
昭和	55	水俣病後遺症患者の現状—ADL障害を中心に—	重野幸次
昭和	55	中枢性病変の病理診断における定量化についての研究—特に水俣病病理診断の基礎—	武内忠男
昭和	55	水俣病症状を伴ったパーキンソニスムス	立津政順
昭和	55	水俣病患者にみられる特徴的情意障害:無力—弛緩—疲労状態	立津政順
昭和	55	水俣病患者の感覚障害の定量的把握のための検討	椿忠雄
昭和	55	ペインメーターによる水俣病患者の感覚障害の検討	椿忠雄
昭和	55	小脳障害の定量化についての研究 シグナルプロセッサーによる企図振戦の分析・水俣病を中心として(第2報)	徳臣晴比古
昭和	55	有機水銀中毒の治療法に関する研究 第一報:phtha lazone誘導体(EG626)の予防効果	新名清成
昭和	55	マイクロコンピューターによる水俣病自動診断機作成の試み	浜田陸三
昭和	55	振動性把握反射の検討	本間三郎
昭和	55	水俣病患者の予後に関する研究	三嶋功
昭和	55	加速度・振子様回転刺激による視運動性・前庭性動眼反射検査装置の開発	水越鉄理
昭和	55	有機水銀汚染地区住民より得られた腓腹神経生検所見の特徴	皆内康広
昭和	55	運動機能障害の判定についての研究	森山弘之
昭和	55	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	55	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究②	重松逸造
昭和	55	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究①	丸山定巳
昭和	56	水俣病患者の感覚障害—短潜時SEPによる検討	荒木淑郎
昭和	56	水俣病における異常知覚—全身型知覚障害例の検討	井形昭弘
昭和	56	水俣病の客観的診断法 1. CTスキャン	井形昭弘
昭和	56	水俣病の客観的診断法 2. 尿中 β -D-N-Acetylglucosamiidase	井形昭弘
昭和	56	有機水銀中毒ラットの脳内TRH含量の変動	井形昭弘
昭和	56	水俣病認定患者のfollow up study	井形昭弘
昭和	56	有機水銀中毒症の病変分布の特異性について;人体解剖例と実験的研究	生田房弘
昭和	56	メチル水銀の胆汁中排泄における動物種差	井村伸正
昭和	56	水俣病における100-Hue Test	岩田和雄
昭和	56	水俣病の臨床的研究—剖検例における生前の症状、症候の検討	岡嶋透
昭和	56	有機水銀中毒症の神経眼科的所見 その2.視野・眼球運動について補遺	岡村良一
昭和	56	水俣病剖検例の水晶体内水銀量について	岡村良一
昭和	56	水俣病症例に対する完全自動視野計オクトパスの使用経験	岡村良一
昭和	56	メチル水銀の猿の感覚系に及ぼす影響	黒岩義五郎
昭和	56	軽症水俣病剖検例における小脳“Apical scar”の検討—通常剖検例との比較	佐藤栄一
昭和	56	メチル水銀による新生ラット小脳の微細構造の変化	佐藤猛
昭和	56	ラット脳細胞分画におけるタンパク質リン酸化に対するメチル水銀の作用について	菅野浩
昭和	56	メチル水銀と硫黄化合物の挙動	住野公昭
昭和	56	有機水銀の生体内無機化に関する研究	高橋等
昭和	56	ニューロン特異蛋白NSE及びグリア細胞特異蛋白NNEのmRNAに対するメチル水銀の影響	高橋康夫
昭和	56	水俣地区居住者における主要臓器中の水銀蓄積量—1981年	滝澤行雄
昭和	56	大気中水銀の分布と身体負荷量の推定	滝澤行雄
昭和	56	水俣病における甲状腺の病理学的研究	武内忠男
昭和	56	大脳の海綿状変成とVEP—水俣病VS Creutzfeldt-Jakb病	筒井純
昭和	56	水俣病の自律神経機能の検討—心電図のR-R感覚の変動から	椿忠雄
昭和	56	水俣病の感覚障害—水俣病における短潜時SEPについて	徳臣晴比古
昭和	56	マイクロコンピューターを用いた水俣病申請者の平衡機能検査データの登録	中野雄一
昭和	56	水俣市における地域人口動態統計の解析	野村茂
昭和	56	妊娠ラットへの微量有機水銀投与が胎仔へあたえる影響 (1)出生仔の発達について	原田康隆
昭和	56	人体臓器中の水銀濃度に関する調査研究	藤木素士
昭和	56	水俣病における自律神経障害の検討	三嶋功
昭和	56	眼振計(ENG)検査の自動分析システム	水越鉄理
昭和	56	メチル水銀中毒における行動科学的研究	山口誠哉
昭和	56	水銀蒸気曝露による水銀の生体内分布及びセレンの修飾作用に案する研究	山口誠哉
昭和	56	視野の他覚的測定法の検討	青山達也
昭和	56	水俣病患者における電気生理学的診断法の確立に関する研究	荒木淑郎
昭和	56	水俣病における知覚異常の客観的評価法に関する研究	井形昭弘
昭和	56	有機水銀中毒と純粋な酸素欠乏状態とで生ずる小脳病変の形態学的類似性について	生田房弘
昭和	56	水俣病に見られるSquare wave jerks	石川哲
昭和	56	水俣病と色相配列試験	岩田和雄
昭和	56	水俣病認定患者の視野異常の経過	大庭紀雄
昭和	56	水俣病認定患者の聴力障害の推移	大山勝
昭和	56	平衡機能の定量化に関する研究	岡嶋透
昭和	56	水俣病症例に対する完全自動視野計オクトパスの使用経験	熊谷和久
昭和	56	実験的有機水銀中毒における中枢神経機能障害の検索	黒岩義五郎
昭和	56	水俣病と各種疾患の鑑別に関する研究—水俣病の排尿障害についての病理—	武内忠男
昭和	56	新潟水俣病の検診と審査の2~3の検討	椿忠雄

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	56	Quantitative analysis of tremor in Minamata disease	徳臣晴比古
昭和	56	水俣病に対する新しい神経耳科学的アプローチ	中野雄一
昭和	56	胎児性水俣病患者のCT所見	三嶋功
昭和	56	Galvanic body-sway testの定量的分析	水越鉄理
昭和	56	有機水銀中毒症の神経眼科的所見－その2 視野・眼球運動について 補遺	皆良田研介
昭和	56	水俣病患者の追跡調査－とくに水俣病患者の死因について－	箕輪真澄
昭和	56	塩化メチル水銀中毒ラットにおける末梢神経病変の電気生理学的・病理組織学的検討	宮武正
昭和	56	運動機能障害の判定についての研究	森山弘之
昭和	56	ラットの耳小骨筋反射と聴性脳幹反応	吉田重彦
昭和	56	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	56	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究①	重松逸造
昭和	56	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究②	重松逸造
昭和	57	塩化メチル水銀中毒ラットの脊髄後根神経節－とくにsatellite細胞の変化について	荒木淑郎
昭和	57	水俣病の客観的診断法－CTスキャン(第Ⅱ報)	井形昭弘
昭和	57	全身知覚脱失例の客観的評価	井形昭弘
昭和	57	加圧環境におけるラット有機水銀中毒症の形態学的検討	生田房弘
昭和	57	有機水銀中毒ラットのABRとMLR	石川喈
昭和	57	培養知覚神経節細胞に対するメチル水銀の影響－微小管障害に注目して	井村伸正
昭和	57	Arden Grating Chart応用のための基礎的研究(加齢及び白内障の影響について)	岩田和雄
昭和	57	水俣病患者の舌運動のエレクトロパトグラフによる解析	大山勝
昭和	57	胎児性水俣病における瞬目反射及び短潜時SEP	岡嶋透
昭和	57	メチル水銀中毒ラットにおける腓腹神経及び第6腰髄後根有髄線維数の変化と脊髄後根神経節神経細胞数の変化の比較	黒岩義五郎
昭和	57	軽症水俣病剖検例における小脳及び大脳の組織形態計測による検討	佐藤栄一
昭和	57	メチル水銀中毒ネコの後頭葉におけるノルエピネフリン受容体の変化	佐藤猛
昭和	57	メチル水銀投与ラットの後根神経節におけるRNA合成活性の変動	菅野浩
昭和	57	メチル水銀投与ラットの神経系における酵素活性の変動	菅野浩
昭和	57	メチル水銀と含硫化合物の相互作用	住野公昭
昭和	57	メチル水銀の無機化反応とマクロファージ機能	高橋等
昭和	57	メチル水銀による過酸化脂質形成促進とセレン投与による抑制	高橋等
昭和	57	メチル水銀中毒動物にみられる痙攣誘発剤に対する抵抗増大	高橋等
昭和	57	ラット神経系における脳特異蛋白の免疫組織化学とメチル水銀投与の影響	高橋康夫
昭和	57	水俣地区居住者における主要臓器中水銀量の推移－最近10年間の総括	滝澤行雄
昭和	57	石炭焚転と水銀の大気への負荷量の試算(第2報)	滝澤行雄
昭和	57	いわゆる無酸素症とメチル水銀中毒症との神経系病変の比較的研究(続報)	武内忠男
昭和	57	最軽症例の水俣病病変についての再検討－境界領域の水俣病病理所見	武内忠男
昭和	57	水俣病の視覚誘発動的脳電位図	筒井純
昭和	57	実験的有機水銀中毒の電気生理学的及び病理学的研究－視的環境の影響について(中間報告)	筒井純
昭和	57	幼若ラット上頸神経節におけるメチル水銀の神経毒性についての生化学的検索－殊にキノホルムの神経毒性との生化学的比較	椿忠雄
昭和	57	最近の水俣病認定申請者の耳神経学的所見の比較検討	中野雄一
昭和	57	水俣市における地区別・死因別標準化死亡比(SMR)の解析	野村茂
昭和	57	人体臓器中の水銀濃度に関する調査研究 その2	藤木素士
昭和	57	慢性期水俣病患者の治療	三嶋功
昭和	57	胎児性水俣病のCT所見	三嶋功
昭和	57	Galvanic Body Sway Testによる末梢中枢前庭系障害の鑑別	水越鉄理
昭和	57	メチル水銀中毒症における脳エネルギー代謝の研究:核磁気共鳴法の応用	宮武正
昭和	57	酸化還元酵素に及ぼす水銀蒸気の影響	山口誠哉
昭和	57	水俣病認定患者フォローアップの診断への応用に関する研究	荒木淑郎
昭和	57	水俣病における感覚障害についての検討	井形昭弘
昭和	57	水俣病の客観的診断法－CT scan－	井形昭弘
昭和	57	有機水銀中毒症の初期細胞変化:ミトコンドリアの著しい形態変化	生田房弘
昭和	57	水俣病の小脳脳炎と眼運動系障害に関する研究	石川和光
昭和	57	水俣病にみられる固視微動異常	石川哲
昭和	57	水俣病のCT所見	出田透
昭和	57	水俣病診断における鑑別診断のための眼底分析法	岩田和雄
昭和	57	水俣病の臨床と病理所見の比較検討－25年の経過をとった典型水俣病の一剖検例－	衛藤光明
昭和	57	心因性視野障害と自動視野検査	大庭紀雄
昭和	57	水俣病患者の舌運動のエレクトロパトグラフによる解析	大山勝
昭和	57	水俣病患者の平衡機能に関する研究	岡嶋透
昭和	57	水俣病患者の身体平衡機能	小沢治夫
昭和	57	水俣病の客観的診断法 CTスキャン(第Ⅱ報)	音瀬広章
昭和	57	有機水銀中毒患者における大脳皮質興奮性の検索方法－Long-Loop Reflexの検討－	黒岩義五郎
昭和	57	水俣地区居住者における主要臓器水銀量の推移－最近10年間の総括－	滝澤行雄
昭和	57	診断の条件－疫学的背景と有症者との関係について	椿忠雄
昭和	57	昭和57年度、水俣病における総合研究	中野雄一
昭和	57	水俣病患者の歩行障害の客観的評価に関する研究	三嶋功
昭和	57	視運動性前庭性動眼反射検査の臨床診断的意義	水越鉄理
昭和	57	水俣病の上丘障害の基礎研究－特に網膜と上丘との線維結合様式として－	皆良田研介
昭和	57	水俣病における平衡障害の定量法に関する研究	宮武正
昭和	57	実験的水俣病に関する研究－有機水銀中毒ラットの末梢神経水銀量－	村井由之
昭和	57	小児水俣病と精神薄弱の鑑別に関する研究	森山弘之

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	57	知能障害を有する水俣病認定申請者の聴力検査におけるABRの有用性について	吉田重彦
昭和	57	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	57	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
昭和	58	塩化メチル水銀中毒ラットの神経、肝及び腎組織におけるライソゾーム酵素の動態について	荒木淑郎
昭和	58	獅子島における現地検診の結果とその検討	井形昭弘
昭和	58	慢性有機水銀中毒症におけるH波の検討	井形昭弘
昭和	58	末梢神経変部の細胞外間隙を満たす浮腫液の形態：病変の再生修復に果たす役割について	生田房弘
昭和	58	マウス組織中のメチル水銀含有低分子量物質	井村伸正
昭和	58	メチル水銀毒性に及ぼすセレン欠乏の影響	井村伸正
昭和	58	自動視野計ペリテストの応用	岩田和雄
昭和	58	脳性麻痺における臨床的、神経放射線学的並びに電気生理学的研究－胎児性水俣病との対比において	岡嶋透
昭和	58	水俣病の臨床的研究－病理所見との対比	岡嶋透
昭和	58	水俣病患者の感覚障害の研究－腓腹神経の電気生理学的並びに組織定量的研究	黒岩義五郎
昭和	58	神経細胞形態計測用画像処理装置(MAPPS-1)の開発	佐藤栄一
昭和	58	メチル水銀中毒ネコの後頭葉におけるノルエピネフリン受容体の変化(第2報)	佐藤猛
昭和	58	ラット末梢神経組織の蛋白磷酸化反応に対するメチル水銀の作用	菅野浩
昭和	58	メチル水銀とハイドロジサルファイド(HS-S-CH ₂ ...)化合物の挙動	住野公昭
昭和	58	メチル水銀の無機化反応とマクロファージ機能(その2)	高橋等
昭和	58	メチル水銀の生体内無機化と活性酸素	高橋等
昭和	58	メチル水銀投与動物における脳特異蛋白の研究	高橋康夫
昭和	58	メチル水銀投与動物における視神経の軸索流について	高橋康夫
昭和	58	最近10年間の水俣病認定患者及び非認定者における臓器内水銀量の経年変化(第Ⅱ報)	滝澤行雄
昭和	58	水俣病の検診、審査促進のための病理診断に関する研究－特に高齢者水俣病の病理について	武内忠男
昭和	58	ネコ水俣病について、特に水銀の組織化学的分布についての知見補遺	武内忠男
昭和	58	視覚活動と水銀のとりこみに関する実験的研究	筒井純
昭和	58	幼若ラット上頸部交感神経節の蛋白質合成に及ぼすメチル水銀の影響	椿忠雄
昭和	58	水俣病認定申請者における嗅覚障害	中野雄一
昭和	58	八代海沿岸漁村地区の死因構造の解析	野村茂
昭和	58	妊娠ラットへの微量有機水銀投与が胎仔へあたえる影響 第3報：各臓器の水銀含有量及び病理学的所見について	原田康隆
昭和	58	人体臓器中の水銀濃度に関する調査研究－その3	藤木素士
昭和	58	アルカリ乾電池に含まれる水銀による環境汚染に関する研究	藤木素士
昭和	58	メチル水銀によるエネルギー代謝阻害に関する研究	藤木素士
昭和	58	水俣病患者の視覚誘発電位	三嶋功
昭和	58	水俣病患者における皮膚血管拡張反応－ヒナルゴン軟膏塗布による皮膚温の変化	三嶋功
昭和	58	有機水銀中毒症例のOKNIにみられたいわゆるHyper Nystagmus所見に関する一考察(ランダム刺激OKNとの比較について)	水越鉄理
昭和	58	メチル水銀投与ラットにおける一次感覚神経系の蛋白質の研究	宮武正
昭和	58	メチル水銀・セレン投与ラットの過酸化脂質生成とグルタチオンペルオキシダーゼ活性の変化	山口誠哉
昭和	58	慢性水俣病のCT scanによる検討－最近の水俣病認定患者のCT所見の定量的分析を中心に－	荒木淑郎
昭和	58	新潟において1979年以降に剖検された慢性有機水銀中毒3症例の病理解剖所見	生田房弘
昭和	58	有機水銀中毒症の嗅覚障害に関する臨床的研究	石川和光
昭和	58	水俣病患者の身体平衡機能	石川哲
昭和	58	水俣病の感覚障害－体性感覚誘発電位による検討－	出田透
昭和	58	Maxwell視による青錐体計視感度測定とTransient Tritanopia Effectの検討	岩田和雄
昭和	58	水俣病の検診・審査促進のための病理診断に関する研究－特に高齢者水俣病の病理について－	衛藤光明
昭和	58	水俣病検診・審査促進に関する調査研究	大庭紀雄
昭和	58	耳鳴分析による病態診断の試み(第1報) 耳鳴患者のTinnitus Synthesizerを用いた解析成績	大山勝
昭和	58	水俣病の神経放射線学ならびに神経生理学的研究	岡嶋透
昭和	58	有機水銀汚染による健康被害の実態調査－獅子島現地検診の結果とその検討－	音瀬広章
昭和	58	有機水銀中毒患者における視野障害の他覚的検索方法－図形反転視野誘発電位による検討－	黒岩義五郎
昭和	58	水俣病認定患者および水俣病認定申請者における主要臓器中総水銀量およびメチル水銀量	滝澤行雄
昭和	58	後脛骨神経刺激による体性感覚誘発電位の期限及び臨床応用の有用性の検討、特に水俣病の感覚障害の診断に関連して	辻貞俊
昭和	58	判断条件についての考察	椿忠雄
昭和	58	慢性有機水銀中毒症の嗅覚および聴覚系の形態学的検査－慢性中毒動物によるモデル実験－	中野雄一
昭和	58	水俣病患者の予後に関する研究(第2報)	三嶋功
昭和	58	マイコン制御による総合的刺激検査装置の臨床的意義	水越鉄理
昭和	58	水俣病の診断に関する研究－Romberg徴候の定量的解析－	宮武正
昭和	58	水俣病の検診・審査促進のための神経内科に係る臨床診断に関する研究－小児水俣病の神経学的臨床診断に関する研究－	森山弘之
昭和	58	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	58	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
昭和	59	水圏における水銀の動態に関する研究	赤木洋勝
昭和	59	塩化メチル水銀中毒ラットの神経、肝及び腎組織におけるProtease及びそのinhibitorの動態について	荒木淑郎
昭和	59	有機水銀中毒ラットの有機フリーラジカルの測定	井形昭弘
昭和	59	水俣病患者のNMR-CTについて	井形昭弘
昭和	59	有機水銀中毒における脳腫脹：神経細胞変性に伴うアストロサイトの腫脹と病巣修復について	生田房弘
昭和	59	Visual Suppression testにおける熊本水俣病と脊髄小脳変性症との比較	石川喈
昭和	59	妊娠中に母体を通じて有機水銀に曝露されたマウスの生後観察	井上稔
昭和	59	メチル水銀の腎臓中への蓄積機構	井村伸正
昭和	59	メチル水銀毒性に及ぼす食餌中セレン濃度の影響(誌上発表)	井村伸正
昭和	59	微生物の水銀耐性獲得機構と水銀のメチル化・脱メチル化反応	井村伸正
昭和	59	自覚的MTF測定装置(CTS-5000)の応用のための基礎的研究	岩田和雄

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	59	水俣病症例における聴性中間反応の検討	大山勝
昭和	59	水俣病患者の追跡調査	岡嶋透
昭和	59	Krimsky Eye Cup PesimetryとGoldman Sesimetryの比較	岡村良一
昭和	59	水俣病患者の調節に関する研究(予報)	岡村良一
昭和	59	慢性水俣病剖検例の上丘障害と内矢状層障害の比較研究	岡村良一
昭和	59	脳神経系における酵素及び蛋白合成系に対するメチル水銀毒性	小俣三郎
昭和	59	メチル水銀中毒ラットにおける末梢有髄神経線維の再生能	黒岩義五郎
昭和	59	無機水銀直接定量法とラット胎仔、新生仔におけるメチル水銀無機化反応の欠如	小西鉄朗
昭和	59	軽症水俣病大脳皮質の画像処理装置による組織定量的検討	佐藤栄一
昭和	59	メチル水銀中毒ネコ:ノルエピネフリン受容体の変化と超微形態との対比	佐藤猛
昭和	59	ハムスター神経組織におけるメチル水銀の蓄積と酵素活性の変動についてーラットとの比較	菅野浩
昭和	59	動物体内でのメチル水銀Biotransformationの抑制と促進	須田郁夫
昭和	59	メチル水銀投与動物に対するハイドロダイサルファイドの効果	住野公昭
昭和	59	動物体内でのメチル水銀Biotransformationの促進と抑制	高橋等
昭和	59	メチル水銀投与動物の視覚系に関する生化学的研究	高橋康夫
昭和	59	廃棄乾電池中水銀等による身体負荷量	滝澤行雄
昭和	59	メチル水銀のDNA傷害性に関する研究ー α トコフェロールによる傷害の抑制について	滝澤行雄
昭和	59	高齢者水俣病の病理(続報)、対照高齢者脳の水銀組織化学	武内忠男
昭和	59	Vibration neuropathyについてー水俣病末梢神経障害の対照としての観察	武内忠男
昭和	59	視覚活動と水銀のとりこみに関する研究	筒井純
昭和	59	新潟水俣病の症候と診断、特に判断条件との関連	樺忠雄
昭和	59	正常若年者及び発達期脳障害児における動脈変化ー若年水俣病の対照として	長嶋和郎
昭和	59	メチル水銀の血中、胆汁中での動態とセレンによる生体内動態の修飾	永沼章
昭和	59	有機水銀中毒ラットの嗅上皮所見	中野雄一
昭和	59	水銀による環境汚染、特に海洋微生物への影響について	中村邦彦
昭和	59	水俣病患者の死因別SMR及び生存率について	野村茂
昭和	59	メチル水銀の生体内動態に関する研究	平山紀美子
昭和	59	ラット条件行動に及ぼす塩化メチル水銀の影響	福田健夫
昭和	59	人体臓器中の水銀濃度に関する調査研究ーその4	藤木素士
昭和	59	水銀中毒動物の行動と脳内アミン	藤崎正
昭和	59	培養神経系細胞でのメチル水銀毒性の研究	三浦郷子
昭和	59	水俣病患者の歩行障害に関する研究	三嶋功
昭和	59	水俣病患者における骨代謝の検討	三嶋功
昭和	59	視運動性眼振検査の加齢現象について	水越鉄理
昭和	59	水俣病のサーモグラフィーによる検討	宮武正
昭和	59	メチル水銀及び無機水銀をラットの側脳室内に投与した際の諸臓器への分布	山口誠哉
昭和	59	メチル水銀を早期投与した仔ラットの行動学的研究	山口誠哉
昭和	59	水圏における水銀の動態に関する研究	赤城洋勝
昭和	59	最近の水俣病認定患者の臨床像についてー感覚障害パターンを中心にー	荒木淑郎
昭和	59	慢性水俣病のCT scanによる検討(第2報)ー最近の水俣病認定患者ならびに非認定例の頭部CT scanの対比を中心にー	荒木淑郎
昭和	59	水俣病における末梢神経障害の客観的調査ー腓腹神経病理所見の検討ー	井形昭弘
昭和	59	剖検により慢性有機水銀中毒症と診断された1未認定例	生田房弘
昭和	59	新潟水俣病の聴力障害ー初期症例を中心にー	石川和光
昭和	59	長期経過水俣病の聴力障害	石川喈
昭和	59	水俣病の空間周波数特性、固視機能、瞬目反射(閃光刺激)ー後頭葉病変及び小脳変性症を対象として	石川哲
昭和	59	水俣病の感覚障害ー体性感覚誘発電位による検討ー	出田透
昭和	59	妊娠中に母体を通じて有機水銀に曝露されたマウスの生後観察	井上稔
昭和	59	微生物の水銀耐性獲得機構と水銀のメチル化・脱メチル化反応	井村伸正
昭和	59	EER(Electrically Evoked Response)の応用	岩田和雄
昭和	59	心因性反応における定量視野	大庭紀雄
昭和	59	耳鳴分析による病態診断の試み(第2報)ー無響室内耳鳴についてー	大山勝
昭和	59	水俣病における短潜時体性感覚誘発電位および瞬目反応	岡嶋透
昭和	59	Krimsky Eye Cup Perimetry と Goldman Perimetryの比較	岡村良一
昭和	59	水俣病における体性感覚誘発電位所見	黒岩義五郎
昭和	59	無機水銀直接定量法とラット胎仔、新生仔におけるメチル水銀無機化反応の欠如	小西鉄朗
昭和	59	脳神経系における酵素及び蛋白合成系に対するメチル水銀毒性	小俣三郎
昭和	59	動物体内でのメチル水銀Biotransformationの抑制と促進	須田郁夫
昭和	59	知覚障害のみを呈する水俣病疑似例についての考察	樺忠雄
昭和	59	メチル水銀の血中、胆汁中での動態とセレンによる生体内動態の修飾	永沼章
昭和	59	水俣病申請者における聴覚所見	中野雄一
昭和	59	水銀による環境汚染、特に海洋微生物への影響について	中村邦彦
昭和	59	メチル水銀の生体内動態に関する研究ーマウスにおけるメチル水銀の生体内分布ー	平山紀美子
昭和	59	水銀中毒動物の行動と脳内アミン	藤崎正
昭和	59	培養神経系細胞でのメチル水銀毒性の研究	三浦郷子
昭和	59	サーモグラフィーによる末梢自律神経障害の客観的検討	三嶋功
昭和	59	聴性誘発反応のマイクロコンピュータ処理	水越鉄理
昭和	59	水俣病のサーモグラフィーによる検討	宮武正
昭和	59	正中神経刺激による体性感覚誘発電位脳電図(頭皮上分布)の臨床応用	村井由之
昭和	59	水俣病の検診・審査促進のための神経内科に係る臨床診断に関する研究ー小児水俣病の神経学的臨床診断に関する研究ー	森山弘之
昭和	59	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	樺忠雄

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	59	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
昭和	60	実験的塩化メチル水銀中毒症における末梢神経変性機序(第4報)ー血液ー神経関門の観察から	荒木淑郎
昭和	60	水俣病における体性感覚誘発電位の検討	有村公良
昭和	60	水俣病剖検例における感覚系組織水銀量の検討	有村公良
昭和	60	水俣病症候の解析ーいわゆるボーダーライン層の神経症候に関して	井形昭弘
昭和	60	末梢Waller変性における浮腫の形態学的検討:有機水銀中毒病変を理解するために	生田房弘
昭和	60	水俣病の電気生理学的研究 とくに誘発電位について	稲吉鉦三
昭和	60	メチル水銀胎仔毒性発見に及ぼすセレン摂取量の影響	井村伸正
昭和	60	メチル水銀の腎臓への取り込みにおけるγGTPの役割(誌上発表)	井村伸正
昭和	60	Cortical OKNIによるコントラスト感度測定に関する研究	岩田和雄
昭和	60	水俣病の感覚障害、ことに複合感覚検査成績について	岡嶋透
昭和	60	求心性視野狭窄と滑動性追従運動異常がみられた二硫化炭素中毒について	岡村良一
昭和	60	メチル水銀投与ラットにおける末梢有髄神経繊維の再生	黒岩義五郎
昭和	60	軽症水俣病大脳皮質の画像処理装置による組織定量的検討そのⅡ	佐藤栄一
昭和	60	メチル水銀中毒ネコの後頭葉におけるノルエピネフリン及びアセチルコリン受容体の変化	佐藤猛
昭和	60	メチル水銀中毒ネコの後頭葉におけるノルエピネフリン受容体の変化	佐藤猛
昭和	60	ハムスター組織におけるメチル水銀の蓄積、ラットとの比較(その2)	菅野浩
昭和	60	メチル水銀投与動物に対するハイドロダイサルファイドとS化合物の共存効果	住野公昭
昭和	60	網内系ブロッカーによるメチル水銀biotransformationの抑制	高橋等
昭和	60	活性酸素生成系及び利用系によるアルキル水銀の無機化	高橋等
昭和	60	マクロファージ及び多核血液球によるアルキル水銀無機化の研究	高橋等
昭和	60	メチル水銀投与家兎の後根神経節におけるmRNA含量について	高橋康夫
昭和	60	メチル水銀投与家兎の中枢神経系におけるコレシストキニン濃度	高橋康夫
昭和	60	中枢及び末梢神経系におけるアミノ酸のuptakeに対するメチル水銀投与の影響	高橋康夫
昭和	60	水俣地区居住者における主要臓器中の水銀蓄積量(1983から1985)	滝澤行雄
昭和	60	一般環境大気中の微量水銀による健康影響の問題と評価	滝澤行雄
昭和	60	水俣病経過例の病理学的研究(Ⅰ)脳における大切片についての水銀分布	武内忠男
昭和	60	水俣病経過例の病理学的研究(Ⅱ)水銀定量値とその組織化学並びに生体色素との鑑別について	武内忠男
昭和	60	実験的有機水銀中毒における17野の形態計測的研究	筒井純
昭和	60	視覚活動と水銀の取り込みに関する研究	筒井純
昭和	60	視覚誘発動的脳電位図法の脳疾患への応用	筒井純
昭和	60	メチル水銀中毒症の基本的臨床像ー感覚障害と聴力障害について	椿忠雄
昭和	60	正常若年者及び発達期脳障害児における冠動脈変化ー若年水俣病の対象として	長嶋和郎
昭和	60	水俣病の電気生理学的研究 体性感覚誘発電位、視覚誘発電位	中西亮二
昭和	60	有機水銀中毒ラットの内耳所見	中野雄一
昭和	60	水俣病患者の死因分析	野村茂
昭和	60	求心性視野狭窄と図形反射視覚誘導電位 健康者及び患者における検討	福井律子
昭和	60	有機水銀中毒におけるGM1の効果	福田健夫
昭和	60	脳脂質に及ぼすメチル水銀の影響に関する研究	藤木素士
昭和	60	人体臓器中の水銀濃度に関する研究(その5)(誌上発表)	藤木素士
昭和	60	有機水銀汚染地区住民における動脈硬化について	三嶋功
昭和	60	視性眼反射の利得の分析	水越鉄理
昭和	60	水銀中毒ラットにおける筋エネルギー代謝の検討	宮武正
昭和	60	有機水銀中毒動物の行動と脳内アミン	村尾光治
昭和	60	脳に対するメチル水銀の神経生化学的影響	山口誠哉
昭和	60	慢性水俣病診断の問題点ー神経症候並びに患者老齢化に伴う各種合併症の実態を中心にー	荒木淑郎
昭和	60	水俣病における短潜時体性感覚誘発電位の検討	有村公良
昭和	60	水俣病剖検例における体性感覚系組織水銀量と病理所見の検討	有村公良
昭和	60	水俣病症候の解析ーいわゆるボーダーライン層の神経症候に関してー	井形昭弘
昭和	60	慢性有機水銀中毒症の1剖検例ー経過20年の長期生存例ー	生田房弘
昭和	60	嗅球、鼻粘膜の水銀蓄積量に関する実験的研究	石川和光
昭和	60	Visual suppression testと加齢との関係	石川喈
昭和	60	水俣病と平衡機能、水銀など微量元素分析法、後頭葉と眼球運動ー水俣病との関連を中心にー まとめ	石川哲
昭和	60	水俣病と平衡機能、水銀など微量元素分析法、後頭葉と眼球運動ー水俣病との関連を中心にー 1)Balance Study of Methyl Mercury Poisoning	石川哲
昭和	60	水俣病と平衡機能、水銀など微量元素分析法、後頭葉と眼球運動ー水俣病との関連を中心にー 2)環境汚染と微量元素分析法の意義	石川哲
昭和	60	水俣病と平衡機能、水銀など微量元素分析法、後頭葉と眼球運動ー水俣病との関連を中心にー 3)後頭葉と眼球運動	石川哲
昭和	60	水俣病における視覚誘発電位の検討	出田透
昭和	60	パターンVEPIによる視覚的コントラスト感度測定に関する研究	岩田和雄
昭和	60	心因性視野障害に関する臨床的研究	大庭紀雄
昭和	60	耳鳴分析による病態診断の試み(第3報)ー自記オージオメトリーの応用	大山勝
昭和	60	水俣病患者の聴性脳幹反応(ABR)および中潜時聴性反応(MLR)	岡嶋透
昭和	60	水俣病の電気生理学的研究ー特に誘発電位についてー	岡嶋透
昭和	60	水俣病患者の調節に関する研究	岡村良一
昭和	60	Krimsky Eye Cup視野について(第2報)	岡村良一
昭和	60	求心性視野狭窄に対する客観的検査法ー図形反転視覚誘発電位の有用性	黒岩義五郎
昭和	60	メチル水銀中毒ネコの後頭葉におけるノルエピネフリン受容体の変化	佐藤猛
昭和	60	中枢および末梢神経系におけるアミノ酸のuptakeに対するメチル水銀投与の影響	高橋康夫
昭和	60	視覚誘発動的脳電位図法の脳疾患への応用	筒井順
昭和	60	新潟水俣病の診断と、環境庁事務次官通知(昭46)ならびに後天性水俣病の判断基準(昭52)との関係	椿忠雄
昭和	60	重心動揺計を用いた中枢性疾患と末梢前庭性疾患の鑑別	中野雄一

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	60	求心性視野狭窄と図形反転視覚誘発電位－健康者および患者における検討－	福井律子
昭和	60	軽症水俣病の対照としての小脳皮質の病理学的研究	松山春郎
昭和	60	水俣病患者の予後に関する研究(第3報)	三嶋功
昭和	60	重心動揺軌跡長と周波数分析の診断的意義について	水越鉄理
昭和	60	Hopf法による運動神経伝導速度分布の測定－測定自動化と水俣病診断に対する有用性の検討	宮武正
昭和	60	後脛骨神経刺激による体性感覚誘発電位トポグラフィーの臨床応用	村井由之
昭和	60	有機水銀中毒動物の行動と脳内アミン	村尾光治
昭和	60	小児水俣病患者の鑑別診断	森山弘之
昭和	60	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	60	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
昭和	61	慢性水俣病診断の問題点(第一報)－神経症候並びに患者高齢化に伴う各種合併症の実態を中心に	荒木淑郎
昭和	61	水俣病における眼球運動の定量的解析	井形昭弘
昭和	61	水俣病の鑑別診断におけるHAMの重要性	井形昭弘
昭和	61	反復性crushによるonion-bulb病変の実験的作成－有機水銀中毒の末梢神経病変を理解するために	生田房弘
昭和	61	有機水銀中毒ラットにおける嗅球の電顕的検討	生田房弘
昭和	61	水俣病患者における語音明瞭検査の再検討	石川喺
昭和	61	ラット胆汁中でのメチル水銀の存在状態とその加齢による変動	井村伸正
昭和	61	パターンERGとパターンVEPの同時記録による視機能評価法の研究	岩田和雄
昭和	61	脳内水銀反応陽性で水俣病病変を認めない7剖検例について	衛藤光明
昭和	61	有機水銀中毒ラットにおける嗅上皮及び嗅球の形態学的研究	大山勝
昭和	61	水俣病患者における図形反転視覚誘発電位 1)健康対照におけるVEPの検討	岡嶋透
昭和	61	水俣病患者の調節に関する研究 第2報－正常人の日内変動について	岡村良一
昭和	61	有機水銀が挫滅処置後の末梢有髄線維の再生に及ぼす影響	後藤幾生
昭和	61	軽症水俣病海馬における老人性変化について	佐藤栄一
昭和	61	メチル水銀中毒ラットの神経系における蛋白質合成阻害の機序(その1)	菅野浩
昭和	61	メチル水銀投与動物に対するチオシステアミン投与法の検討	住野公昭
昭和	61	活性酵素産生細胞によるメチル水銀の分解	高橋等
昭和	61	メチル水銀脳内取り込みにおける腎の影響	高橋等
昭和	61	メチル水銀投与動物の脳及び神経節における神経ペプチド、神経特異蛋白のmRNAについて	高橋康夫
昭和	61	メチル水銀の電解質代謝に及ぼす影響(第1報)	滝澤行雄
昭和	61	Vibration Neuropathy、特にDM-Neuropathyとの相違について(続報)	武内忠男
昭和	61	水俣病剖検例の肝病変について	武内忠男
昭和	61	二次元脳電位図の視中枢反応と視野	筒井純
昭和	61	メチル水銀中毒症の基本的臨床像(続報)－初期新潟水俣病カルテの所見を中心として	椿忠雄
昭和	61	水俣病患者における視床電位の検討	出田透
昭和	61	脳における有機水銀蛋白の研究	長嶋和郎
昭和	61	有機水銀中毒ラットの嗅脳所見	中野雄一
昭和	61	水俣病患者の剖検診断に関する疫学的解析	野村茂
昭和	61	脳内アセチルコリン系に及ぼす塩化メチル水銀の影響	福田健夫
昭和	61	メチル水銀によるミトコンドリア呼吸阻害に関する研究	藤木素士
昭和	61	有機水銀汚染地区住民における動脈硬化について(第2報)	三嶋功
昭和	61	新潟県水俣病の神経耳科学的追跡調査	水越鉄理
昭和	61	塩化メチル水銀中毒ラット脳のNMRIによる検討	宮武正
昭和	61	ラットの自発行動量日内リズムに対するメチル水銀及びセレンの影響	山口誠哉
昭和	61	慢性水俣病診断の問題点(第2報)－臨床認定例、剖検認定例及び剖検棄却例の神経症候の対比を中心に－	荒木淑郎
昭和	61	Krimsky Eye Cup視野について－第2報－	粟井嗣己
昭和	61	新しく発見された脊髄疾患HAMの臨床像の分析ならびに水俣病の鑑別診断におけるHAMの重要性に関する研究	井形昭弘
昭和	61	実験的メチル水銀中毒ラットにおける嗅上皮の形態学的研究	石川和光
昭和	61	水俣病申請患者における内耳病理組織学的研究	石川喺
昭和	61	水俣病の診断、病変を捉えるための基礎的研究	石川哲
昭和	61	水俣病患者における視床電位の検討	出田透
昭和	61	Bar patternによるコントラスト感度の方向特異性の検討	岩田和雄
昭和	61	心因性視野障害の応答特性に関する研究	大庭紀雄
昭和	61	水俣病症例における耳鳴難聴と耳管機能－正常者の音響耳管機能検査成績－	大山勝
昭和	61	水俣病における図形反転誘発電位－典型例における検討－	岡嶋透
昭和	61	Vibration Neuropathy、特にMD-Neuropathyとの相違について(続報)	武内忠男
昭和	61	水俣病剖検例の肝病変について	武内忠男
昭和	61	図形反転視覚誘発電位におけるN100の性質	田島静
昭和	61	水俣病訴訟の判決における医学的問題点	椿忠雄
昭和	61	脊柱側彎症の重心動揺の定量分析	中野雄一
昭和	61	軽症水俣病の対照としての小脳皮質病変の病理組織学的研究	松山春郎
昭和	61	脊髄の加齢変化－軽症水俣病診断のためのコントロールとして－	松山春郎
昭和	61	水俣病患者の予後に関する研究(第4報)	三嶋功
昭和	61	視覚系・前庭系相互関係分析の視運動性－前庭動眼反射検査システム－	水越鉄理
昭和	61	Hopf法による運動神経伝導速度分布の測定－測定上の問題点－	宮武正
昭和	61	聴覚誘発電位トポグラフィーの臨床応用	村井由之
昭和	61	小児水俣病患者の鑑別診断	森山弘之
昭和	61	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	椿忠雄
昭和	61	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
昭和	62	環境中水銀の変換	赤木洋勝

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	62	慢性水俣病のCtscanによる検討－最近の水俣病認定患者並びに非認定例の頭部Ctscanの対比を中心に	荒木淑郎
昭和	62	有機水銀中毒ラットにおける筋内神経の組織定量的検討	井形昭弘
昭和	62	有機水銀中毒ラットのミトコンドリア酵素に関する研究	井形昭弘
昭和	62	水銀汚染地区住民の神経症候の頻度	井形昭弘
昭和	62	有機水銀中毒症における聴覚路病変－14剖検例の検討	生田房弘
昭和	62	有機水銀中毒ラット内耳の水銀分布	石川喈
昭和	62	メチル水銀の腎臓中への取り込みにおけるマウス系統差及び性差に関する研究－肝臓中にGSH及び腎臓中に γ GTPの役割	井村伸正
昭和	62	チューブリン蛋白合成に対するメチル水銀の影響	井村伸正
昭和	62	Pattern VEPによる時間周波数特性の検討	岩田和雄
昭和	62	長期経過した胎児性水俣病の一部検例	衛藤光明
昭和	62	胎児性水俣病が疑われたネコの一部検例	衛藤光明
昭和	62	有機水銀・無機水銀投与ラットにおける水銀組織化学反応陽性物質の同定及びその脳内分布の比較	衛藤光明
昭和	62	耳鳴の神経耳科学的研究－無響室内耳鳴の解析成績を中心に	大山勝
昭和	62	水俣病における運動関連脳電位(MRCP)－健康対照におけるMRCPの検討	岡嶋透
昭和	62	水俣病患者の調節に関する研究(第3報)	岡村良一
昭和	62	WGA-HRPの逆行性ニューロン越え標識による動眼神経核上性機構の神経解剖学的研究	岡村良一
昭和	62	一過性血液脳関門破壊時における有機水銀神経毒性について	後藤幾夫
昭和	62	有機水銀汚染地区における振戦及び心理図R-R間隔変動について	後藤孝史
昭和	62	ヒト後根神経節神経細胞の全割連続切片による計測 その1. コントロールにおける検討	佐藤栄一
昭和	62	メチル水銀中毒ラットの神経系における蛋白質合成阻害の機作(その2)	菅野浩
昭和	62	メチル水銀投与動物に対するグルタチオンイソプロピルエステルの効果	住野公昭
昭和	62	アルキル水銀中毒動物における白血球の挙動	高橋等
昭和	62	中枢神経系細胞における遺伝子発現に対するメチル水銀の影響	高橋康夫
昭和	62	メチル水銀の電解質代謝に及ぼす影響(第二報)	滝澤行雄
昭和	62	生体内における水銀化合物の形態	滝澤行雄
昭和	62	環境中水銀の動態	滝澤行雄
昭和	62	動的脳電図法による視野の他覚的評価	筒井純
昭和	62	水俣病の感覚障害－体性感覚誘発電位皮質成分の頭皮上分布	出田透
昭和	62	ヒト末梢知覚神経と運動神経との差異－有機水銀性末梢知覚障害の基礎的研究	長嶋和郎
昭和	62	水俣病申請者における重心動揺検査所見	中野雄一
昭和	62	胎児性水俣病の神経症状－特にdystoniaについて	野元正弘
昭和	62	塩化メチル水銀誘発攻撃行動に関する研究	福田健夫
昭和	62	メチル水銀中毒と臓器中メチル水銀の形態変化に関する研究	藤木素士
昭和	62	水俣地方における水銀汚染の推移	藤木素士
昭和	62	水俣病と2・3の神経疾患の剖検診断に関する比較研究	二塚信
昭和	62	新潟水俣病の神経耳科学的追跡調査(第2報)審査申請未認定者を中心に	水越鉄理
昭和	62	有機水銀中毒症における眼症状の推移	皆良田研介
昭和	62	塩化メチル水銀中毒ラットのNMRIによる検討	宮武正
昭和	62	有機水銀投与ラットの脳内神経伝達物質と水銀蓄積について	山口誠哉
昭和	62	有機水銀汚染地区住民における動脈硬化について	若宮純司
昭和	62	環境中水銀の変換	赤城洋勝
昭和	62	慢性水俣病診断の問題点－臨床認定例、剖検認定例、及び剖検棄却例における各主要神経症候出現頻度の比較を中心に－	荒木淑郎
昭和	62	水俣病認定促進に関する現状と提案	井形昭弘
昭和	62	有機水銀中毒症における前庭神経および小脳系:14剖検例の検討	生田房弘
昭和	62	メチル水銀投与ラットの異常歩行と小脳の組織学的研究	石川和光
昭和	62	ヒト蝸牛中のメラニン保有細胞	石川喈
昭和	62	水俣病の診断・病変を捉えるための基礎的研究	石川哲
昭和	62	水俣病の感覚障害－体性感覚誘発電位皮質成分の頭皮上分布－	出田透
昭和	62	長期経過した胎児性水俣病の一部検例	衛藤光明
昭和	62	中心視野感度に関する知見補遺	大庭紀雄
昭和	62	ラウドネスバランス法による耳鳴評価	大山勝
昭和	62	水俣病における運動関連脳電位(MRCP)－患者における検討	岡嶋透
昭和	62	有機水銀汚染地区における振戦及び心電図R-R間隔変動について	後藤孝文
昭和	62	Confrontation testとGoldmannとの比較検討	高木峰夫
昭和	62	水銀測定法の検討	滝澤行雄
昭和	62	環境中水銀の動態	滝澤行雄
昭和	62	図形反転視覚誘発電位の変動性:個人内、試行毎の比較	田島静
昭和	62	昭和62年度水俣病審査促進研究状況報告	中野雄一
昭和	62	胎児性水俣病の神経症状－特にdystoniaについて－	野元正弘
昭和	62	水俣地方における水銀汚染の推移	藤本素士
昭和	62	軽症水俣病の対照としての小脳皮質病変を捉えるための基礎的研究(その3)	松山春郎
昭和	62	水俣病患者の予後に関する研究(第5報)	三嶋功
昭和	62	自発・頭位眼振に対する情報処理化の問題点	水越鉄理
昭和	62	有機水銀中毒症における眼症状の推移	皆良田研介
昭和	62	水俣病の診断法に関する研究－Collision法を用いた運動神経伝導速度分布の測定と問題点－	宮武正
昭和	62	磁気刺激による体性感覚誘発電位の検討	村井由之
昭和	62	小児水俣病患者の識別診断	森山弘之
昭和	62	有機水銀汚染地区住民における動脈硬化について	若宮純司
昭和	62	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	井形昭弘
昭和	62	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造

年号	年	課題名	主任研究者
昭和	63	加齢による水俣病への影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の神経学的所見の検討－	荒木淑郎
昭和	63	水俣病の臨床像－この15年間の推移	井形昭弘
昭和	63	有機水銀中毒ラットにおける脂肪酸代謝の異常	井形昭弘
昭和	63	有機水銀汚染地区住民の不随意運動－intension tremor, chorea, athetosis, ballismus, idiopathic hemifacial spasmについて	井形昭弘
昭和	63	有機水銀中毒症における血管変化についての研究－検索法とその進捗状況	生田房弘
昭和	63	水俣病認定申請者におけるOKP検査の検討	石川喺
昭和	63	メチル水銀の胆汁中排泄及び腸管吸収	井村伸正
昭和	63	調節の動的特性の正常人の年齢的变化に関する研究	岩田和雄
昭和	63	胎児性水俣病剖検脳の超微形態学的研究	衛藤光明
昭和	63	慢性無機水銀中毒2剖検例における水銀組織化学反応知見補遺	衛藤光明
昭和	63	水俣病症例の神経耳科学的検索－耳鳴の選別による病態解析	大山勝
昭和	63	水俣病における電気生理学的研究－水俣病患者における正中神経刺激SSEPの経時的観察	岡嶋透
昭和	63	水俣病患者の調節に関する研究(第4報)－Edinger-Westphal核とその周辺の変位について	岡村良一
昭和	63	一過性血液脳関門破綻時における有機水銀神経毒性に関する研究－第2報	後藤幾生
昭和	63	水俣病剖検例における後根神経節細胞の組織計測	佐藤栄一
昭和	63	特異的タンパク分子の翻訳、修飾及び細胞内移行過程に対するメチル水銀の影響について	菅野浩
昭和	63	神経細胞内の情報伝達機構に及ぼすメチル水銀の影響	住野公昭
昭和	63	韓国人毛髪中水銀濃度	住野公昭
昭和	63	臓器中無機水銀の化学的性質による分画・定量とその意義	高橋等
昭和	63	培養細胞(PC12)に対するメチル水銀と神経成長因子(NGF)の影響	高橋康夫
昭和	63	水俣地区居住者における主要臓器中の水銀蓄積量(1986-1988年)	滝澤行雄
昭和	63	メチル水銀の電解質代謝に及ぼす影響(第三報)	滝澤行雄
昭和	63	MMC投与によるラットリン脂質代謝に対する影響	滝澤行雄
昭和	63	立体画像想定用動的脳電図による非侵襲脳機能局在診断法の開発	筒井純
昭和	63	正規分布曲線によるSEP頭皮上分布シミュレーション－各波形要素のトポグラフィー	出田透
昭和	63	ラット知覚神経と運動神経の差異－有機水銀中毒障害因子の解析	長嶋和郎
昭和	63	有機水銀中毒ラットの内耳所見－内耳の水銀染色	中野雄一
昭和	63	メチル水銀の尿中排泄に関する研究	福田健夫
昭和	63	ラットの血液中及び臓器中におけるメチル水銀の動態と分布	藤木素士
昭和	63	メチル水銀がミトコンドリアに引き起こす呼吸阻害における脂質の過酸化の影響	藤木素士
昭和	63	水俣病患者発生地域住民の肝機能検査成績について	二塚信
昭和	63	電気性身体動揺反応検査(GBST)の客観的分析法	水越鉄理
昭和	63	メチル水銀中毒砂ネズミ脳のNMRによる検討	宮武正
昭和	63	中国葫芦島の水銀精錬工場労働者の頭髪中水銀に関する研究	山口誠哉
昭和	63	臨床症候の客観把握に関する研究 1)サル後頭葉死因の逆行性変性の可能性について	新井田孝裕
昭和	63	熊本県御所浦島における水俣病申請者の神経学的所見－昭和63年度検診結果報告－	荒木淑郎
昭和	63	水俣病の鑑別診断におけるHAMの重要性	井形昭弘
昭和	63	有機水銀中毒症における聴覚路病変および前庭神経系・小脳病巣の比較検討	生田房弘
昭和	63	直立重心同様の年齢的変動に関する研究	石川和光
昭和	63	ヒト蝸牛中のメラニン保有細胞及び聴力機能に関する影響	石川喺
昭和	63	ハンフリー自動視野計による視野の信頼性と再現性に関する検討	岩田和雄
昭和	63	慢性無機水銀中毒2剖検例における水銀組織化学反応計測補遺	衛藤光明
昭和	63	中心部視野の特性と加齢変化	大庭紀雄
昭和	63	水俣病症例における耳鳴の臨床的研究－耳鳴と筋弛緩作用との関係についての基礎的検討－	大山勝
昭和	63	水俣病の正中刺激SSEPによる視床電位の検討	岡嶋透
昭和	63	水俣病における視野障害と視覚誘発電位IV 多種類パターン刺激によるSteady-state型視覚誘発電位の有用性	後藤幾生
昭和	63	水俣病の検診・審査促進のための定量的診断法に関する研究－水俣病患者データの処理システム－	滝澤行雄
昭和	63	正規分布曲線によるSEP頭皮上分布のシミュレーション－各波形要素のトポグラフィー－	出田透
昭和	63	回転眼振検査による前庭機能検査の診断	中野雄一
昭和	63	水銀汚染地区住民の神経症候の頻度	納光弘
昭和	63	特別医療事業の水俣病認定申請状況に及ぼす影響の分析	野崎貞彦
昭和	63	軽症水俣病の対象としての小脳皮質病変の病理組織学的研究(その4)	松山春郎
昭和	63	水俣病患者の予後に関する研究(第6報)	三島功
昭和	63	Equi Test Systemによる感覚・運動機能の総合的研究	水越鉄理
昭和	63	Hopf法による運動神経伝達速度分布の測定－刺激強度と不応期の補正－	宮武正
昭和	63	磁気刺激と電気刺激による体性感覚誘発電位の比較検討	村井由之
昭和	63	小児水俣病の鑑別診断	森山弘之
昭和	63	臨床症候の客観把握に関する研究 2)衝動性眼球運動潜時 saccadic latency 視野異常検出法への応用	山田徹人
昭和	63	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	井形昭弘
昭和	63	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
平成	1	加齢による水俣病への影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の神経学的所見の検討(中間報告)	荒木淑郎
平成	1	有機水銀中毒と血管変化の関連性についての研究－頭蓋内血管	生田房弘
平成	1	メチル水銀の腎臓中への取り込み機構	井村伸正
平成	1	上下半視野刺激による視覚誘発電位と静的視野の相関に関する研究	岩田和雄
平成	1	チメロサル投与によるマウスfootpadの炎症性反応	衛藤光明
平成	1	チメロサルのマウスにおける実験病理学的研究(第一報)	衛藤光明
平成	1	水俣病認定症例における聴力変化について	大山勝
平成	1	水俣病における長潜時反射(LLR)及び体性感覚誘発電位(SEP)の検討	岡嶋透
平成	1	小型サル(Common Marmoset)の実験的メチル水銀中毒症に関する研究	岡本良一
平成	1	有機水銀モデル・コモンマーモセットの病像－脊髄、末梢神経、筋病変を中心に	納光弘

年号	年	課題名	主任研究者
平成	1	水俣病における感覚障害定量化について	納光弘
平成	1	水俣病患者にみられた微細な対側性模倣性連合運動について	納光弘
平成	1	一過性血液脳関門破綻時における有機水銀神経毒性に関する研究－第3報	後藤幾生
平成	1	水俣病剖検例における神経病理学的変化の定量的検索－水俣病の脊髄後根神経節の組織計測(3)	佐藤栄一
平成	1	神経系のメチル水銀高親和性タンパク質の検出について	菅野浩
平成	1	メチル水銀投与マウスのSODとAキナーゼ活性の変動	住野公昭
平成	1	運動機能の定量的解析－特に小脳症状について	大勝洋祐
平成	1	臓器内非イオン化型無機水銀の生成機序	高橋等
平成	1	メチル水銀投与ラットにおける神経伝達物質受容体mRNAの研究	高橋康夫
平成	1	腎障害モデル動物体内のメチル水銀挙動について－puromycin投与による腎障害及び馬杉腎炎	滝澤行雄
平成	1	MMC及びMgCl2投与によるラット脳脂質過酸化に及ぼす影響	滝澤行雄
平成	1	雄物川水域ウグイの水銀濃度－最近10年間の推移(1980-1989)	滝澤行雄
平成	1	視野狭窄の他覚的判別法:動的脳電図法と狭視野負荷法による	筒井純
平成	1	水俣病患者の末梢神経機能検査	出田透
平成	1	有機水銀中毒症ラットにおけるProtein KinaseC及び神経系蛋白の免疫組織学的研究	長嶋和郎
平成	1	水俣病の臨床病理学的検討	中島洋明
平成	1	水銀中毒ラット内耳のS-100蛋白及びSubstanceP(SP)の局在－第1報:正常ラット内耳における局在について	中野雄一
平成	1	メチル水銀中毒ラットにおけるゴソン作動神経の変化	福田健夫
平成	1	微量のメチル水銀がラットの胎仔・新生仔に及ぼす影響	藤木素士
平成	1	メチル水銀の長期連続投与によるラット臓器中のメチル水銀レベル	藤木素士
平成	1	メチル水銀汚染地域における肝障害に関する疫学的解析	二塚信
平成	1	電気性身体動揺反応検査(GBST)の診断的意義	水越鉄理
平成	1	新潟地区水俣病の最近5年間の臨床経過	宮武正
平成	1	メチル水銀及びセレンを投与したラットの神経形態学的検査	山口誠哉
平成	1	金属水銀の生体内動態に及ぼす運動負荷の影響	山口誠哉
平成	1	熊本県御所浦町における水俣病申請者の神経学的所見(第2報)	荒木淑郎
平成	1	水俣病患者にみられた微細な対側性模倣性連合運動について	井形昭弘
平成	1	直立重心動揺の周波数分析に関する研究	石川和光
平成	1	臨床症候の客観的把握に関する研究	石川哲
平成	1	水俣病患者の末梢神経機能検査	出田透
平成	1	眼底モニター付光刺激装置による局所VEPの記録に関する研究	岩田和雄
平成	1	ヒト水俣病における外側膝状体の病理学的研究(中間報告)	衛藤光明
平成	1	定量視野測定値の変動に関する研究	大庭紀雄
平成	1	水俣病認定者における神経耳科学的検査成績の検討－耳鳴、めまいと聴力像の関係－	大山勝
平成	1	水俣病患者の後頭骨神経刺激による短潜時体性感覚誘発電子(SSEP)	岡島透
平成	1	水俣病における感覚障害の定量化について	納光弘
平成	1	水俣病における視覚障害と視覚の空間周波数特性	後藤幾生
平成	1	有機水銀中毒症における小脳顆粒細胞層軸索終末:抗シナプス小胞特異蛋白モノクローナル抗体による免疫組織化学的検討	小柳清光
平成	1	腎障害からみた体内水銀の動態－puromycin投与による腎障害及び馬杉腎炎－	滝澤行雄
平成	1	回転検査による末梢前庭障害の定量的判定－慢性中耳炎症例の検討	中野雄一
平成	1	特別医療事業の受療状況について	野崎貞彦
平成	1	軽症水俣病の病理診断の問題点	松山春郎
平成	1	水俣病患者の予後に案する研究(第7報)	三嶋功
平成	1	動的感覚体平衡機能検査(Equi Test System)と眼振検査との比較(末梢性平衡障害例を中心に)	水越鉄理
平成	1	運動神経伝達速度分布(DCV)の測定－Hopf法とIngram法の比較－	宮武正
平成	1	体性感覚誘発電位トポグラフィーに影響する要因の研究	村井由之
平成	1	鹿児島県水俣病検診について	吉田重弘
平成	1	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	井形昭弘
平成	1	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
平成	2	水俣病に対する加齢の影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の神経学的所見の検討	荒木淑郎
平成	2	有機水銀中毒と血管変化の関連性についての研究－一般内臓器血管	生田房弘
平成	2	メチル水銀耐性PC12細胞株の樹立とその耐性獲得機構	井村伸正
平成	2	サーチコイル法による異常眼球運動の評価－コンタクトレンズの改良	岩田和雄
平成	2	チメロサル投与によるマウスFootpadの炎症性反応(続報)－メチル水銀、塩化第二水銀投与時との比較	衛藤光明
平成	2	チメロサルのマウスにおける実験病理学的研究(第二報)－末梢神経の光顕的、電顕的観察	衛藤光明
平成	2	水俣病における聴力障害の推移	大山勝
平成	2	水俣病患者のMRIについて	岡嶋透
平成	2	小型サル(Common Marmoset)の実験的メチル水銀中毒症に関する研究 その2 MRIによる病変の検出	岡村良一
平成	2	水俣病臨床像の推移	納光弘
平成	2	有機水銀汚染地区住民の神経所見について	納光弘
平成	2	一過性血液脳関門破綻時における有機水銀神経毒性に関する研究－第4報	後藤幾生
平成	2	水俣病剖検例における神経病理学的変化の定量的探索－臨床記録との比較検討(1)	佐藤栄一
平成	2	神経系のメチル水銀高親和性タンパク質の検出とその性質について	菅野浩
平成	2	メチル水銀投与マウス脳におけるストレス関連蛋白mRNAの変化	住野公昭
平成	2	川崎論文からみたサルのメチル水銀による発症閾値についての検討	住野公昭
平成	2	体位平衡機能の定量的解析	大勝洋祐
平成	2	アルキル水銀分解に関与する活性酸素種の解析	高橋等
平成	2	糖誘導性白内障の生成に及ぼすメチル水銀投与の影響	高橋等
平成	2	メチル水銀投与ラットにおける中枢神経系機能蛋白遺伝子の発現	高橋康夫
平成	2	亜鉛同時投与によるメチル水銀の毒性緩和効果－そのメカニズムの検討	滝澤行雄

年号	年	課題名	主任研究者
平成	2	塩化第二水銀とリン脂質分子種とのinteraction	滝澤行雄
平成	2	WHO Health Criteriaの根拠ともなっている第2水俣病患者の体内水銀の見直しについて	滝澤行雄
平成	2	動的脳電図法による視野障害の他覚的測定法の研究－臨床例における検討	筒井純
平成	2	上肢運動失調の定量的解析	出田透
平成	2	実験的有機水銀中毒症ラットの神経病理	長嶋和郎
平成	2	水俣病の臨床病理学的検討(第2報)	中島洋明
平成	2	有機水銀中毒ラット内耳のSubstanceP(SP)の局在(第2報)	中野雄一
平成	2	脳内アセチルコリン神経系に及ぼすメチル水銀の影響(Ⅱ)－マイクロダイヤライシス法を用いて	福田健夫
平成	2	塩化メチル水銀のウズラ卵黄の膜透過に及ぼす影響	藤木素士
平成	2	メチル水銀投与により誘発した過酸化脂質の神経細胞に及ぼす影響	藤木素士
平成	2	老化指標としての骨塩量とその関連因子－水俣病発生地域住民の骨塩量	二塚信
平成	2	視運動性眼振の緩徐相と急速相の関係について(正常反応と中枢性平衡障害患者及び有機水銀中毒症患者の比較)	水越鉄理
平成	2	細胞内サードメッセンジャーc-fosの研究	宮武正
平成	2	有機水銀投与ラットの中核及び末梢神経における金属分布	山口誠哉
平成	2	熊本県天草郡御所浦町在住者の神経学的所見の検討(第3報)－感覚障害パターンについて－	荒木淑郎
平成	2	有機水銀汚染地域住民の追跡調査	井形昭弘
平成	2	有機水銀中毒症の黒質：神経病理学的検討	生田房弘
平成	2	後頭葉病変と視野、眼球運動、色覚	石川哲
平成	2	加齢者の直立重心動揺における周波数分析	石川和光
平成	2	近見反応における瞳孔の周波数応答の検討：調節と瞳孔の同時測定	岩田和雄
平成	2	多角的視野測定に関する研究	岩田和雄
平成	2	ヒト水俣病における外側膝状体の病理学的研究	衛藤光明
平成	2	中心部視野の特性	大庭紀雄
平成	2	水俣病における神経耳科的臨床像－めまい、嗅味覚障害と聴力変化の分析を中心に－	大山勝
平成	2	水俣病におけるF波の検討	岡島透
平成	2	有機水銀汚染地区におけるパーキンソニズム	納光弘
平成	2	水俣病における視野障害と視覚誘発電位 V. 色刺激によるsteady-state型VEPの有用性	後藤幾生
平成	2	水俣病検診促進についての小脳症状、平衡機能障害の定量的解析法の応用	大勝洋祐
平成	2	新潟水俣病症例における健康影響の評価、特に妊産婦の量・反応関係－研究補遺－	滝澤行雄
平成	2	上肢運動失調の定量的解析	出田透
平成	2	水俣病検診者剖検例からみた臨床と病理所見の相関について	中島洋明
平成	2	回転検査による末梢前庭障害の定量的判定(半規管瘻孔例の検討)	中野雄一
平成	2	鹿児島県における特別医療事業の受療状況について	野崎貞彦
平成	2	軽症水俣病の病理学的研究	松山春郎
平成	2	水俣病患者の予後に関する研究(第8報)	三嶋功
平成	2	起立台後方移動刺激に対する起立姿勢検討の意義	水越鉄理
平成	2	水俣病の診断法に関する研究 運動神経伝導速度分布(DCV)の測定－不応期の補正方法－	宮武正
平成	2	胸・腰椎部神経根磁気刺激による体性感覚誘発電位	村井由之
平成	2	鹿児島県水俣病検診について	吉田重弘
平成	2	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	井形昭弘
平成	2	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究	重松逸造
平成	3	水俣病に対する加齢の影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の神経学的所見の特徴、とくに感覚障害について	荒木淑郎
平成	3	有機水銀中毒症の中核神経系における加齢性変化：神経原線維変化と老人斑	生田房弘
平成	3	水俣病患者における感覚障害の客観的定量化	出雲周二
平成	3	HAMの脛骨神経刺激SEP－水俣病との差異について	伊津野良治
平成	3	マウス腎臓中に蓄積したメチル水銀及び無機水銀の尿管管への分泌と再吸収	井村伸正
平成	3	サーチコイル法による衝動性眼球運動の評価－特にoblique saccadeについて	岩田和雄
平成	3	チメロサルによるMass Cellの活性化	衛藤光明
平成	3	ウサギにおけるチメロサールの毒性病理学的研究	衛藤光明
平成	3	水俣病症例における嗅覚障害の研究－Smell Identification testの応用をめぐる	大山勝
平成	3	水俣病における電気生理学的研究(続報)－Event-related potentials(ERP)の検討	岡嶋透
平成	3	水俣病症状における加齢の影響についての検討－水銀非汚染地区の高齢者の検討から	納光弘
平成	3	有機水銀の培養シュワン細胞に対する影響	後藤幾生
平成	3	水俣病剖検例における神経病理学的変化の定量的検索－免疫組織化学の画像解析による定量化	佐藤栄一
平成	3	メチル水銀によるラット脳αチュブリン翻訳後修飾の変動について	菅野浩
平成	3	パプアニューギニア、フライ川及びマレイ湖の魚中水銀濃度と周辺住民の毛髪、尿中水銀濃度	鈴木継美
平成	3	脳の情報伝達に与える蛋白に対するメチル水銀の影響	住野公昭
平成	3	有機水銀汚染地区の住民健診における上肢運動機能と体平衡機能との定量的解析法による検査成績	大勝洋祐
平成	3	実験糖尿病動物における水銀毒性の低減	高橋等
平成	3	中枢神経細胞における遺伝子発現に対するメチル水銀の影響	高橋康夫
平成	3	塩化メチル水銀及び塩化第二水銀投与ラット臓器中の必須元素の挙動	滝澤行雄
平成	3	水俣病発生地域における肝硬変及び肝癌標準化死亡比(SMR)の推移(1969-1983)	滝澤行雄
平成	3	水俣地区居住者における主要臓器中の水銀蓄積量(1989-1991年)	滝澤行雄
平成	3	上肢運動失調からみる水俣病－定量的解析法、臨床評価による比較	出田透
平成	3	有機水銀中毒における変性Neurofilamentのリン酸化	長嶋和郎
平成	3	水俣病の臨床病理学的検討(第3報)	中島洋明
平成	3	内耳のneuropeptideの分布－脱灰標本による免疫組織科学的検討	中野雄一
平成	3	メチル水銀の行動への影響と脳内アセチルコリン動態	福田健夫
平成	3	中毒初期過程におけるメチル水銀のラット脳に対する作用	藤木素士
平成	3	初代培養ラット肝細胞に対するメチル水銀の作用と細胞内グルタチオンの防御的役割	藤木素士

年号	年	課題名	主任研究者
平成	3	水俣病発生地域における糖代謝異常について	二塚信
平成	3	パソコンにより諸機能をコンピュータ化した眼振計-ComputerizedENG	水越鉄理
平成	3	胎児性水俣病の臨床症状について	森山弘之
平成	3	体内c-fos発現とメチル水銀	湯浅龍彦
平成	3	心因の視機能に及ぼす影響に関する定量的分析法の研究	秋谷忍
平成	3	熊本県天草郡御所浦在住者の神経学的所見の検討(第4報)-非水銀汚染地区在住高齢者との比較-	荒木淑郎
平成	3	温度覚閾値検査計を用いた水俣病における感覚障害の客観的評価への試み	有村公良
平成	3	ヒト有機水銀中毒症における鳥矩野:モノクロナール抗シナプス小胞特異蛋白抗体による免疫組織化学的検討	生田房弘
平成	3	化学物質過敏症と自立神経系	石川哲
平成	3	球心性視野狭窄-臨床例から-	石川哲
平成	3	水俣病患者における感覚障害の客観的定量化	出雲周二
平成	3	HAMの脛骨神経刺激SEP-水俣病との差異について-	伊津野良治
平成	3	上肢運動失調からみた水俣病-定量的解析法、臨床評価による比較-	出田透
平成	3	眼底モニター付光刺激装置によるネコ局所ERG、VEPの記録に関する研究	岩田和雄
平成	3	最近(1987~1991年)の水銀非汚染地区住民剖検例の臓器水銀値および水銀組織化学反応について-熊本県内と東京都内住民の比較検討-	衛藤光明
平成	3	有機水銀汚染地区住民検診における小脳症状解析検査の応用	大勝洋祐
平成	3	イデベノンの臨床効果とくに網膜色素変性症への中心視野機能への効果	大庭紀雄
平成	3	水俣病における感覚障害の変化-老人痴呆と嗅覚障害を中心に-	大山勝
平成	3	慢性水俣病の診断における計量的診断の有用性に関する検討	納光弘
平成	3	水俣病における視野障害と視覚誘発電位 VI等輝度色刺激と輝度刺激によるsteady-state型VEPの有用性	後藤幾生
平成	3	胎児期および乳児期メチル水銀曝露とその影響に関する文献学的研究	近藤武文
平成	3	阿賀野川流域の水俣病発生地域におけるメチル水銀による後影響、とくに癌死亡の実態	滝澤行雄
平成	3	通信機能装着ワードプロセッサによる水銀関連文献検索システム	滝澤行雄
平成	3	水俣病の診断法に関する研究-正常人および末梢神経障害患者の運動神経伝達速度分布(DCV)	辻省次
平成	3	水俣病検診の動態と水俣病検診者のボーダーライン層の臨床病理学的検討	中島洋明
平成	3	高齢者のめまい統計	中野雄一
平成	3	水俣病の病理学的研究	松山春郎
平成	3	水俣病患者の予後に関する研究-第9報-	三嶋功
平成	3	高齢者の姿勢制御に占める体性感覚と視覚の影響について	水越鉄理
平成	3	円形および8字コイル磁気刺激による運動誘発電位	村井由之
平成	3	鹿児島県水俣病耳鼻咽喉科検診について	吉田重弘
平成	3	水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	井形昭弘
平成	3	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究 I	重松逸造
平成	3	水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究 II	重松逸造
平成	4	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究-メチル水銀投与ラット脳における細胞外グルタミン酸濃度	生田房弘
平成	4	水俣病の診断における脳機能検査法の利用-PET及びMEG検査	糸山泰人
平成	4	水俣病患者における臨床像の推移と病理学的研究-MRIを中心として	衛藤光明
平成	4	水俣病患者における加齢による臨床像への影響-鹿児島県地域における症例を中心として	納光弘
平成	4	視覚誘発反応を用いた各種視野傷害の他覚的評価	川島幸夫
平成	4	水俣病の神経障害に対する加齢の影響に関する研究-非水銀汚染地区在住高齢者の神経学的所見の検討	熊本俊秀
平成	4	微量メチル水銀の環境モニタリングに関する研究(第1報)	滝澤行雄
平成	4	視機能の加齢による影響に関する研究	秋谷忍
平成	4	感覚障害の客観的・定量化に関する研究	有村公良
平成	4	合併症による水俣病の主要症候への影響に関する研究-呼吸器疾患患者における神経症候発現の検討-	安藤正幸
平成	4	HAMの正中神経刺激SSEPS-水俣病との差異について-	伊津野良治
平成	4	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積に関する研究-メチル水銀感受性変異株を利用した細胞レベルのアプローチ	井村伸正
平成	4	網膜電位を利用した視野測定法に関する研究	臼井支朗
平成	4	神経におけるエネルギー・蛋白代謝機能とメチル水銀の影響に関する研究	大塚柳太郎
平成	4	視覚における心理的要因の影響に関する研究	大庭紀雄
平成	4	水銀化合物による形態的・機能的変化に関する研究-塩化メチル水銀による症候の加齢による修飾-	大本美禰子
平成	4	水俣病患者における嗅覚機能と全身症状との関係	大山勝
平成	4	メチル水銀のニューロン活動に対する影響に関する研究	加藤元博
平成	4	種々の細胞のメチル水銀に対する感受生に関する研究	後藤幾生
平成	4	水銀化合物による細胞障害とその修復に関する研究-GFAP免疫組織化学の画像解析による大脳組織修復の定量的検討-	佐藤栄一
平成	4	体平衡機能の定量的解析(第2報)	大勝洋祐
平成	4	水俣における健康都市構想に関する基礎的研究	高野健人
平成	4	メチル水銀の毒性修飾因子に関する研究	高橋等
平成	4	画像診断と臨床症状発現の関連性に関する研究-水俣病のMRI:特にホルマリン固定脳のMRI撮像における問題点について-	高橋睦正
平成	4	メチル水銀の神経系遺伝子発現への影響に関する研究	辻省次
平成	4	県外在住者の受診動向に関する研究	鳥山稔
平成	4	メチル水銀中毒症からの回復と神経再生に関する研究	長嶋和郎
平成	4	水俣病の臨床と病理の相関について-病理所見のスコア化について-	中島洋明
平成	4	平衡機能及び聴力の加齢による変化に関する研究-水俣病申請者と高齢者の聴覚検査所見の差異の検討-	中野雄一
平成	4	メチル水銀の神経系への毒性作用機序に関する研究	藤木素土
平成	4	有機水銀中毒症における水平視運動性眼振の指標注視能力の定量的検討	水越鉄理
平成	4	視野狭窄のメカニズムとその他覚的検出法に関する研究	向野和雄
平成	4	水俣病の主要症候と経時的変化に関する研究	村井由之
平成	4	胎児性患者の主要症候、神経症状に関する研究	森山弘之
平成	4	水俣病の自律神経障害の定量化・客観化に関する研究	山鹿真紀夫
平成	4	メチル水銀中毒砂ネズミ脳エネルギー代謝のMRSIによる検討-ナトリウムポンプの動的検討-	湯浅龍彦

年号	年	課題名	主任研究者
平成	4	「水俣病にみられる運動失調」について	岡嶋透
平成	4	水俣病の視野狭窄と鳥距野萎縮の関連について－MRIによる検討－	岡嶋透
平成	4	平成4年度水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	岡嶋透
平成	4	視機能の加齢による影響に関する研究	秋谷忍
平成	4	感覚障害の客観化・定量化に関する研究	有村公良
平成	4	合併症による水俣病の主要症候への影響に関する研究－呼吸器疾患患者における神経症候発現の検討－	安藤正幸
平成	4	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積に関する研究－メチル水銀感受性変異株を利用した細胞レベルのアプローチ－	井村伸正
平成	4	網膜電位を利用した視野測定法に関する研究	臼井支朗
平成	4	神経におけるエネルギー・蛋白代謝機能とメチル水銀の影響に関する研究	大塚柳太郎
平成	4	視覚における心理学的要因の影響に関する研究	大庭紀雄
平成	4	水銀化合物による形態的・機能的変化に関する研究－塩化メチル水銀による症候の加齢による修飾－	大本美禰子
平成	4	水俣病患者における嗅覚機能と全身症状との関係	大山勝
平成	4	「水俣病にみられる運動失調」について	岡嶋透
平成	4	水俣病の視野狭窄と鳥距野萎縮の関連について－MRIによる検討－	岡嶋透
平成	4	平成4年度水俣病認定審査に係る判断困難な事例の類型的考察に関する研究	岡嶋透
平成	4	メチル水銀のニューロン活動に対する影響に関する研究…	加藤元博
平成	4	水銀化合物による細胞障害とその修復に関する研究－GFAP免疫組織化学の画像解析による大脳組織修復の定量的検討－	佐藤栄一
平成	4	体平衡機能の定量的解析(第2報)	大勝洋祐
平成	4	水俣における健康都市構想、に関する基礎的研究	高野健人
平成	4	画像診断と臨床症状発現の関連性に関する研究－水俣病のMRI特にホルマリン固定脳のMRI撮像における問題点について－	高橋睦正
平成	4	メチル水銀の神経系遺伝子発現への影響に関する研究	辻省次
平成	4	県外在住者の受診動向に関する研究	鳥山稔
平成	4	メチル水銀中毒症からの回復と神経再生に関する研究…	長嶋和郎
平成	4	水俣病の臨床と病理の相関について－病理所見のスコア化について－	中島洋明
平成	4	平衡機能及び聴力の加齢による変化に関する研究－水俣病申請者と高齢者の聴覚検査所見の差異の検討－	中野雄一
平成	4	メチル水銀曝露の健康影響に関する研究－腎機能について－	二塚信
平成	4	有機水銀中毒症における水平視運動性腺振の指標注視能力の定量的検	水越鉄理
平成	4	視野狭窄のメカニズムとその他覚的検出法に関する研究	向野和雄
平成	4	水俣病の主要症候と経時的変化に関する研究	村井由之
平成	4	胎児性患者の主要症候、神経症状に関する研究	森山弘之
平成	4	水俣病の自律神経障害の定量化・客観化に関する研究	山鹿真紀夫
平成	4	メチル水銀中毒砂ネズミ脳エネルギー代謝の MRSによる検討－ナトリウムポンプの動的検討－	湯浅龍彦
平成	4	HAMの正中神経刺激 SSEPs－水俣病との差異について－	伊津野良治
平成	4	水俣病患者における臨床像の推移と病理学的研究－MRIを中心として－	衛藤光明
平成	4	水俣病の神経障害に対する加齢の影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の神経学的所見の検討－	熊本俊秀
平成	4	種々の細胞のメチル水銀に対する感受性に関する研究…	後藤幾生
平成	4	メチル水銀の毒性修飾因子に関する研究…	高橋等
平成	4	水俣病の診断における脳機能検査法の利用－PETおよび MEG検査－	糸山泰人
平成	4	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究－メチル水銀投与ラット脳における細胞外グルタミン酸濃度－	生田房弘
平成	4	視覚誘発反応を用いた各種視野傷害の他覚的評価	川島 幸夫
平成	4	微量メチル水銀の環境モニタリングに関する研究(第1報)	滝津行雄
平成	4	メチル水銀の神経系への毒性作用機序に関する研究…	藤木素士
平成	4	水俣病患者における加齢による臨床像への影響－鹿児島県地域における症例を中心として－	納光弘
平成	5	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究	生田房弘
平成	5	視覚の他覚的検出法に関する研究－Pupil Perimetryの開発	石川哲
平成	5	視野狭窄のメカニズムとその他覚的検出法に関する研究(第二報)－視野測定法の他覚的、自覚的検査法の工夫(第二報)	石川哲
平成	5	水俣病患者における臨床像の推移と病理学的研究－その1)MRIを中心として	衛藤光明
平成	5	水俣病患者における加齢による臨床像への影響－鹿児島県地域における症例を中心として	納光弘
平成	5	水俣病の神経障害に対する加齢の影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の日常生活動作活動(ADL)及び知的機能の検討	熊本俊秀
平成	5	水俣病の診断における脳機能検査法の利用	小林卓郎
平成	5	微量メチル水銀の環境モニタリングに関する研究(第2報)	滝津行雄
平成	5	視機能の加齢による影響に関する研究	秋谷忍
平成	5	八代湾沿岸水俣病患者における悪性腫瘍発生率についての研究	秋葉澄伯
平成	5	感覚障害の客観化・定量化に関する研究	有村公良
平成	5	水俣病とHAMを合併したと考えられる1症例－電気生理学的検討－	伊津野良治
平成	5	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積、毒性発現の機構に関する研究	井村伸正
平成	5	最近の水俣病認定患者の神経症候と合併症の実態について	内野誠
平成	5	神経症候の定量的解析－上肢運動の定量的解析－	大勝洋祐
平成	5	視野測定値の変動要因に関する研究、特に心因性視野障害の長期経過について	大庭紀雄
平成	5	水俣病における神経耳鼻科学的異常と全身症状との関係	大山勝
平成	5	メチル水銀のニューロン活動に対する影響に関する研究:微量・長時間投与について	加藤元博
平成	5	視覚誘発反応を用いた求心性視野障害の他覚的評価	川島幸夫
平成	5	種々の細胞のメチル水銀に対する感受性に関する研究	後藤幾生
平成	5	阿賀野川流域の有機水銀曝露集団における水俣病の発生の動向(予報)	近藤喜代太郎
平成	5	水銀化合物による細胞障害とその修復に関する研究－βアミロイド蛋白とミドカインの免疫組織化学による検討－	佐藤栄一
平成	5	水俣病の臨床と病理の相関について－病理所見のスコア化(第2報)	佐藤栄一
平成	5	水俣病患者における神経症候の長期推移に関する研究	佐藤宏
平成	5	水俣における健康都市構想に関する基礎的研究	高野健人
平成	5	画像診断と臨床症状発現の関連性に関する研究:鳥距野のMRI局所解剖および水俣病患者におけるMRI所見と視野との関連について	高橋睦正
平成	5	メチル水銀の神経系への毒性作用機序に関する研究	田島静子

年号	年	課題名	主任研究者
平成	5	聴力の加齢による正常値の変化に関する研究	立木孝
平成	5	メチル水銀の神経系遺伝子発現への影響に関する研究	辻省次
平成	5	水俣病患者における神経耳科学的所見の経時的変化について	土生健二郎
平成	5	県外在住者の受診動向に関する研究	鳥山稔
平成	5	メチル水銀誘発末梢神経障害とその回復に関する研究	長嶋和郎
平成	5	平衡機能の加齢による変化に関する研究－衝動性眼球運動の加齢の影響に関する検討－	中野雄一
平成	5	水俣病の主要症候と経時的変化に関する研究	村井由之
平成	5	胎児性患者の主要症候、精神症状に関する研究	森山弘之
平成	5	マウスにおける塩化メチル水銀直接脳内投与の影響	湯浅龍彦
平成	5	新潟水俣病患者における垂直性視運動性振眼の指標注視能力の定量的分析－加齢変化を加味した指標注視能力の分析－	渡辺行雄
平成	5	小脳萎縮と小脳機能との関連に関する研究－MRIと重心計による検討－	岡嶋透
平成	5	水俣病における症候の出現時期に関する研究－臨床所見と病理所見の対比から－	岡嶋透
平成	5	視機能の加齢による影響に関する研究	秋谷忍
平成	5	八代海沿岸水俣病患者における悪性腫瘍発生率についての研究	秋葉澄伯
平成	5	感覚障害の客観化・定量化に関する研究	有村公良
平成	5	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 I) In vivoマイクロダイヤライシス法を用いて確認されたメチル水銀による小脳神経細胞外間隙中のアミノ酸レベルの変動	生田房弘
平成	5	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 II) 発達期別のメチル投与における脳、肝、腎への水銀蓄積値の比較、並びに脳内部位による蓄積差について	生田房弘
平成	5	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 III) 大脳における選択的神経細胞死の発現について、発育時期を異にするラット間と末梢神経障害との比較検討	生田房弘
平成	5	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 IV) メチル水銀中毒幼弱ラットに出現したアンモン角 CA3、4野における選択的神経細胞変性について	生田房弘
平成	5	視野の他覚的検出法に関する研究－PupilPerimetryの開発－	石川哲
平成	5	視野狭窄のメカニズムとその他覚的検出法に関する研究(第二報)－視野測定法の他覚的、自覚的検査法の工夫(第二報)	石川哲
平成	5	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積、毒性発現の機構に関する研究	井村伸正
平成	5	最近の水俣病認定患者の神経症候と合併症の実態について	内野誠
平成	5	水俣病患者における臨床像の推移と病理学的研究 その1)MRIを中心として	衛藤光明
平成	5	視野測定値の変動要因に関する研究、とくに心因性視野障害の長期経過について	大庭紀雄
平成	5	水俣病における神経耳鼻科学的異常と全身症状との関係	大山勝
平成	5	小脳萎縮と小脳機能との関連に関する研究－MRIと重心計による検討－	岡嶋透
平成	5	水俣病における症候の出現時期に関する研究－臨床所見と病理所見の対比から－	岡嶋透他
平成	5	水俣病患者における加齢による臨床像への影響－鹿児島地域における症例を中心として－	納光弘
平成	5	メチル水銀のニューロン活動に対する影響に関する研究:微量・長時間投与について	加藤元博
平成	5	視覚誘発反応を用いた求心性視野障害の他覚的評価	川島幸夫
平成	5	種々の細胞のメチル水銀に対する感受性に関する研究	後藤幾生
平成	5	水俣病の診断における脳機能検査法の利用	小林卓郎
平成	5	阿賀野川流域の有機水銀曝露集団における水俣病の発生の動向(予報)	近藤喜代太郎
平成	5	水銀化合物による細胞障害とその修復に関する研究－ β アミロイド蛋白とミドカインの免疫組織化学による検討－	佐藤栄一
平成	5	水俣病の臨床と病理の相関について－病理所見のスコア化(第2報)－	佐藤栄一
平成	5	水俣病患者における神経症候の長期推移に関する研究	佐藤宏
平成	5	神経症候の定量的解析－上肢運動の定量的解析－	大勝洋祐
平成	5	水俣における健康都市構想に関する基礎的研究	高野健人
平成	5	微量メチル水銀の環境モニタリングに関する研究(第2報)	滝澤行雄
平成	5	メチル水銀の神経系への毒性作用機序に関する研究	田島静子
平成	5	聴力の加齢による正常値の変化に関する研究	立木孝
平成	5	メチル水銀の神経系遺伝子発現への影響に関する研究	辻省次
平成	5	水俣病患者における神経耳科学的所見の経時的変動について	土生健二郎
平成	5	県外在住者の受診動向に関する研究	鳥山稔
平成	5	メチル水銀誘発末梢神経障害とその回復に関する研究	長嶋和郎
平成	5	平衡機能の加齢による変化に関する研究－衝動性眼球運動の加齢の影響に関する検討－	中野雄一
平成	5	メチル水銀暴露の健康影響に関する研究－メチル水銀汚染地域住民の老化過程に関する研究－	二塚信
平成	5	水俣病の主要症候と経時的変化に関する研究	村井由之
平成	5	胎児性患者の主要症候、精神症状に関する研究	森山弘之
平成	5	マウスにおける塩化メチル水銀直接脳内投与の影響	湯浅龍彦
平成	5	新潟水俣病患者における垂直性視運動性振眼の指標注視能力の定量的分析－加齢変化を加味した指標注視能力の分析－	渡辺行雄
平成	5	水俣病とHAMを合併したと考えられる1症例－電気生理学的検討－	伊津野良治
平成	5	水俣病の神経障害に対する加齢の影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の日常生活動作活動(ADL)および知的機能の検討－	熊本俊秀
平成	5	画像診断と臨床症状発現の関連性に関する研究:鳥距野のMRI局所解剖および水俣病患者におけるMRI所見と視野との関連について	高橋睦正
平成	6	八代海沿岸水俣病患者における悪性腫瘍	秋葉澄伯
平成	6	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究	生田房弘
平成	6	視野の他覚的検出法に関する研究－瞳孔視野計による視野測定の実際	石川哲
平成	6	水俣病の神経障害に対する加齢の影響に関する研究－非水銀汚染地区在住高齢者の日常生活動作活動(ADL)及び知的機能の検討	熊本俊秀
平成	6	地域集団を対象とした神経内科検診システムの確立に関する研究	熊本俊秀
平成	6	水俣病の診断における脳機能検査法の利用に関する研究	小林卓郎
平成	6	阿賀野川流域の有機水銀曝露集団における水俣病の発生動態(中間報告)	近藤喜代太郎
平成	6	水俣における健康都市構想に関する基礎的研究	高野健人
平成	6	画像診断と臨床症状発現の関連性に関する研究－後部視路疾患のMRI所見と視野障害の関連について	高橋睦正
平成	6	水俣病患者における画像診断と病理所見の関連性に関する研究	高橋睦正
平成	6	微量メチル水銀の環境モニタリングに関する研究(第3報)	滝澤行雄
平成	6	視機能の加齢による影響に関する研究	秋谷忍
平成	6	水俣病における筋脱力の機序に関する研究－有機水銀中毒における神経筋伝達障害の検討－	有村公良
平成	6	水俣病と頸部神経根症における感覚障害の鑑別－SEEPのN9波形による客観的評価－	伊津野良治
平成	6	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積及び毒性発現機構に関する研究 (1)メチル水銀による微小管障害とアポトーシス	井村伸正

年号	年	課題名	主任研究者
平成	6	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積及び毒性発現機構に関する研究 (2)脳神経系によるエネルギー・蛋白質代謝機能に及ぼすメチル水銀の影響	井村伸正
平成	6	生体におけるメチル水銀の輸送、蓄積及び毒性発現機構に関する研究 (3)細胞間ギャップ結合に対するメチル水銀の影響	井村伸正
平成	6	有機水銀投与ラットにおける小脳顆粒細胞変性過程に対するNOの関与についての研究	内野誠
平成	6	水俣病における耳鼻咽喉科領域異常と全身症候の関係	大山勝
平成	6	水俣病患者における加齢による臨床像への影響に関する研究	納光弘
平成	6	メチル水銀のニューロン活動に対する影響に関する研究:微量・長期投与について	加藤元博
平成	6	経頭蓋的磁気刺激法を用いた後頭葉の機能評価	川島幸夫
平成	6	メチル水銀中毒における神経栄養因子の発現一剖検例と急性中毒ラット脳のMidkineとFGFの免疫組織化学一	佐藤栄一
平成	6	水俣病の臨床と病理の相関について一病理所見のスコア化(第3報)一	佐藤栄一
平成	6	水俣病患者における神経症候の長期推移に関する研究(第2報)	佐藤宏
平成	6	神経症候の定量的分析一オモリ負荷による上肢運動の定量的解析一	大勝洋祐
平成	6	メチル水銀の神経系への毒性作用機序に関する研究	田島静子
平成	6	聴力の加齢による正常値の変化に関する研究	立木孝
平成	6	メチル水銀の神経系遺伝子発現への影響に関する研究	辻省次
平成	6	県外在住者の受診動向に関する研究	鳥山稔
平成	6	メチル水銀末梢神経障害とその回復に関する研究	長嶋和郎
平成	6	平衡機能の加齢による変化に関する研究	中野雄一
平成	6	視野狭窄のメカニズムとその他覚的検出法に関する研究一”衝動性運動視野測定法”一(第三報)	向野和雄
平成	6	水俣病の主要症候と経時的変化に関する研究	村井由之
平成	6	種々の細胞のメチル水銀に対する感受性に関する研究	由村健夫
平成	6	新潟水俣病事例における重心動揺異常所見一とくにアキレス腱部振動刺激負担の影響を中心に一	渡辺行雄
平成	6	小脳萎縮と小脳機能の関連に関する研究(第2報)一小脳虫部萎縮の部位別検討一	岡嶋透
平成	6	八代海沿岸水俣病患者における悪性腫瘍	秋葉澄伯
平成	6	メチル水銀の選択細胞毒性に関する研究 I)カルシウムの拮抗剤によるメチル水銀毒性の抑制	生田房弘
平成	6	メチル水銀の選択細胞毒性に関する研究 II)メチル水銀投与ラットにおける小脳顆粒細胞の胞体と突起の経時的観察:形態学的変化はまず Parallelfiber のシナプスに生じる	生田房弘
平成	6	メチル水銀の選択細胞毒性に関する研究 III)メチル水銀中毒ラットにおける脊髄後根神経節細胞の胞体と突起の経時的観察:まず神経終末に、次いで胞体に始まる形態変化一	生田房弘
平成	6	メチル水銀の選択細胞毒性に関する研究 IV)メチル水銀投与により惹起されたラット胎児の中枢神経病変について	生田房弘
平成	6	メチル水銀の選択細胞毒性に関する研究 V)新生児および幼若期ラットに発現したアンモン角や脳幹の神経細胞死について	生田房弘
平成	6	視野の他覚的検出法に関する研究一瞳孔視野計による視野測定の実際一	石川哲
平成	6	地域集団を対象とした神経内科検診システムの確立に関する研究	熊本俊秀
平成	6	水俣病の診断における脳機能検査法の利用に関する研究	小林卓郎
平成	6	阿賀野川流域の有機水銀曝露集団における水俣病の発生動態(中間報告)	近藤喜代太郎
平成	6	水俣における健康都市構想に関する基礎的研究	高橋健人
平成	6	画像診断と臨床症状発現の関連性に関する研究一後部視路疾患の 印所見と視野障害の関連について	高橋睦正
平成	6	水俣病患者における画像診断と病理所見の関連性に関する研究	高橋睦正
平成	6	微量メチル水銀の環境モニタリングに関する研究(第3報)	滝澤行雄
平成	7	水俣病における筋脱力の機序に関する研究一有機水銀中毒における神経筋伝達障害・単一筋線維筋電図による検討およびビタミンEの保護作用一	有村公良
平成	7	SSEPIによる水俣病と頸部神経根症の鑑別(第2報)一頭蓋外基準電極によるN9波形の定量的評価	伊津野良治
平成	7	水俣病患者に対する活性酸素障害の制御:ビタミンE投与の試み	内野誠
平成	7	メチル水銀による脳障害の発現機序に関する実験的研究:少量・長期投与による持続性神経障害発現量の検討	加藤元博
平成	7	メチル水銀汚染の胎児暴露評価に関する疫学的研究	金岡毅
平成	7	地域集団を対象とした神経内科検診システムの確立に関する研究	熊本俊秀
平成	7	水俣病における非侵襲的脳機能検査法の開発:視覚誘発脳磁界の計測	小林卓郎
平成	7	細胞内シグナル伝達系へ及ぼすメチル水銀の障害機構:細胞骨格タンパク質の翻訳後修飾への影響について	小俣三郎
平成	7	有機水銀の毒性メカニズムに関する研究:メチル水銀による神経細胞死の蛍光化学的解析	小山保夫
平成	7	水銀の生物濃縮に及ぼす環境要因の解析 I. 指標生物としてのムサキイガイの有用性	坂本隼雄
平成	7	水俣病患者における加齢変化に関する研究一頭部MRIによる検討一	佐藤宏
平成	7	胎児期によるメチル水銀の微量曝露による神経行動学的影響:特にセレン栄養による修飾に着目して	佐藤洋
平成	7	メチル水銀の環境中、環境動態、人の健康影響に関する文献的総括	住野公昭
平成	7	神経症候の定量的解析一オモリ負荷による上肢二次元運動の定量的解析	大勝洋祐
平成	7	水俣病の臨床と病理の相関について一病理所見のスコア化(第4報)	大勝洋祐
平成	7	水俣における健康都市構想に関する実用的研究	高野健人
平成	7	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 I)胎児性メチル水銀中毒症:ラットを用いたモデル動物の作成とその病理学的解析	高橋均
平成	7	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 II)ラット新生児へのメチル水銀投与法の開発とそれによって惹起された広範な中枢及び末梢神経病変	高橋均
平成	7	メチル水銀の選択的細胞毒性に関する研究 III)異なるタイプのCa拮抗剤によるメチル水銀毒性の抑制	高橋均
平成	7	メチル水銀による細胞損傷の修復因子の検討	田島静子
平成	7	メチル水銀の神経細胞変性の分子機構の解明	辻省次
平成	7	県外検診者に見られる神経症候に関する研究	鳥山稔
平成	7	水俣病患者の臨床疫学に関する研究一臨床症状の統計学的解析一	中川正法
平成	7	有機水銀による小脳顆粒層変性の誘発機構	長嶋和郎
平成	7	メチル水銀による神経細胞障害の分子機構の解明 (1)メチル水銀による細胞障害の発現を抑制する細胞内因子の検索	永沼章
平成	7	メチル水銀による神経細胞障害の分子機構の解明 (2)メチル水銀による神経細胞選択的な細胞死の機構と解析	永沼章
平成	7	メチル水銀による神経細胞障害の分子機構の解明 (3)In vivo NMR分光法を用いたメチル水銀の脳神経細胞障害機構の検討	永沼章
平成	7	メチル水銀汚染地域住民の疾病構造の解析	二塚信
平成	7	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究	平山紀美子
平成	7	環境中の水銀浄化に関する研究:浄化に用いる水銀耐性遺伝子の構造とその制御機構の解析	芳生秀光
平成	7	眼-頭部-手強調運動の記録分析による視野・高次機能測定の研究	向野和雄
平成	7	水俣病診断の客観的評価に関する研究	村井由之
平成	7	メチル水銀の神経細胞電位依存性ナトリウムチャネルへの影響に関する研究	村井由之
平成	8	一般住民における血球総水銀レベルと神経学的所見の関係	秋葉澄伯

年号	年	課題名	主任研究者
平成	8	水俣病認定患者における神経症状の経時的変化	有村公良
平成	8	水俣病像の推移:認定検診における神経症候の分析	内野誠
平成	8	メチル水銀の微量・長期曝露および大量・短期曝露による脳障害の研究	加藤元博
平成	8	視覚種が視覚誘発脳磁界に及ぼす影響の検討および水俣病認定患者での測定	吉良潤一
平成	8	^{99m} Tc-ECD SPECTを用いた慢性期水俣病患者の脳血流量測定	佐藤宏
平成	8	胎児期によるメチル水銀の微量曝露による神経行動学的影響:特にセレン栄養による修飾に着目して	佐藤洋
平成	8	水銀補修吸着とメチル水銀還元技術の新技術	住野公昭
平成	8	脳の発達段階におけるメチル水銀毒性の解析	高橋均
平成	8	メチル水銀における小脳顆粒細胞内Caイオンの上昇	高橋均
平成	8	メチル水銀の神経細胞変性の分子機構の解明	辻省次
平成	8	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—臨床症状の解析と判別指数作成の試み—	中川正法
平成	8	有機水銀による小脳顆粒細胞変性の誘発機構	長嶋和郎
平成	8	メチル水銀毒性に対する耐性因子の検索	永沼章
平成	8	メチル水銀汚染地域住民の愁訴構造に関する調査研究	二塚信
平成	8	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究(第2報)	平山紀美子
平成	8	水銀耐性遺伝子の制御機構解析および環境浄化への利用	芳生秀光
平成	8	眼-頭部-手強調運動の記録分析による視野・高次機能測定の研究—第2報	向野和雄
平成	9	一般住民における血球総水銀レベルと神経学的所見の関係	秋葉澄伯
平成	9	疫学研究は個人レベルでの因果関係を評価できるか	秋葉澄伯
平成	9	水俣病認定患者における神経症状の経時的変化	有村公良
平成	9	水俣病像の推移:認定検診における神経症候の分析	内野誠
平成	9	メチル水銀の微量・長期曝露による脳障害の研究	加藤元博
平成	9	色刺激、動き刺激が視覚誘発脳磁界に及ぼす影響の検討および、水俣病認定患者での測定	吉良潤一
平成	9	水俣病の病理学—文献レビュー	佐藤栄一
平成	9	^{99m} Tc-ECD SPECTを用いた慢性期水俣病患者の小脳血流の検討	佐藤宏
平成	9	胎児期によるメチル水銀の微量曝露による神経行動学的影響:特にセレン栄養による修飾に着目して	佐藤洋
平成	9	有機水銀の健康影響に関する文献レビュー	佐藤洋
平成	9	捕集吸着と還元分析の新技術	住野公昭
平成	9	脳の発達段階におけるメチル水銀毒性の解析	高橋均
平成	9	ラットにおけるメチル水銀の間欠曝露により得られる中毒症状:水俣病モデルとして	高橋均
平成	9	メチル水銀による小脳顆粒細胞内Caイオン上昇の特徴	高橋均
平成	9	メチル水銀の神経細胞の分子機構の解明	辻省次
平成	9	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—臨床症状の多変量解析と判別指数	中川正法
平成	9	有機水銀による小脳顆粒細胞変性の誘発機構	長嶋和郎
平成	9	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の検索	永沼章
平成	9	メチル水銀汚染地域住民の日常生活支障度に関する調査研究	二塚信
平成	9	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究(第三報)	平山紀美子
平成	9	水銀耐性遺伝子の制御機構の解析および環境浄化への利用—浄化に用いる遺伝子の構築とその発現—	芳生秀光
平成	9	眼-頭部-手-重心等強調運動の記録分析による視野・高次機能測定の研究—第三報	向野和雄
平成	10	有機水銀問題に関する国際研究・協力のあり方に関する研究	有村公良
平成	10	有機水銀中毒に関する文献レビュー(病理学・動物実験)	佐藤栄一
平成	10	慢性期水俣病患者の脳血流量の検討— ¹²³ I-IMP SPECTによる検討	佐藤宏
平成	10	胎児期におけるメチル水銀曝露による神経行動学的な影響:3種類の近交系マウスにおける神経行動学的観察の比較	佐藤洋
平成	10	有機水銀の健康影響に関する文献レビュー	佐藤洋
平成	10	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 I)胎児期のメチル水銀曝露による脳の形成障害	高橋均
平成	10	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 II)メチル水銀汚染地域における出生性比についての検討	高橋均
平成	10	メチル水銀の神経細胞に対する特異的毒性に関する研究:脳特異的メタロチオネインの機能とメチル水銀の神経細胞毒性に関する研究	辻省次
平成	10	有機水銀による小脳顆粒細胞の変性と小脳顆粒細胞特異的転写因子Zic1の発現の検討	長嶋和郎
平成	10	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の解明	永沼章
平成	10	培養神経芽細胞を用いたメチル水銀とメタロチオネインの相互作用に関する研究	西尾久英
平成	10	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究—無機化反応へのユビキノンの関与	平山紀美子
平成	10	水俣病認定患者の追跡調査	二塚信
平成	10	環境中の水銀の浄化法に関する研究—有用遺伝子の構築と浄化モデル系への適用	芳生秀光
平成	10	メチル水銀の長期微量曝露の生体影響に関する臨床研究:視覚系、眼科的手法を中心とした新しい客観的検査診断法の開発	向野和雄
平成	10	一般住民における血球総水銀レベルと神経学所見の関係	秋葉澄伯
平成	10	水俣病認定患者及び汚染地区住民の神経所見の推移	有村公良
平成	10	水俣病認定患者の追跡調査—非認定者との比較検討	内野誠
平成	10	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—臨床症状の多変量解析と有機水銀非汚染地区住民の神経所見の推移	中川正法
平成	10	メチル水銀汚染地域住民のADLとソーシャルサポートに関する研究	二塚信
平成	10	一般住民における血球総水銀レベルと神経学的所見の関係	秋葉澄伯
平成	10	水俣病認定患者および汚染地域住民の神経所見の推移	有村公良
平成	10	有機水銀問題に関する国際研究・協力のあり方に関する研究	有村公良
平成	10	水俣病認定患者の追跡調査—非認定者との比較検討	内野誠
平成	10	メチル水銀の長期微量曝露の生態影響に関する臨床研究:視覚系、眼科的手法を中心とした新しい客観的検査診断法の開発	向野和雄
平成	10	有機水銀中毒に関する文献レビュー(病理学・動物実験)	佐藤栄一
平成	10	慢性期水俣病患者の脳血流量の検討— ¹²³ I-IMP SPECTによる検討—	佐藤宏
平成	10	胎児期におけるメチル水銀曝露による神経行動学的な影響:3種類の近交系マウスにおける神経行動学的観察の比較	佐藤洋
平成	10	有機水銀の健康影響に関する文献レビュー	佐藤洋
平成	10	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 I)胎児期のメチル水銀曝露による脳の形成障害	高橋均
平成	10	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 II)メチル水銀汚染地域における出生性比についての検討	高橋均

年号	年	課題名	主任研究者
平成	10	メチル水銀の神経細胞に対する特異的毒性に関する研究:脳特異的メタロチオネインの機能とメチル水銀の神経細胞毒性に関する研究	辻省次
平成	10	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—臨床症状の多変量解析と有機水銀非汚染地区住民の神経所見との比較—	中川正法
平成	10	有機水銀による小脳顆粒細胞の変性と小脳顆粒細胞特異的転写因子Zic1の発現の検討	長嶋和郎
平成	10	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の解明	永沼章
平成	10	培養神経芽細胞を用いたメチル水銀とメタロチオネインの相互作用に関する研究	西尾久英
平成	10	メチル水銀汚染地域住民のADLとソーシャルサポートに関する研究	二塚信
平成	10	水俣病認定患者の追跡調査	二塚信
平成	10	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究—無機化反応へのユビキノンの関与—	平山紀美子
平成	10	環境中の水銀浄化に関する研究—有用遺伝子の構築と浄化モデル系への適用—	芳生秀光
平成	11	有機水銀問題に関する国際研究・協力のあり方に関する研究	有村公良
平成	11	水俣病の病像に関する研究—感覚障害を中心に	内野誠
平成	11	¹²³ I-IMP SPECTによる慢性期水俣病患者の小脳血流量の検討	佐藤宏
平成	11	胎児期におけるメチル水銀曝露による神経行動学的な影響:マウス胎児期及び成長後の2回曝露の影響	佐藤洋
平成	11	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 I)胎児期のメチル水銀曝露による脳の形成障害	高橋均
平成	11	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 II)低濃度長期メチル水銀曝露のラット胎児脳への影響に関する研究	高橋均
平成	11	メチル水銀の神経細胞に対する特異的毒性に関する研究:脳特異的メタロチオネインの機能とメチル水銀の神経細胞毒性に関する研究	辻省次
平成	11	有機水銀中毒rat脳における蛋白及び遺伝子の発現変化の検討	長嶋和郎
平成	11	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の解明	永沼章
平成	11	培養神経芽細胞を用いたメチル水銀とメタロチオネインの相互作用に関する研究	西尾久英
平成	11	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究—脳ミトコンドリアにおける無機化反応	平山紀美子
平成	11	水俣病認定患者の生活と健康の実態に関する調査研究	二塚信
平成	11	環境中の水銀の浄化法に関する研究—有用遺伝子の構築と浄化モデル系への適用	芳生秀光
平成	11	メチル水銀の長期微量曝露の生体影響に関する臨床的研究:視覚系、眼科的手法を中心とした新しい客観的検査診断法の開発	向野和雄
平成	11	一般住民における血球総水銀レベルと神経学所見の関係	秋葉澄伯
平成	11	水俣病認定患者及び汚染地区住民の神経所見の推移	有村公良
平成	11	水俣病認定患者の追跡調査—熊本県の認定患者における神経症候の多変量解析	内野誠
平成	11	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—臨床症状の多変量解析と有機水銀非汚染地区住民の神経所見との検討	中川正法
平成	11	メチル水銀汚染地域住民のQOLとソーシャルサポートに関する研究	二塚信
平成	11	一般住民における血球総水銀レベルと神経学的所見の関係	秋葉澄伯
平成	11	水俣病認定患者および汚染地域住民の神経所見の推移	有村公良
平成	11	有機水銀問題に関する国際研究・協力のあり方に関する研究	有村公良
平成	11	水俣病認定患者の追跡調査—熊本県の認定患者における神経症候の多変量解析—	内野誠
平成	11	水俣病の病像に関する研究—感覚障害を中心に—	内野誠
平成	11	メチル水銀の長期微量曝露の生態影響に関する臨床的研究 視覚系、眼科的手法を中心とした新しい客観的検査診断法の開発	向野和雄
平成	11	¹²³ I-IMP SPECTによる慢性期水俣病患者の小脳血流量の検討	佐藤宏
平成	11	胎児期におけるメチル水銀曝露による神経行動学的な影響:マウス胎児期および成長後の2回曝露の影響	佐藤洋
平成	11	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 I)胎児期のメチル水銀曝露による脳の形成障害	高橋均
平成	11	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 II)低濃度長期メチル水銀曝露のラット胎児脳への影響に関する研究	高橋均
平成	11	メチル水銀の神経細胞に対する特異的毒性に関する研究:脳特異的メタロチオネインの機能とメチル水銀の神経細胞毒性に関する研究	辻省次
平成	11	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—臨床症状の多変量解析と有機水銀汚染地区住民の神経所見との検討—	中川正法
平成	11	有機水銀中毒rat脳における蛋白および遺伝子の発現変化の検討	長嶋和郎
平成	11	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の解明	永沼章
平成	11	培養神経芽細胞を用いたメチル水銀とメタロチオネインの相互作用に関する研究	西尾久英
平成	11	メチル水銀汚染地域住民のQOLとソーシャルサポートに関する調査研究	二塚信
平成	11	水俣病認定患者の生活と健康の実態に関する調査研究	二塚信
平成	11	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究—脳ミトコンドリアにおける無機化反応	平山紀美子
平成	11	環境中の水銀の浄化法に関する研究—有用遺伝子の構築と浄化モデル系への適用—	芳生秀光
平成	12	有機水銀問題に関する国際研究・協力のあり方に関する研究	有村公良
平成	12	長期微量メチル水銀曝露の影響に関する研究:マウス実験モデルによる神経行動学的観察	佐藤洋
平成	12	メチル水銀の胎児期曝露はその後の脳の発達にどのような影響をもたらすか I)メチル水銀曝露による神経芽細胞・グリア芽細胞の移動障害	高橋均
平成	12	メチル水銀の胎児期曝露はその後の脳の発達にどのような影響をもたらすか II)脳発達期におけるメチル水銀影響の量・反応関係と性差	高橋均
平成	12	メチル水銀の神経細胞に対する特異的毒性に関する研究:脳特異的メタロチオネインの機能とメチル水銀の神経細胞毒性に関する研究	辻省次
平成	12	水俣病患者の臨床疫学に関する研究—計量診断モデルによる頸椎症、末梢神経障害患者との比較検討	中川正法
平成	12	有機水銀中毒rat脳におけるsemi-quantitative PCR法を用いた遺伝子発現の検討	長嶋和郎
平成	12	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の解明:酵母におけるメチル水銀毒性抑制因子としてのユビキノンの転移酵素CDC34	永沼章
平成	12	培養神経芽細胞を用いたメチル水銀とメタロチオネインの相互作用に関する研究	西尾久英
平成	12	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究—脳ミトコンドリアにおける無機化反応	平山紀美子
平成	12	水俣病認定患者の追跡調査	二塚信
平成	12	環境中の水銀の浄化法に関する研究—有用遺伝子の構築と浄化モデル系への適用	芳生秀光
平成	12	メチル水銀の長期微量曝露の生体影響に関する臨床的研究:視覚系、眼科的手法を中心とした新しい客観的検査診断法の開発	向野和雄
平成	12	一般住民における血球総水銀レベルと神経学所見の関係	秋葉澄伯
平成	12	水俣病認定患者における神経症状の経時的変化	有村公良
平成	12	水俣病認定患者の追跡調査 I)施設入所中の水俣病認定患者の神経症候の推移	内野誠
平成	12	水俣病認定患者の追跡調査 II)臨床像の推移を中心に	内野誠
平成	12	メチル水銀汚染地域住民の健康調査と生活状況—ある漁村地区を事例として	二塚信
平成	12	一般住民における血球総水銀レベルと神経学的所見の関係	秋葉澄伯
平成	12	水俣病認定患者における神経症状の経時的変化	有村公良
平成	12	有機水銀問題に関する国際研究・協力のあり方に関する研究	有村公良
平成	12	水俣病認定患者の追跡調査 I)施設入所中の水俣病認定患者の神経症候の推移	内野誠
平成	12	水俣病認定患者の追跡調査 II)臨床像の推移を中心に	内野誠

年号	年	課題名	主任研究者
平成	12	メチル水銀の長期微量曝露の生態影響に関する臨床的研究 視覚系、眼科的手法を中心とした新しい客観的検査診断法の開発	向野和雄
平成	12	長期微量メチル水銀曝露の影響に関する研究:マウス実験モデルによる神経行動学的観察	佐藤洋
平成	12	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 I)メチル水銀曝露による神経芽細胞・グリア芽細胞の移動障害	高橋均
平成	12	メチル水銀の胎児期曝露の影響に関する研究 II)脳発達期におけるメチル水銀影響の量・反応関係と性差	高橋均
平成	12	メチル水銀の神経細胞に対する特異的毒性に関する研究:脳特異的メタロチオネインの機能とメチル水銀の神経細胞毒性に関する研究	辻省次
平成	12	水俣病患者の臨床疫学に関する研究ー計量診断モデルによる頸椎症、末梢神経障害患者との比較検討ー	中川正法
平成	12	有機水銀中毒rat脳におけるsemi-quantitative PCR法を用いた遺伝子発現の検討	長嶋和郎
平成	12	メチル水銀の毒性発現における細胞内標的分子の解明:酵母におけるメチル水銀毒性抑制因子としてのユビキチン転移酵素CDC34	永沼章
平成	12	培養神経芽細胞を用いたメチル水銀とメタロチオネインの相互作用に関する研究	西尾久英
平成	12	メチル水銀汚染地域住民の健康状態と生活状況ーある漁村を事例としてー	二塚信
平成	12	水俣病認定患者の追跡調査	二塚信
平成	12	メチル水銀の生体内無機化反応に関する研究ー脳ミトコンドリアにおける無機化反応ー	平山紀美子
平成	12	環境中の水銀の浄化法に関する研究ー有用遺伝子の構築と浄化モデル系への適用ー	芳生秀光
平成	13	患者と水俣病発生地域住民及び水銀非汚染地区住民の健康問題の比較に関する研究	秋葉澄伯
平成	13	水銀・カドミウム等の重金属の吸収、変換、生体内動態、排泄の分子機構に関する研究ーアミノ酸輸送体を介するメチル水銀の吸収及び血液・組織間門透過と細胞毒性発現の分子機構	金井好克
平成	13	メチル水銀汚染地域住民の精神不安に関する調査研究	北野隆雄
平成	13	①国際的水銀汚染問題への対応に関する研究 ②有機水銀の健康問題に関する研究のレビュー	佐藤洋
平成	13	長期微量メチル水銀曝露の影響に関する研究:マウスの生涯に渡る曝露の影響とその交絡因子の解析	佐藤洋
平成	13	水俣病発生地域住民の健康状態に関する研究ー水俣病非発生地域住民の健康状態	中川正法
平成	13	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究ーレーザーキャプチャーマイクロダイセクション法を利用した有機水銀による小脳顆粒細胞の特異的細胞死発症機序の解明	長嶋和郎
平成	13	メチル水銀毒性の発現及び防御に關与する細胞内因子の検索と機能解析	永沼章
平成	13	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究ー酸化的ストレス関連因子の関与	平山紀美子
平成	13	環境中の水銀の浄化法に関する研究ー実用化を指向した水銀浄化システムの構築	芳生秀光
平成	13	水俣病患者の臨床像の推移に関する研究ー鹿児島県の認定患者における神経症候の多変量解析	有村公良
平成	13	水俣病患者に必要な健康支援等に関する研究	有村公良
平成	13	水俣病の神経証拠に関する研究ー水俣病の神経症候の地域差について	内野誠
平成	13	メチル水銀が神経系に与える影響に関する研究ーメチル水銀による神経細胞特異的変性機構の解析	国本学
平成	13	メチル水銀が神経系に与える特異的な影響に関する研究	高橋均
平成	13	ヒトにおける胎児期と乳児期別メチル水銀リスク評価	高橋均
平成	13	低濃度曝露による健康影響に関する研究ー眼科的手法を中心とした客観的検査診断法の確立	向野和雄
平成	14	水銀・カドミウム等の重金属の吸収、変換、生体内動態、排泄の分子機構に関する研究ーアミノ酸輸送体を介するメチル水銀の吸収及び血液・組織間門透過と細胞毒性発現の分子機構	金井好克
平成	14	メチル水銀が神経系に与える特異的な影響に関する研究ーメチル水銀による神経細胞特異的変性機構の解析	国本学
平成	14	国際的水銀汚染問題への対応に関する研究ー有機水銀の健康問題に関する研究のレビュー	佐藤洋
平成	14	長期微量メチル水銀曝露の影響に関する研究:セレン欠乏下における低濃度長期曝露の影響	佐藤洋
平成	14	メチル水銀が神経系に与える特異的な影響に関する研究	高橋均
平成	14	メチル水銀が神経系に与える特異的な影響に関する研究ー一定の低濃度水銀曝露下における児及び母親の妊娠・授乳期中水銀濃度変化	高橋均
平成	14	水銀が神経系に与える影響に関する研究ーレーザーキャプチャーマイクロダイセクション法を利用した有機水銀による小脳顆粒細胞の特異的細胞死発症機序の解明	長嶋和郎
平成	14	メチル水銀毒性の発現及び防御に關与する細胞内因子の検索と機能解析	永沼章
平成	14	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究ー酸化的ストレス関連因子の関与	平山紀美子
平成	14	環境中の水銀の浄化法に関する研究ー実用化を指向した水銀浄化システムの構築	芳生秀光
平成	14	水俣病発生地区住民の健康状態に関する研究ー患者と水俣病発生地区住民及び水銀汚染地区住民の健康問題の比較に関する研究	秋葉澄伯
平成	14	水俣病患者の健康問題に関する研究ー水俣病患者に必要な健康支援等に関する研究	有村公良
平成	14	水俣病の神経症候に関する研究ー一般集団を対照とした多変量解析	内野誠
平成	14	「二点識別」に関連する脳機能の解明:水俣病における障害解明の基礎的研究	柿木隆介
平成	14	水俣病発生地域住民の健康状態に関する研究ー水俣病非発生地域住民の健康状態ー第2報	中川正法
平成	14	水俣病発生地域における糖代謝機能異常に関する時系列解析	二塚信・北野隆雄
平成	14	低濃度曝露による健康影響に関する研究ー眼科的手法及び耳鼻咽喉科手法を中心とした客観的検査診断法の確立	向野和雄
平成	14	妊婦の毛髪中水銀値調査	佐藤洋
平成	14	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	14	胎児期のメチル水銀曝露の健康影響に関する横断調査研究	村田勝敬
平成	15	アミノ酸輸送体を介するメチル水銀の吸収及び血液・組織間門透過と細胞毒性発現の分子機構	金井好克
平成	15	メチル水銀が神経系に与える特異的な影響に関する研究ーメチル水銀による神経細胞特異的変性機構の解析	国本学
平成	15	国際的水銀汚染問題への対応に関する研究ー有機水銀の健康問題に関する研究のレビュー	佐藤洋
平成	15	メチル水銀低濃度曝露に関する研究 1)成人における基礎的検討	佐藤洋
平成	15	メチル水銀低濃度曝露に関する研究 2)胎児期における基礎的検討	佐藤洋
平成	15	長期微量メチル水銀曝露の影響に関する研究	佐藤洋
平成	15	メチル水銀が神経系に与える特異的な影響に関する研究	高橋均
平成	15	胎児期から出生後の各発達期における脳へのメチル水銀取り込み経時変化	高橋均
平成	15	メチル水銀による小脳顆粒細胞の特異的細胞死発症機序の分子細胞病理学的解明	長嶋和郎
平成	15	メチル水銀毒性の発現及び防御に關与する細胞内因子の検索と機能解析	永沼章
平成	15	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究ー酸化的ストレス関連因子の関与	平山紀美子
平成	15	環境中の水銀の浄化法に関する研究ー実用化を指向した水銀浄化システムの構築	芳生秀光
平成	15	水俣病発生地区住民の健康状態に関する研究ー水俣病患者と水俣病発生地区住民及び水銀汚染地区住民の健康問題の比較に関する研究	秋葉澄伯
平成	15	水俣病患者の健康問題に関する研究ー水俣病患者に必要な健康支援等に関する研究	有村公良
平成	15	水俣病の神経症候とADLに関する研究ー熊本県認定患者の経時的推移	内野誠
平成	15	「二点識別」に関連する脳機能の解明:水俣病における障害解明の基礎的研究	柿木隆介
平成	15	水俣病発生地域住民の健康状態に関する研究ー水俣病非発生地域住民の健康状態ー第3報	中川正法
平成	15	水俣病発生地域の循環器疾患のリスクファクターに関する解析	二塚信・北野隆雄
平成	15	低濃度曝露による健康影響に関する研究ー眼科的手法及び耳鼻咽喉科手法を中心とした客観的検査診断法の確立	向野和雄
平成	15	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋

年号	年	課題名	主任研究者
平成	15	胎児期のメチル水銀曝露の健康影響に関する横断調査研究	村田勝敬
平成	16	胎児期低濃度メチル水銀曝露におけるPCB複合曝露の発達への影響に関する研究	佐藤洋
平成	16	メチル水銀と中心とした水銀の健康影響と国際水銀汚染問題に関するレビュー	佐藤洋
平成	16	発生期脳における未分化細胞の移動障害メカニズムの解明	高橋均
平成	16	ヒトの脳発達時期におけるメチル水銀のリスクに関する実験疫学的研究	高橋均
平成	16	有機水銀による神経選択的細胞障害機構の解明に関する研究	長嶋和郎
平成	16	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	16	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究	森信子
平成	16	環境中の水銀浄化に関する研究-ポリリン酸を利用した重金属汚染のファイトレメディエーション	芳生秀光
平成	16	輸送体を介するメチル水銀の吸収、体内動態、及び排泄の分子機構に関する研究	金井好克
平成	16	患者と発生地区・非発生地区住民の健康問題の比較に関する研究	秋葉澄伯
平成	16	胎児性水俣病患者の機能障害とその対策に関する研究	有村公良
平成	16	水俣病認定患者の神経症候の経時的推移に関する研究	内野誠
平成	16	「二点識別」に関連する脳機能の解明に関する研究	柿木隆介
平成	16	水俣病発生地域住民の神経所見に関する研究	中川正法
平成	16	水俣病発生地域住民の健康状態に関する解析	二塚信
平成	16	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	16	胎児期のメチル水銀曝露の健康影響に関する横断調査研究	村田勝敬
平成	17	輸送体を介するメチル水銀の吸収、体内動態、及び排泄の分子機構に関する研究	金井好克
平成	17	メチル水銀を中心とした水銀の健康影響と国際水銀汚染問題に関するレビュー	佐藤洋
平成	17	胎児期低濃度メチル水銀曝露におけるPCB複合曝露の発達への影響に関する研究	佐藤洋
平成	17	発生期脳における未分化細胞の移動障害メカニズムの解明	高橋均
平成	17	ヒトの脳発達時期におけるメチル水銀のリスクに関する実験疫学的研究	高橋均
平成	17	メチル水銀による神経選択的細胞障害機構の解明に関する研究	長嶋和郎
平成	17	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	17	環境中の水銀浄化に関する研究-ポリリン酸を利用した重金属汚染のファイトレメディエーション	芳生秀光
平成	17	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究	森信子
平成	17	患者と発生地区・非発生地区住民の健康問題の比較に関する研究	秋葉澄伯
平成	17	胎児性水俣病患者の機能障害とその対策に関する研究	有村公良
平成	17	水俣病認定患者の神経症候の経時的推移に関する研究	内野誠
平成	17	「二点識別」に関連する脳機能の解明に関する研究	柿木隆介
平成	17	水俣病発生地域住民の健康状態に関する解析	北野隆雄
平成	17	水俣病発生地域住民の神経所見に関する研究	中川正法
平成	17	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	18	輸送体を介するメチル水銀の吸収、体内動態、及び排泄の分子機構に関する研究	金井好克
平成	18	メチル水銀を中心とした水銀の健康影響と国際水銀汚染問題に関するレビュー	佐藤洋
平成	18	胎児期低濃度メチル水銀曝露におけるPCB複合曝露の発達への影響に関する研究	佐藤洋
平成	18	発生期脳における未分化細胞の移動障害メカニズムの解明	高橋均
平成	18	メチル水銀間欠曝露による血中メチル水銀濃度“spike”が脳への水銀蓄積と神経変性へ及ぼす影響に関する研究	高橋均
平成	18	有機水銀による神経選択的細胞障害機構の解明に関する研究	長嶋和郎
平成	18	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	18	環境中の水銀浄化に関する研究-ポリリン酸を利用した重金属汚染のファイトレメディエーション	芳生秀光
平成	18	メチル水銀に対する感受性決定要因とその作用メカニズムに関する研究	森信子
平成	18	患者と発生地区・非発生地区住民の健康問題の比較に関する研究	秋葉澄伯
平成	18	胎児性水俣病患者の機能障害とその対策に関する研究	有村公良
平成	18	水俣病認定患者の神経症候の経時的推移に関する研究	内野誠
平成	18	「二点識別」に関連する脳機能の解明に関する研究	柿木隆介
平成	18	水俣病発生地域住民の健康状態に関する解析	北野隆雄
平成	18	水俣病発生地域住民の神経所見に関する研究	中川正法
平成	18	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	19	メチル水銀ばく露による健康問題に関する国際的レビュー	有村公良
平成	19	「二点識別」に関連する脳機能の解明	柿木隆介
平成	19	水俣・芦北地域住民の健康支援プログラムの開発	加藤貴彦
平成	19	神経-グリア細胞連関の側面から捉えたメチル水銀に対する大脳皮質感覚野顆粒細胞の脆弱性研究	小泉修一
平成	19	発生期脳における未分化細胞の移動障害メカニズムの解明	高橋均
平成	19	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	19	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	19	土壌中の水銀除去システムの開発とその効果の検討	芳生秀光
平成	19	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	20	PET、近赤外光脳機能検査法を用いたメチル水銀中毒における中枢神経障害の評価に関する文献的考察	安東由喜雄
平成	20	「二点識別」に関連する脳機能の解明	柿木隆介
平成	20	水俣・芦北地域住民の健康支援プログラムの開発	加藤貴彦
平成	20	メチル水銀のグリア細胞に対する作用の解明	小泉修一
平成	20	発生期脳における未分化細胞の移動障害メカニズムの解明	高橋均
平成	20	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	20	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	20	土壌中の水銀除去システムの開発とその効果の検討	芳生秀光
平成	20	メチル水銀ばく露による健康問題に関する国際的レビュー	村田勝敬
平成	20	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	21	二点識別覚を含めた感覚障害の客観的検査法の開発と臨床的検討	柿木隆介

年号	年	課題名	主任研究者
平成	21	水俣・芦北地域住民の健康支援プログラムの開発	加藤貴彦
平成	21	メチル水銀のグリア細胞に対する作用の解明	小泉修一
平成	21	発生期脳における未分化細胞の移動障害メカニズムの解明	高橋均
平成	21	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	21	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	21	土壌中の水銀除去システムの開発とその効果の検討	芳生秀光
平成	21	メチル水銀ばく露による健康問題に関する国際的レビュー	村田勝敬
平成	21	胎児期のメチル水銀曝露に関する大規模コホート調査研究	佐藤洋
平成	22	水俣病発生地域住民の健康支援プログラム及び介護予防プログラムの開発	加藤貴彦
平成	22	低濃度メチル水銀曝露からの中枢神経細胞保護に関する研究	小泉修一
平成	22	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	22	メチル水銀による健康障害に関する国際的レビュー	村田勝敬
平成	22	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	23	低濃度メチル水銀曝露からの中枢神経細胞保護に関する研究	小泉修一
平成	23	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	23	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	23	メチル水銀曝露による神経症状の治療に関する研究	西澤正豊
平成	23	メチル水銀ばく露による健康問題に関する国際的レビューに関する研究	村田勝敬
平成	24	水俣病患者の経年変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	24	メチル水銀曝露量に依存したグリア細胞の機能シフトと中枢神経細胞障害	小泉修一
平成	24	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	24	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	24	メチル水銀曝露による神経症状の治療に関する研究	西澤正豊
平成	24	メチル水銀曝露による健康問題に関する国際的レビュー	村田勝敬
平成	24	水俣病認定患者における臨床症候の自然歴の解析	安東由喜雄
平成	24	メチル水銀に対する感受性決定の分子機構に関する研究	永沼章
平成	24	低濃度メチル水銀曝露からの中枢神経細胞保護に関する研究	小泉修一
平成	24	メチル水銀曝露による神経症状の治療に関する研究	西澤正豊
平成	24	メチル水銀曝露による健康障害に関する国際的レビューに関する研究	村田勝敬
平成	24	高齢者の二点識別覚に関する研究	中村昭範
平成	25	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	25	メチル水銀曝露量に依存したグリア細胞の機能シフトと中枢神経細胞障害	小泉修一
平成	25	メチル水銀曝露量と神経症状との関係解明に資するためのメチル水銀毒性発現に関わる細胞内因子の同定と作用機構解析	永沼章
平成	25	高齢者の皮膚感覚機能の客観的評価法の開発	中村昭範
平成	25	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	村田勝敬
平成	25	メチル水銀の脳への影響のMRIによる検出と行動異常との相関解析	山崎岳
平成	26	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	26	メチル水銀曝露量に依存したグリア細胞の機能シフトと中枢神経細胞障害	小泉修一
平成	26	メチル水銀曝露量と神経症状との関係解明に資するためのメチル水銀毒性発現に関わる細胞内因子の同定と作用機構解析	永沼章
平成	26	高齢者の皮膚感覚機能の客観的評価法の開発	中村昭範
平成	26	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	村田勝敬
平成	26	メチル水銀の脳への影響のMRIによる検出と行動異常との相関解析	山崎岳
平成	27	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	27	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露指標の開発に関する研究	上野眞也
平成	27	メチル水銀の捕獲・不活性化に関わる新奇リスク軽減因子の実態解明	熊谷嘉人
平成	27	メチル水銀曝露量に依存したグリア細胞の機能シフトと中枢神経細胞障害	小泉修一
平成	27	メチル水銀曝露量と神経症状との関係解明に資するためのメチル水銀毒性発現に関わる細胞内因子の同定と作用機構解析	永沼章
平成	27	高齢者の皮膚感覚機能の客観的評価法の開発	中村昭範
平成	27	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	村田勝敬
平成	28	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	28	発達期メチル水銀曝露の神経系に対する影響と新規エピジェネティクス機構の解明	位田雅俊
平成	28	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露状況に関する研究	上野眞也
平成	28	メチル水銀によるオンコスタチンMの細胞外排出促進を介した細胞増殖抑制機構	黄基旭
平成	28	メチル水銀の捕獲・不活性化に関わる新奇リスク軽減因子の実態解明	熊谷嘉人
平成	28	MRIを用いた水俣病患者の脳構造の統計学的解析	平井俊範
平成	28	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	村田勝敬
平成	28	メチル水銀による感覚神経優位な傷害の分子基盤に関する研究	鍛冶利幸
平成	29	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	29	メチル水銀のドーパミン神経発達に対する影響と新規エピジェネティクス機構の解明	位田雅俊
平成	29	メチル水銀によるオンコスタチンMの細胞外排出促進を介した細胞増殖抑制機構	黄基旭
平成	29	メチル水銀の捕獲・不活性化に関わる新奇リスク軽減因子の実態解明	熊谷嘉人
平成	29	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露指標に関する研究	上野眞也
平成	29	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	村田勝敬
平成	29	MRIを用いた水俣病患者の脳構造の統計学的解析	平井俊範
平成	29	メチル水銀による感覚神経優位な傷害の分子基盤に関する研究	鍛冶利幸
平成	30	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	安東由喜雄
平成	30	発達期メチル水銀曝露の神経系に対する影響と新規エピジェネティクス機構の解明	位田雅俊
平成	30	メチル水銀によるオンコスタチンMの細胞外排出促進を介した細胞増殖抑制機構	黄基旭
平成	30	胎児期メチル水銀曝露が及ぼす次世代高次脳機能障害に対する親電子ストレスの修飾効果	熊谷嘉人
平成	30	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露指標に関する研究2.0	上野眞也

年号	年	課題名	主任研究者
平成	30	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	村田勝敬
平成	30	MRIを用いた水俣病患者の脳構造の統計学的解析	平井俊範
平成	30	メチル水銀による感覚神経優位な傷害の分子基盤に関する研究	鍛冶利幸
平成	31	メチル水銀によるTNF受容体3を介した脳神経細胞死誘導機構	黄基旭
平成	31	胎児期メチル水銀曝露が及ぼす次世代高次脳機能障害に対する親電子ストレスの修飾効果	熊谷嘉人
平成	31	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露リスクに関する研究	上野真也
平成	31	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	植田光晴
平成	31	低濃度メチル水銀ばく露によるオートファジーとプロテアソームを制御するp62の役割	清野正子
平成	31	複数機関・統一試験法で取り組むメチル水銀の脳高次機能への影響評価	前川文彦
平成	31	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	仲井邦彦
平成	31	水俣病患者の脳構造の画像解析研究	平井俊範
平成	31	メチル水銀による末梢神経障害の分子・細胞的基盤	鍛冶利幸
令和	2	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露指標に関する研究3.0 2.周辺地域の曝露リスクの偽陽性・偽陰性評価法	松田裕之
令和	2	メチル水銀によるTNF受容体3を介した脳神経細胞死誘導機構	黄基旭
令和	2	胎児期メチル水銀曝露が及ぼす次世代高次脳機能障害に対する親電子ストレスの修飾効果	熊谷嘉人
令和	2	メチル水銀曝露による小胞体機能破綻を介した神経障害機構に関する多角的解析	上原孝
令和	2	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露指標に関する研究3.0 1.メチル水銀曝露リスクに関する研究	上野真也
令和	2	水俣病患者の経年的変化および自然史の把握	植田光晴
令和	2	低濃度メチル水銀ばく露によるオートファジーとプロテアソームを制御するp62の役割	清野正子
令和	2	複数機関・統一試験法で取り組むメチル水銀の脳高次機能への影響評価	前川文彦
令和	2	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	仲井邦彦
令和	2	水俣病患者の脳構造の画像解析研究	平井俊範
令和	2	メチル水銀による末梢神経障害の分子・細胞的基盤	鍛冶利幸
令和	3	メチル水銀によるTNF受容体3を介した脳神経細胞死誘導機構	黄基旭
令和	3	メチル水銀曝露による小胞体機能破綻を介した神経障害機構に関する多角的解析	上原孝
令和	3	水俣病発生地域等におけるメチル水銀曝露リスクに関する研究3.0	上野真也
令和	3	水俣病患者の経年的変化および自然史の実態調査	植田光晴
令和	3	低濃度メチル水銀ばく露によるオートファジーとプロテアソームを制御するp62の役割	清野正子
令和	3	複数機関・統一試験法で取り組むメチル水銀の脳高次機能への影響評価	前川文彦
令和	3	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	仲井邦彦
令和	3	水俣病患者の脳構造の画像解析研究	平井俊範
令和	3	メチル水銀による末梢神経障害の分子・細胞的基盤	鍛冶利幸
令和	4	発達期メチル水銀曝露による行動学的影響の生涯にわたる経時的追跡	ベナー聖子
令和	4	メチル水銀の低濃度曝露によるミクログリアの活性化機構とその毒性学的意義の解明	黄基旭
令和	4	低濃度メチル水銀による神経分化に関わるエピゲノム標的因子の探索	栗田尚佳
令和	4	メチル水銀による末梢感覚神経障害とその回復の機構解析	篠田陽
令和	4	メチル水銀曝露リスクの包括的評価手法の開発	松田裕之
令和	4	メチル水銀曝露による小胞体機能破綻を介した神経障害機構に関する多角的解析	上原孝
令和	4	水俣病患者の経年的変化および自然史の実態調査	植田光晴
令和	4	p62/SQSTM1欠損in vitroおよびin vivoモデル系を用いたメチル水銀毒性防御機構の解析	清野正子
令和	4	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	仲井邦彦
令和	4	水俣病患者の脳構造・機能の画像解析研究	平井俊範
令和	5	脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な課題整理を行うための研究	中村好一
令和	5	発達期メチル水銀曝露による行動学的影響の生涯にわたる経時的追跡	ベナー聖子
令和	5	メチル水銀の低濃度曝露によるミクログリアの活性化機構とその毒性学的意義の解明	黄基旭
令和	5	低濃度メチル水銀による神経分化に関わるエピゲノム標的因子の探索	栗田尚佳
令和	5	メチル水銀による末梢感覚神経障害とその回復の機構解析	篠田陽
令和	5	メチル水銀曝露リスクの包括的評価手法の開発	松田裕之
令和	5	メチル水銀による小胞体ストレス介在性神経細胞死検出部位の同定と特異的阻害薬の神経症状抑制効果	上原孝
令和	5	水俣病患者の経年的変化および自然史の実態調査	植田光晴
令和	5	p62/SQSTM1欠損in vitroおよびin vivoモデル系を用いたメチル水銀毒性防御機構の解析	清野正子
令和	5	メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー	仲井邦彦
令和	5	水俣病患者の脳構造・機能の画像解析研究	平井俊範

水俣病対策にかかるその他参考資料

公害健康被害補償法に基づく水俣病の判断条件

環境庁は「水俣病認定検討会」を発足（昭和50年）。水俣病の専門家17名が参画し、公害健康被害補償法に基づく水俣病の判断条件について、医学的に検討。（会長：椿忠雄 新潟大学医学部教授）

後天性水俣病の判断条件について

環保業第262号 昭和52年7月1日 環境庁企画調整局環境保健部長

水俣病の症候は非特異的であり、高度な学識と豊富な経験に基づき総合的に検討することが必要。ただし、曝露歴及び症候の組合せがある場合は、通常、水俣病と考える。

魚介類に
蓄積された
メチル水銀
の曝露歴

+

- ①感覚障害 + 運動失調
- ②感覚障害 + 運動失調の疑い + 平衡機能障害
又は求心性視野狭窄
- ③感覚障害 + 求心性視野狭窄 + 中枢性障害
(眼科又は耳鼻科)
- ④感覚障害 + 運動失調の疑い + その他の症候の組合せ

水俣病に関する医学的知見

- ・ 判断条件は医学的知見を基に取りまとめられたものであり、これに変更が必要となるような新たな知見は示されていない。
- ・ ばく露後発症までの期間は、メチル水銀では通常 1 ヶ月前後、長くとも 1 年程度までであると考えられている。
- ・ 水俣湾周辺地域では遅くとも昭和 44 年以降、阿賀野川流域においては昭和 41 年以降、水俣病が発生する可能性のあるレベルの持続的メチル水銀ばく露が存在する状況ではなくなっていると認められる。

今後の対策の方向

①健康管理事業

- ・ メチル水銀のばく露を受けた可能性がある住民に健康管理を行うことにより、健康上の不安の解消を図る。
- ・ 具体的には、検診や保健指導、相談窓口の設置等を行う。

②医療事業

- ・ 水俣病とは認定されないが四肢末端の感覚障害を有する者の医療を確保することにより、原因解明及び健康管理を行い、もって地域における健康上の問題の軽減、解消を図る。
- ・ 具体的には、療養費（医療費の自己負担分）及び療養手当の支給を行う。

総合検討通知（平成26年3月7日）

平成26年3月7日付けで、環境省環境保健部長通知として、熊本県・鹿児島・新潟県の知事及び新潟市長に通知。

1. 総合的検討の趣旨及び必要性

- 水俣病の認定は昭和52年判断条件を認定基準として審査が行われてきた。
- 平成25年4月16日に、水俣病の認定をめぐる行政訴訟の最高裁判決が下された。
- 本通知は、最高裁判決を尊重して認定審査を行うために、症候の組合せが認められない場合に、どのように総合的検討を行うかを、具体化したもの。

2. 総合的検討の内容

個々の申請者の状況に応じて、以下の項目について検討する。

- 申請者の有機水銀に対するばく露の確認
 - 汚染当時の体内の有機水銀値 ※把握できる場合のみ
 - 居住歴（申請者の居住地域の水俣病の発生状況）
 - 家族歴（家族等の水俣病の認定状況）
 - 職業歴（漁業等への従事歴）
 - ※昭和44年以降（阿賀野川流域は昭和41年以降）水俣病が発生する可能性のあるレベルの持続的メチル水銀ばく露が存在する状況ではなくなっていると認められることに留意。

総合検討通知（平成26年3月7日）

- 申請者の症状の確認
 - 水俣病の症状としての特徴を備えているかどうか
 - ばく露と症状の間の因果関係の判断
 - 単一症状など症状の側面からの蓋然性が低い場合には、ばく露が相当程度濃厚で、確かであるか等を確認する。
 - ばく露時期と発症時期の関係
 - ・ メチル水銀では通常1か月程度、長くとも1年程度までと考えられている。
 - ・ 数年を超えない範囲で更に長期間を要した臨床例が報告されていることにも留意する。
 - 他の原因との比較
3. 総合的検討に当たっての資料確認のあり方
- 総合的検討の各事項は、できる限り客観的資料により裏付けされる必要がある。
4. 留意事項
- 過去に行った処分について再度審査する必要はない。

水俣病発生地域において、過去に通常のレベルを超えるメチル水銀の曝露を受けた可能性がある者に対して、健康診査等を実施し、地域における健康上の問題の軽減・解消を図る。

	地域健康管理事業	健康不安者フォローアップ 健診事業	健康不安者に対する健診事業
対象	熊本・鹿児島は昭和43年12月31日以前に、新潟は昭和40年12月31日以前に対象地域に居住し、現在も対象地域に居住	熊本・鹿児島は昭和49年12月31日以前に1年以上、水俣湾またはその周辺水域魚介類を食べたことにより、新潟は昭和46年12月31日以前に1年以上阿賀野川流域の魚介類を食べたことにより、健康不安を訴える者のうち ○水俣病特措法非該当者 ○平成22年5月1日現在公健法の申請中の者で平成24年7月末以降棄却された者 ○ノーモアミナマタ国賠等請求訴訟における和解の基本合意の一時金・療養費非該当者	熊本・鹿児島は昭和49年12月31日以前に1年以上、水俣湾またはその周辺水域魚介類を食べたことにより、新潟は昭和46年12月31日以前に1年以上阿賀野川流域の魚介類を食べたことにより、健康不安を訴える者のうち ○水俣病特措法の申請を行わなかった者
事業内容	○健康診査 ○健康診査後の指導 ○健康教室 ○訪問保健指導 ○メンタルヘルス・ケア ○地域健康管理従事者研修	○健康診査 ○健康診査後の指導	○健康診査 ○健康診査後の指導
実績	3,727人(R4実績)	296人(R4実績)	25人(R4実績)

水俣病被害者特措法に基づく地域づくり

水俣病被害者特措法において、地域住民の健康の増進や健康不安の解消、地域社会の絆の修復、地域の振興等を図るための事業を実施することとされている。

●地域社会の絆の修復

慰霊式等の行事による「もやい直し」

(※地域社会の絆を修復していくという意味)

資料館による情報発信 等

水俣病犠牲者慰霊式（例年5月1日）



水俣病犠牲者慰霊式

●医療・福祉施策の充実

胎児性患者等の地域生活支援（デイサービス、在宅支援）
離島等における介護予防事業 等



デイサービス事業

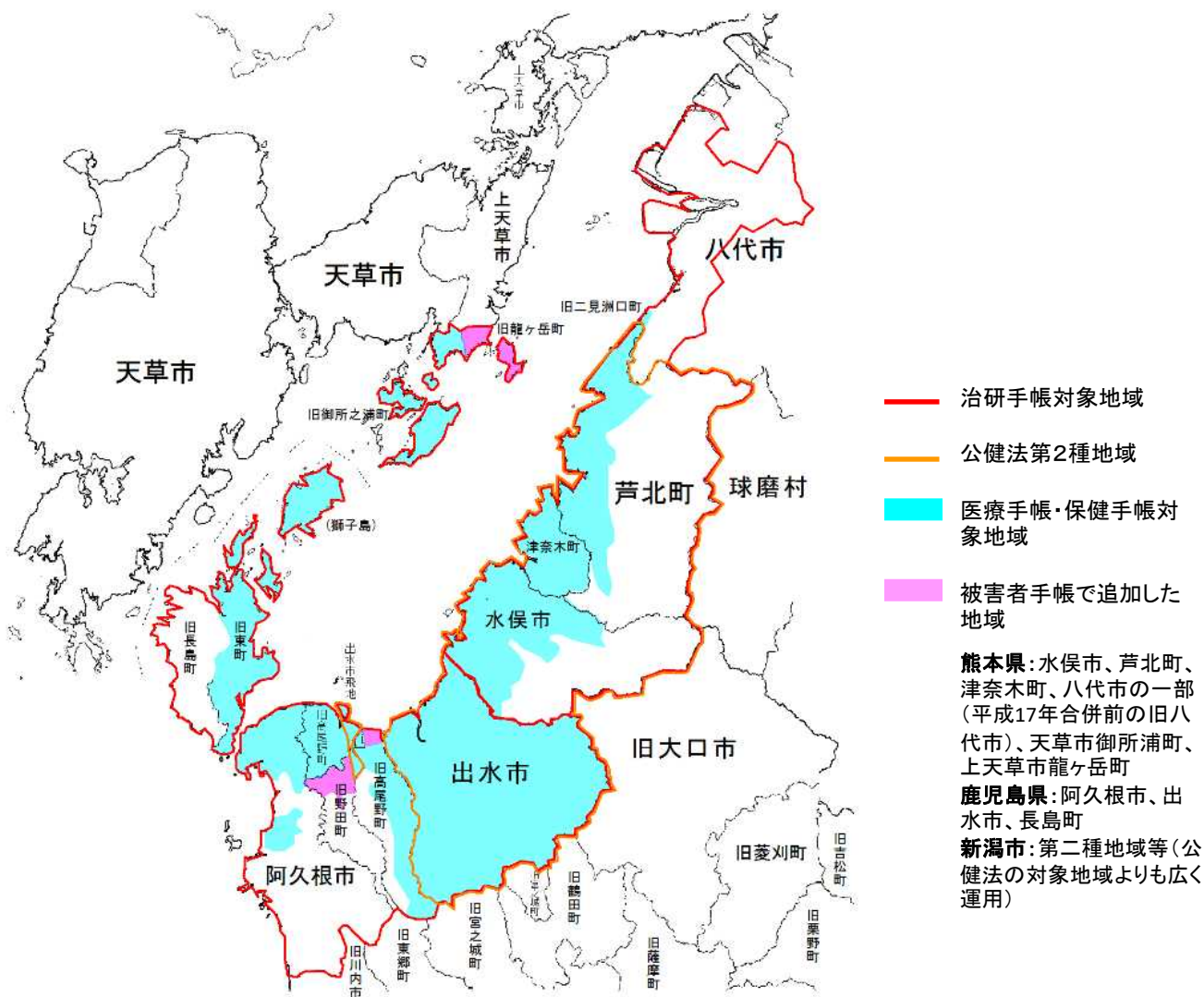
●地域の環境資源を活用した産業基盤の強化、 環境まちづくりを通じた地域振興

水俣環境アカデミアの開学、コミュニティバスの整備、
湯の鶴温泉保健センター整備、水俣駅舎リニューアル等



水俣環境アカデミア

（参考）各種施策の対象地域



水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法

目次

前文

第一章 総則（第一条―第四条）

第二章 救済措置の方針等（第五条・第六条）

第三章 水俣病問題の解決に向けた取組（第七条）

第四章 公的支援を受けている関係事業者の経営形態の見直し（第八条―第十六条）

第五章 指定支給法人（第十七条―第二十九条）

第六章 雑則（第三十条―第三十七条）

第七章 罰則（第三十八条―第四十二条）

附則

水俣湾及び水俣川並びに阿賀野川に排出されたメチル水銀により発生した水俣病は、八代海の沿岸地域及び阿賀野川の下流域において、甚大な健康被害と環境汚染をもたらすとともに、長年にわたり地域社会に

深刻な影響を及ぼし続けた。水俣病が、今日においても未曾有^その公害とされ、我が国における公害問題の原点とされるゆえんである。

水俣病の被害に関しては、公害健康被害の補償等に関する法律の認定を受けた方々に対し補償が行われてきたが、水俣病の被害者が多大な苦痛を強いられるとともに、水俣病の被害についての無理解が生まれ、平穩な地域社会に不幸な亀裂^きがもたらされた。

平成十六年のいわゆる関西訴訟最高裁判所判決において、国及び熊本県が長期間にわたって適切な対応をなすことができず、水俣病の被害の拡大を防止できなかったことについて責任を認められたところであり、政府としてその責任を認め、おわびをしなければならぬ。

これまで水俣病問題については、平成七年の政治解決等により紛争の解決が図られてきたところであるが、平成十六年のいわゆる関西訴訟最高裁判所判決を機に、新たに水俣病問題をめぐって多くの方々が救済を求めており、その解決には、長期間を要することが見込まれている。

こうした事態をこのまま看過することはできず、公害健康被害の補償等に関する法律に基づく判断条件を満たさないものの救済を必要とする方々を水俣病被害者として受け止め、その救済を図ることとする。これ

により、地域における紛争を終結させ、水俣病問題の最終解決を図り、環境を守り、安心して暮らしていく社会を実現すべく、この法律を制定する。

第一章 総則

（目的）

第一条 この法律は、水俣病被害者を救済し、及び水俣病問題の最終解決をすることとし、救済措置の方針及び水俣病問題の解決に向けて行うべき取組を明らかにするとともに、これらに必要な補償の確保等のための事業者の経営形態の見直しに係る措置等を定めることを目的とする。

（定義）

第二条 この法律において「関係事業者」とは、水俣病が生ずる原因となったメチル水銀を排出した事業者をいう。

2 この法律において「関係県」とは、公害健康被害の補償等に関する法律（昭和四十八年法律第百十一号。以下「補償法」という。）第二条第二項の規定により定められた第二種地域のうち水俣病に係る地域（当該地域に係る第二種地域の指定が解除された場合を含む。以下「指定地域」という。）の属する県をいう。

3 この法律において「継続補償受給者」とは、旧公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法（昭和四十四年法律第九十号）第三条第一項の認定を受けた者、補償法第四条第二項の認定を受けた者その他の関係事業者が排出したメチル水銀により健康被害を生じていると認められた者であつて関係事業者との間で当該健康被害に係る継続的な補償のための給付（以下「補償給付」という。）を受けることをその内容に含む協定その他の契約を締結しているものをいう。

4 この法律において「個別補償協定」とは、関係事業者が継続補償受給者との間で締結している協定その他の契約（当該継続補償受給者及びその親族に対する補償給付に関する条項に限る。）をいう。

5 この法律において「公的支援」とは、関係事業者に対し、水俣病に係る健康被害を受けた者に対する補償金及び公害防止事業費事業者負担法（昭和四十五年法律第二百二十二号）に基づく負担金の原資等として、地方公共団体又は環境省令で定める団体が行う融資をいう。

（救済及び解決の原則）

第三条 この法律による救済及び水俣病問題の解決は、継続補償受給者等に対する補償が確実に行われること、救済を受けるべき人々があたう限りすべて救済されること及び関係事業者が救済に係る費用の負担に

ついて責任を果たすとともに地域経済に貢献することを確保することを旨として行われなければならない。

（国等の責務）

第四条 国、関係地方公共団体、関係事業者及び地域住民は、前条の趣旨にのっとり、それぞれの立場で、救済を受けるべき人々があたう限りすべて救済され、水俣病問題の解決が図られるように努めなければならない。

第二章 救済措置の方針等

（救済措置の方針）

第五条 政府は、関係県の意見を聴いて、過去に通常起こり得る程度を超えるメチル水銀のばく露を受けた可能性があり、かつ、四肢末梢^{しうせう}優位の感覚障害を有する者及び全身性の感覚障害を有する者その他の四肢末梢優位の感覚障害を有する者に準ずる者を早期に救済するため、一時金、療養費及び療養手当の支給（以下「救済措置」という。）に関する方針を定め、公表するものとする。

2 前項の方針には、次に掲げる事項を定めるものとする。

一 既に水俣病に係る補償又は救済を受けた者及び補償法第四条第二項の認定の申請、訴訟の提起その他

の救済措置以外の手段により水俣病に係る損害のてん補等を受けることを希望している者を救済措置の対象としない旨

二 四肢末梢優位の感覚障害を有する者に準ずる者かどうかについて、口の周囲の触覚若しくは痛覚の感覚障害、舌の二点識別覚の障害又は求心性視野狭窄さくの所見を考慮するための取扱いに関する事項

三 費用の負担その他の必要な措置に関する事項

3 第一項の方針のうち一時金の支給に関する部分については、関係事業者の同意を得るものとする。

4 政府は、関係事業者に対し、第一項の方針に基づき一時金を支給することを要請するものとする。

5 関係事業者は、前項の要請があつた場合には、一時金を支給するものとする。

6 関係事業者は、前項の支給に関する事務を第十七条第二項の指定支給法人に委託することができる。

7 関係県は、第一項の方針に基づき療養費及び療養手当を支給するものとする。

8 政府は、関係県が前項の支給を行うときは、予算の範囲内で、当該関係県に対し必要な支援を行うものとする。

（水俣病被害者手帳）

第六条 政府は、前条第一項の方針において、同項及び同条第二項に定めるもののほか、関係県が水俣病にも見られる神経症状に係る医療を確保するためこの法律の施行の際に現にその医療に係る措置を要するとされている者に対して交付する水俣病被害者手帳に関する事項を定めるものとする。

2 関係県は、前条第一項の方針に基づき水俣病被害者手帳の交付をした者に対して、療養費を支給するものとする。

3 政府は、関係県が前項の支給を行うときは、予算の範囲内で、当該関係県に対し必要な支援を行うものとする。

第三章 水俣病問題の解決に向けた取組

第七条 政府、関係県（補償法第四条第三項の政令で定める市を含む。第三項において同じ。）及び関係事業者は、相互に連携を図りながら、水俣病問題の解決に向けて次に掲げる事項に早期に取り組まなければならない。

一 救済措置を実施すること。

二 水俣病に係る補償法第四条第二項の認定等の申請に対する処分を促進すること。

三 水俣病に係る紛争を解決すること。

四 補償法に基づく水俣病に係る新規認定等を終了すること。

2 政府、関係県及び関係事業者は、早期にあたう限りの救済を果たす見地から、相互に連携して、救済措置の開始後三年以内を目途に救済措置の対象者を確定し、速やかに支給を行うよう努めなければならない。

3 政府及び関係県は、救済措置及び水俣病問題の解決に向けた取組の周知に努めるものとする。

第四章 公的支援を受けている関係事業者の経営形態の見直し

(指定)

第八条 環境大臣は、関係事業者から申請があつた場合において、次の各号のいずれにも該当すると認めるときは、当該関係事業者を、この章の規定等の適用を受ける者として指定することができる。

一 当該関係事業者が公的支援を受けていること。

二 当該関係事業者がその財産をもって債務を完済することができないこと。

三 当該関係事業者が第五条第五項の一時金の確実な支給を行うために必要があると認められること。

四 水俣病に係る補償を将来にわたり確保するために必要があると認められること。

（事業再編計画）

第九条 前条の規定による指定を受けた者（以下「特定事業者」という。）は、次に掲げる事項を記載した事業の再編に関する計画（以下「事業再編計画」という。）を作成し、環境大臣の認可を申請しなければならない。

一 株式会社を設立すること及び当該株式会社が設立に際して発行する株式の総数を特定事業者が引き受けること。

二 特定事業者が、個別補償協定に係る債務、水俣病に係る損害賠償債務及び公的支援に係る借入金債務その他環境大臣が指定する債務に係るものを除き、その事業を前号の株式会社（以下「事業会社」という。）に譲渡すること（以下「事業譲渡」という。）。

三 特定事業者が、事業譲渡の対価として事業会社が新たに発行する株式を引き受けること。

四 事業再編計画の実施及び事業譲渡の時期に関する事項

五 前各号に掲げる事項以外の事項であつて、特定事業者の事業の再編に必要な事項

六 事業会社の事業計画

七 事業譲渡の時における特定事業者が総数を保有する事業会社の株式の評価額

八 第二号に規定する個別補償協定に係る債務、水俣病に係る損害賠償債務及び公的支援に係る借入金債務

務その他環境大臣が指定する債務の支払に関する特定事業者の資金計画

2 環境大臣は、前項の認可の申請があつた場合において、当該申請に係る特定事業者が第五条第一項の方針に基づく一時金の支給に同意しており、かつ、当該申請に係る事業再編計画が次の各号のいずれにも適合するものであると認めるときは、前項の認可をするものとする。

一 個別補償協定の将来にわたる履行及び公的支援に係る借入金債務の返済に、救済措置の開始の時点及び救済措置の対象者の確定の時点において支障が生じないと認められること。

二 事業会社の事業計画が特定事業者の事業所が所在する地域における事業の継続等により当該地域の経済の振興及び雇用の確保に資するものであること。

三 特定事業者が事業再編計画に基づいて行う事業会社の設立及び事業会社への事業譲渡その他の行為によつて特定事業者の債権者に対する債務の履行に要する原資が減少しないものであること。

四 その内容が債権者の一般の利益に反するものではないこと。

3 環境大臣は、第一項の認可をしたときは、遅滞なく、その旨を官報に公告するものとする。

（事業譲渡等に関する特例）

第十条 株式会社である特定事業者（以下「特定会社」という。）がその財産をもって債務を完済することができないときは、当該特定会社は、会社法（平成十七年法律第八十六号）第四百四十七条第一項並びに第四百六十七条第一項第一号及び第二号の規定にかかわらず、裁判所の許可を得て、次に掲げる事項であつて、前条第一項の認可を受けた事業再編計画（以下「認可事業再編計画」という。）に記載されたものを行うことができる。

一 事業譲渡

二 資本金の額の減少

2 前項の許可（以下「代替許可」という。）があつたときは、当該代替許可に係る事項について株主総会の決議があつたものとみなす。

3 代替許可に係る事件は、当該特定会社の本店の所在地を管轄する地方裁判所が管轄する。

4 裁判所は、代替許可の決定をしたときは、その決定書を特定会社に送達するとともに、その決定の要旨

を公告しなければならない。

5 前項の規定によつてする公告は、官報に掲載してする。

6 代替許可の決定は、第四項の規定による特定会社に対する送達がされた時から、効力を生ずる。

7 代替許可の決定に対しては、株主は第四項の公告のあつた日から一週間の不変期間内に、即時抗告をすることが出来る。

8 第三項から前項までに規定するもののほか、代替許可に係る事件に関しては、非訟事件手続法（明治三十一年法律第十四号）第一編（第二条から第四条まで、第十五条、第十六条、第十八条第一項及び第二項並びに第二十条を除く。）の規定を準用する。

（代替許可に係る登記の特例）

第十一条 前条第一項第二号に掲げる事項に係る代替許可があつた場合においては、当該事項に係る登記の申請書には、当該代替許可の決定書の謄本又は抄本を添付しなければならない。

（事業会社の株式の譲渡）

第十二条 特定事業者は、事業会社の株式の全部又は一部を譲渡しようとするときは、あらかじめ、環境大

臣の承認を得なければならない。

2 環境大臣は、前項の承認をしようとするときは、あらかじめ、総務大臣及び財務大臣に協議するとともに、第十七条第二項の指定支給法人にその旨を通知しなければならない。

3 環境大臣は、第十九条第一項の補償賦課金の確保及び公的支援に係る借入金債務の返済の確保その他債権者の保護に関する政府の方針に従って、次の各号のいずれにも適合するものであると認めるときは、第一項の株式の譲渡に係る承認をすることができる。

一 第十九条第一項の補償賦課金を株式の譲渡により確保できること。

二 公的支援に係る借入金債務の返済に支障が生じないと見込まれること。

三 第一項の株式の譲渡の後に債権者の一般の利益が害されることがないこと。

4 環境大臣は、第一項の承認をしたときは、遅滞なく、その旨を官報に公告するものとする。

（事業会社の株式の譲渡の暫時凍結）

第十三条 事業会社の株式の譲渡は、救済の終了及び市況の好転まで、暫時凍結する。

（詐害行為取消権及び否認権の適用除外）

第十四条 特定事業者が認可事業再編計画に基づいて行う事業会社の設立及び事業会社への事業譲渡その他の行為については、民法（明治二十九年法律第八十九号）第四百二十四条、破産法（平成十六年法律第七十五号）第一百六十条及び第一百六十一条、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）第二百二十七条及び第二百二十七条の二並びに会社更生法（平成十四年法律第五百五十四号）第八十六条及び第八十六条の二の規定は適用しない。

（報告及び検査）

第十五条 環境大臣は、この法律を施行するために必要な限度において、特定事業者に対し、その業務若しくは財産の状況に関し必要な報告を求め、又はその職員に、特定事業者の事務所その他その業務を行う場所に立ち入り、業務若しくは財産の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。

2 前項の規定により立入検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者に提示しなければならない。

3 第一項の規定による権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

（特定事業者に係る命令）

第十六条 環境大臣は、特定事業者の業務又は財産の状況に関し改善が必要であると認めるときは、特定事業者に対し、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

2 環境大臣は、特定事業者の役員（業務を執行する社員、取締役、執行役、代表者又はこれらに準ずる者をいう。以下この項において同じ。）がこの法律又はこの法律に基づく環境大臣の処分に違反したときは、当該特定事業者に対し、当該役員の解任を命ずることができる。

第五章 指定支給法人

（指定）

第十七条 環境大臣は、一般財団法人であつて、次条第一項に規定する業務（以下「支給業務」という。）を適正かつ確実に行うことができると認められるものを、その申請により、支給業務を行う者として指定することができる。

2 環境大臣は、前項の規定による指定をしたときは、当該指定を受けた者（以下「指定支給法人」という。）の名称及び住所並びに事務所の所在地を官報で公示しなければならない。

3 指定支給法人は、その名称及び住所並びに事務所の所在地を変更しようとするときは、あらかじめ、その旨を環境大臣に届け出なければならない。

4 環境大臣は、前項の規定による届出があつたときは、当該届出に係る事項を官報で公示しなければならない。

(業務)

第十八条 指定支給法人は、次に掲げる業務を行うものとする。

一 第五条第六項の規定により関係事業者から委託を受け、同条第五項の一時金を支給すること。

二 継続補償受給者(第十二条第一項の株式の譲渡の開始の時までに継続補償受給者となつた者(その親族を含む。))に限る。以下同じ。)に対し個別補償協定に定められた補償給付の支給に相当する支給を行うこと。

三 前二号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

2 指定支給法人は、次条第四項の規定により特定事業者から補償賦課金の納付があつた時から、前項第二号に掲げる業務(以下「個別補償支給業務」という。)を開始するものとする。

（個別補償支給業務に要する経費の確保）

第十九条 第十二条第一項の規定により特定事業者が事業会社の株式を譲渡した場合には、指定支給法人は、将来にわたる個別補償支給業務の実施に必要な経費に充てるため、特定事業者から補償賦課金を遅滞なく徴収しなければならない。

2 指定支給法人は、第十二条第二項の通知を受けた場合には、前項の補償賦課金の額及び徴収方法について、環境大臣の認可を受けなければならない。

3 指定支給法人は、前項の認可を受けたときは、特定事業者に対し、その認可を受けた事項を記載した書面を添付して、補償賦課金の額、納付期限及び納付方法を通知しなければならない。

4 特定事業者は、第十二条第一項の事業会社の株式の譲渡によって得られた収入（以下「事業会社株式に係る譲渡収入」という。）から、前項の通知に従い、指定支給法人に対し、遅滞なく補償賦課金を納付しなければならない。

5 指定支給法人が継続補償受給者に前条第一項第二号の支給を行った場合には、特定事業者は、その価額の限度で、当該継続補償受給者に対し、補償給付を支給する義務を免れる。

6 指定支給法人は、第四項の規定により特定事業者から納付された補償賦課金を個別補償支給業務に充てるため、次条の補償基金に積み立てなければならない。

（補償基金）

第二十条 指定支給法人は、個別補償支給業務に関する基金（以下「補償基金」という。）を設け、前条第四項の規定により特定事業者が補償賦課金として納付した金額をもつてこれに充てるものとする。

（事業計画等）

第二十一条 指定支給法人は、毎事業年度、環境省令で定めるところにより、支給業務に関し事業計画書及び収支予算書を作成し、環境大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

2 指定支給法人は、環境省令で定めるところにより、毎事業年度終了後、支給業務に関し事業報告書及び収支決算書を作成し、環境大臣に提出しなければならない。

（区分経理）

第二十二条 指定支給法人は、補償基金に係る経理については、その他の経理と区分し、特別の勘定を設け

て整理しなければならない。

（秘密保持義務）

第二十三条 指定支給法人の役員若しくは職員又はこれらの職にあった者は、支給業務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

（帳簿）

第二十四条 指定支給法人は、環境省令で定めるところにより、帳簿を備え、支給業務に関し環境省令で定める事項を記載し、これを保存しなければならない。

（解任命令）

第二十五条 環境大臣は、指定支給法人の役員が、この法律若しくはこの法律に基づく命令若しくは処分に違反したとき、又は支給業務に関し著しく不適当な行為をしたときは、指定支給法人に対して、その役員を解任すべきことを命ずることができる。

（監督命令）

第二十六条 環境大臣は、この法律を施行するために必要な限度において、指定支給法人に対し、支給業務

に關し監督上必要な命令をすることができる。

（報告及び検査）

第二十七条 環境大臣は、この法律を施行するために必要な限度において、指定支給法人に対し、支給業務若しくは財産の状況に關し必要な報告を求め、又はその職員に、指定支給法人の事務所に立ち入り、支給業務若しくは財産の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは關係者に質問させることができる。

2 前項の規定により立入検査をする職員は、その身分を示す證明書を携帯し、關係者に提示しなければならない。

3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

（業務の休廃止）

第二十八条 指定支給法人は、環境大臣の許可を受けなければ、支給業務の全部又は一部を休止し、又は廃止してはならない。

2 環境大臣が前項の規定により支給業務の全部の廃止を許可したときは、当該指定支給法人に係る指定は、

その効力を失う。

3 環境大臣は、第一項の許可をしたときは、その旨を公示しなければならない。

（指定の取消し等）

第二十九条 環境大臣は、指定支給法人が次の各号のいずれかに該当するときは、第十七条第一項の指定を取り消すことができる。

一 支給業務を適正かつ確実に実施することができないと認められるとき。

二 この法律又はこの法律に基づく命令若しくは処分違反したとき。

三 不正の手段により第十七条第一項の指定を受けたとき。

2 環境大臣は、前項の規定により指定を取り消したときは、その旨を公示しなければならない。

3 第一項の規定により指定を取り消した場合において、環境大臣がその取消し後に新たに指定支給法人を指定したときは、取消しに係る指定支給法人の支給業務に係る財産は、新たに指定を受けた指定支給法人に帰属する。

4 前項に定めるもののほか、第一項の規定により指定を取り消した場合における支給業務に係る財産の管

理その他所要の経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、合理的に必要と判断される範囲において、政令で定める。

第六章 雑則

（法人税に係る課税の特例）

第三十条 特定事業者が認可事業再編計画に基づいて事業会社への事業譲渡を行ったときは、当該事業譲渡の日の属する事業年度又は連結事業年度前の各事業年度において生じた欠損金額及び各連結事業年度において生じた個別欠損金額（当該連結事業年度に連結欠損金額が生じた場合には、当該連結欠損金額のうち当該特定事業者に帰せられる金額を加算した金額）で政令で定める金額のうち、当該事業譲渡の時ににおける当該事業会社の株式の価額として政令で定める金額から当該事業譲渡に係る純資産価額（当該事業譲渡に係る資産の帳簿価額から当該事業譲渡に係る負債の帳簿価額を控除した金額をいう。）を控除した金額に達するまでの金額は、当該事業譲渡の日の属する事業年度又は連結事業年度の所得の金額又は連結所得の金額の計算上、損金の額に算入する。この場合において、法人税法（昭和四十年法律第三十四号）第六十一条の十三及び第八十一条の十の規定は、適用しない。

2 前項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 事業年度 法人税法第十三条及び第十四条に規定する事業年度をいう。

二 連結事業年度 法人税法第十五条の二に規定する連結事業年度をいう。

三 欠損金額 法人税法第二条第十九号に規定する欠損金額をいう。

四 連結欠損金額 法人税法第二条第十九号の二に規定する連結欠損金額をいう。

五 個別欠損金額 法人税法第八十一条の十八第一項に規定する個別欠損金額をいう。

六 連結所得 法人税法第二条第十八号の四に規定する連結所得をいう。

3 特定事業者が第十九条第四項の規定により指定支給法人に補償賦課金を納付した場合における当該補償賦課金に係る租税特別措置法（昭和三十二年法律第二十六号）第六十六条の十一及び第六十八条の九十五の規定の適用については、同法第六十六条の十一第一項中「長期間にわたつて使用され、又は運用される基金又は信託財産に係る負担金又は掛金で次に掲げるもの」とあるのは「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法（平成二十一年法律第 号）第二十条に規定する補償基金に係る同法第十九条第四項の補償賦課金」と、同法第六十八条の九十五第一項中「長期間にわたつて使用され、又は

運用される基金又は信託財産に係る負担金又は掛金で第六十六条の十一第一項各号に掲げるもの」とあるのは、「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法第二十条に規定する補償基金に係る同法第十九条第四項の補償賦課金」とする。

4 第二項に定めるもののほか、第一項の規定の適用がある場合における法人税法その他法人税に関する法令の規定に関する技術的読替えその他同項又は前項の規定の適用に関し必要な事項は、政令で定める。

（登録免許税に係る課税の特例）

第三十一条 特定事業者が、認可事業再編計画に基づき事業会社を設立する場合には、当該事業会社の設立の登記に係る登録免許税の税率は、財務省令・環境省令で定めるところにより登記を受けるものに限り、登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）第九条の規定にかかわらず、千分の一とする。

2 前項の事業会社が、認可事業再編計画に基づき事業譲渡の対価として新たに株式を発行する場合には、当該株式の発行による当該事業会社の資本金の額の増加の登記に係る登録免許税の税率は、財務省令・環境省令で定めるところにより登記を受けるものに限り、登録免許税法第九条の規定にかかわらず、千分の一とする。

3 第一項の事業会社が、認可事業再編計画に基づいて行われる事業譲渡により特定事業者から不動産の所有権を取得した場合には、当該不動産の所有権の移転の登記に係る登録免許税の税率は、財務省令・環境省令で定めるところにより当該取得後一年以内に登記を受けるものに限り、登録免許税法第九条の規定にかかわらず、千分の一・五とする。

（不動産取得税に係る課税の特例）

第三十二条 事業会社が認可事業再編計画に基づいて行われる事業譲渡により特定事業者から不動産を取得した場合における当該不動産の取得に対しては、不動産取得税を課することができない。

（救済措置の実施等に必要な支援）

第三十三条 特定事業者が第五条第五項の一時金の支給を円滑に行うことができるよう、政府及び関係県は、予算の範囲内において、特定事業者に対する支援について、所要の措置を講ずるものとする。

2 環境大臣は、関係金融機関等に対して、特定事業者に対する支援の継続を要請するものとする。

（公的支援に係る借入金債務の返済等の方針）

第三十四条 特定事業者は、事業会社株式に係る譲渡収入から第十九条第四項の規定により指定支給法人に

納付した金額を控除した残額（当該残額の運用によって得られた収益を含む。）については、まず水俣病に係る損害賠償債務及び公的支援に係る借入金債務に充当し、次に環境大臣が指定する債務及び認可事業再編計画の遂行に必要な費用に充当することができる。

（地域の振興等）

第三十五条 政府及び関係地方公共団体は、必要に応じ、特定事業者の事業所が所在する地域において事業会社が事業を継続すること等により地域の振興及び雇用の確保が図られるよう努めるものとする。

（健康増進事業の実施等）

第三十六条 政府及び関係者は、指定地域及びその周辺の地域において、地域住民の健康の増進及び健康上の不安の解消を図るための事業、地域社会の絆きずなの修復を図るための事業等に取り組むよう努めるものとする。

2 政府及び関係者は、関係事業者が排出したメチル水銀による環境汚染を将来にわたって防止するため、水質の汚濁の状況の監視の実施その他必要な措置を講ずるものとする。

（調査研究）

第三十七条 政府は、指定地域及びその周辺の地域に居住していた者（水俣病が多発していた時期に胎児であつた者を含む。以下「指定地域等居住者」という。）の健康に係る調査研究その他メチル水銀が人の健康に与える影響及びこれによる症状の高度な治療に関する調査研究を積極的かつ速やかに行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の公表に当たっては、指定地域等居住者又はその家族の秘密又は私生活若しくは業務の平穩が害されることがないように適切な配慮がされなければならない。

3 政府は、第一項の調査研究の実施のため、メチル水銀が人の健康に与える影響を把握するための調査、効果的な疫学調査、水俣病問題に関する社会学的調査等の手法の開発を図るものとする。

4 関係地方公共団体は、第一項の調査研究に協力するものとする。

第七章 罰則

第三十八条 第十五条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくは同項の規定による質問に対して答弁をせず、若しくは虚偽の答弁をした者は、一年以下の懲役又は三百万円以下の罰金に処する。

第三十九条 第二十三条の規定に違反した者は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

第四十条 次の各号のいずれかに該当する者は、三十万円以下の罰金に処する。

一 第二十四条の規定に違反して、帳簿を備えず、帳簿に記載せず、若しくは虚偽の記載をし、又は帳簿を保存しなかった者

二 第二十七条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくは同項の規定による質問に対して答弁をせず、若しくは虚偽の答弁をした者

三 第二十八条第一項の規定による許可を受けしないで支給業務の全部を廃止した者

第四十一条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関し、第三十八条又は前条の違反行為をしたときは、その行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

第四十二条 第十六条第一項の規定による命令に違反した者は、百万円以下の過料に処する。

附 則

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第四条の規定は、この法律の公布の日又は行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成二十一年法律第 号）の公布の日のいずれか遅い日から施行する。

(水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法の一部改正)

第二条 水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法（昭和五十三年法律第百四号）の一部を次のように改正する。

第二条第一項中「環境庁長官」を「環境大臣」に、「平成八年九月三十日まで」を「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法（平成二十一年法律第 号）附則第二条の規定の施行の日から当分の間」に、「附則第十二条」を「附則第四条」に改め、同項第二号中「昭和六十二年八月三十一日以前に」を削り、「していた」を「した」に改め、同条第二項中「により環境庁長官が受けた申請に關し」を「による申請を受けた場合には」に改め、同条第三項中「附則第十二条」を「附則第四条」に改める。

第四条を次のように改める。

（認定審査の促進）

第四条 県知事等は、認定等の申請をした者で第二条第一項各号に掲げるものの迅速かつ公正確実な救済のため特に必要があると認めるときは、環境大臣と協議の上、環境大臣に対して、当該認定等の申請に係る事案を移送することができる。

2 県知事等は、前項の規定により事案を移送しようとするときは、当該移送に係る認定等の申請をした者の同意を得なければならない。

3 第一項の規定により事案が移送されたときは、当該移送に係る認定等の申請をした者は、第二条第一項の規定に基づき環境大臣に対して申請を行つたものとみなす。

第五条第三項中「附則第十五条」を「附則第六条」に、「附則第十二条」を「附則第四条」に、「附則第十八条」を「附則第八条」に改める。

（水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法の一部改正に伴う経過措置）

第三条 この法律の施行前に前条の規定による改正前の水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法第二条

第二項の規定により行われた認定に関する処分は、前条の規定による改正後の水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法第二条第二項の規定により行われた認定に関する処分とみなす。

（行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律の一部改正）

第四条 行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律の一部を次のように改正する。

第三百十七条の次に次の一条を加える。

（水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法の一部改正）

第三百十七条の二 水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法（昭和五十三年法律第百四号）の一部を次のように改正する。

第六条の見出し中「異議申立て」を「審査請求」に改め、同条中「環境大臣」を「審理員」に、「行政不服審査法（昭和三十七年法律第百六十号）」に基づく異議申立て」を「審査請求」に、「同法第四十八条において準用する同法第二十七条」を「行政不服審査法（平成二十一年法律第 号）第三十三条」に、「当該異議申立て」を「当該審査請求」に改める。

水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法の
救済措置の方針

平成 22 年 4 月 16 日
閣 議 決 定

水俣病は、その発生から半世紀以上にわたり、水俣病の被害者に多大な苦痛を強いるとともに、地域社会に深刻な影響を及ぼしており、今なお新たに多くの方々が救済を求めている。こうした事態を看過することはできないことから、救済を必要とする方々を水俣病被害者として受け止め、その救済を図るため、水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法（以下「特措法」という。）が制定された。

特措法に基づく取組に関しては、いのちを守るとの基本的な考え方の下、これまで関係各方面から広く意見を聞くよう努めてきたところであり、水俣病被害者を迅速にかつあたる限り救済するため、メチル水銀へのばく露や症状に関する要件を適正で可能な限り幅広いものとし、また、対象となる方の判定のプロセスを公正で可能な限り丁寧なものとして、検討を行ってきた。

このような検討の結果を踏まえ、特措法第 5 条及び第 6 条の規定に基づき、救済措置の方針を次のとおり定める。

1. 救済措置

水俣病が生ずる原因となったメチル水銀を排出した事業者（以下、「関係事業者」といいます。）であるチッソ株式会社、昭和電工株式会社の責任と、平成16年のいわゆる関西訴訟最高裁判所判決において公害防止政策が不十分であったと認められた国及び熊本県の責任とを踏まえて、水俣病被害者の方々をあたう限りすべて、迅速に救済します。

このような基本的考え方の下、以下のような措置を行います。

（１）対象となる方

- ① 通常起こり得る程度を超えるメチル水銀のばく露を受けた（メチル水銀を体内に取り入れること）可能性がある方のうち、
（ア）四肢末梢優位の感覚障害（手足の先の方の感覚が鈍いこと）を有する方
に加え、（ア）に当たらない方であっても、
（イ）全身性の感覚障害を有する方その他の四肢末梢優位の感覚障害を有する方に準ずる方を対象とします。
- ② 通常起こり得る程度を超えるメチル水銀のばく露を受けた可能性がある方とは、熊本県及び鹿児島県においては、昭和43年12月31日以前、新潟県においては、昭和40年12月31日以前に、
（ア）③に定める「対象地域」に相当の期間（注1）居住していたため、熊本県及び鹿児島県においては水俣湾又はその周辺水域の魚介類を多食したと認められる方、あるいは、新潟県においては阿賀野川の魚介類を多食したと認められる方
に加え、上記と同様の年月日以前に、

(イ)「対象地域」に相当の期間居住していなかった方であっても、熊本県及び鹿児島県においては水俣湾又はその周辺水域の魚介類を、新潟県においては阿賀野川の魚介類を多食したとそれぞれ認めるのに相当な理由がある方(母体を経由してメチル水銀のばく露を受けた可能性がある場合を含みます(注2))とします。

(注1) 1年以上とします。

(注2) 熊本県及び鹿児島県においては昭和44年11月末までに生まれた方、あるいは、新潟県においては昭和41年11月末までに生まれた方については、胎児期のばく露の可能性を考慮して、救済措置の地域要件(③に詳述)、症候要件((2)⑥に詳述)と併せて総合的に判断することとします。

また、熊本県及び鹿児島県においては昭和44年11月末以降に、新潟県においては昭和41年11月末以降に生まれた方であっても、臍帯、胎毛筆(赤ちゃん筆)の毛又は(妊娠中の)母親の毛髪における高濃度のメチル水銀のばく露の可能性を示すデータなどの科学的なデータのある方については、どこでメチル水銀のばく露を受けた可能性があるか原因を確認した上で、救済措置の地域要件、症候要件と併せて総合的に判断することとします。

③ 「対象地域」とは、そこに居住している方が、通常起こり得る程度を超えるメチル水銀のばく露を受けた可能性があり、水俣病患者が多発した地域として関係県が具体的に定める地域です。なお、この地域に相当の期間居住していなくても、②(イ)に当たる方は、①の症状があれば対象となります。

④ 亡くなられた方については、認定審査会の提出資料その他公的な診断による資料がある方は、その資料により申請することができます。(2)による判定の結果、対象となられた場合には、遺族の方に一時金を支給します。

(2) 対象となる方の判定方法

- ① 国及び関係県は、申請受付の広報を徹底し、救済措置を受ける必要のある方が、確実に申請していただけるよう努めます。
- ② 一時金等の申請をした方は、関係県が指定する医療機関(注3)(以下、「指定医療機関」といいます。)の医師による診断を受けていただきます。
- ③ 関係県は、各県が設置する判定検討会の意見を聴いて、一時金等対象者を判定します。
- ④ 判定検討会における一時金等対象者の判定は、指定医療機関の医師による診断の検査所見書及び申請者が任意に提出する医師(注4)の診断書(以下、「提出診断書」といいます。)を総合して行います(注5)。

(注3) 指定医療機関

国立水俣病総合研究センター及び神経科若しくは神経内科があり、かつ、次の(a)(b)の要件のいずれをも満たす医師が在籍している公的医療機関から、申請される方の利便の観点から所在地を勘案して県が指定する機関とします。

- (a) 現在、神経内科、神経科又は精神科のある医療機関に在籍していること。
- (b) 一定の施設基準を満たす医療機関に3年以上在籍した経験を有し、かつ、1年以上の臨床神経学的診療経験を有すること。

(注4) 申請者が任意に提出する、提出診断書を発行する医師の要件
(注3)(a)及び(b)の要件のいずれをも満たす医師とします。

(注5) なお、④の提出診断書が申請から3ヶ月以内に提出されなかった場合は、検査所見書のみによって判定を行うことになります。

- ⑤ 検査所見書の様式は、申請する方の居住歴などメチル水銀ばく露に関する疫学要件や提出診断書における診断内容等が参照しやすいものを、環境大臣が定めます。
- ⑥ 対象となる症状
- (ア) 検査所見書と提出診断書の両方の診断書において四肢末梢優位又は全身性の感覚障害がある場合は、対象となります。
- (イ) 四肢末梢優位の乖離性の感覚障害は、全身性の感覚障害と同等に扱います。
- (ウ) (ア) に該当しない場合で、いずれか一方の診断書において四肢末梢優位又は全身性の感覚障害がある場合は、他方の診断書における次の所見を踏まえ、判定検討会における総合判断により判定します。
- ・ 口周囲の触覚又は痛覚の感覚障害
 - ・ 舌の二点識別覚の障害
 - ・ 求心性視野狭窄
- ⑦ 提出された資料のみでは四肢末梢優位の感覚障害などが認められない方であっても、ご家族の中に既に認定患者となられた方がいらっしゃるなど、メチル水銀の影響を受けた可能性が高い一定の要件を満たすと判定検討会が認める方については、判定検討会は、もう1回、検査所見書又は提出診断書の追加提出を受け付け、再検討することとします。
- ⑧ なお、関係県が判定検討会の委員を選任する際には、原則として、判定を受けられる個々人の検査所見書又は提出診断書を作成した医師を選任しないこととします。しかし、選任すべき特段の理由がある場合は、これを認めることとします。この場合は、当該委員が作成した診断書を用いた判定には参加できないこととし、この判定には、別途選任する臨時委員が参加できることとします。

(3) 支給内容

一時金等対象者となることが決まった方は、以下の支給が受けられることとなります。

① 一時金

関係事業者は、一時金等対象者に対して、一時金として次の金額を支給します（注6）。

（注6）ここでの関係事業者とは、熊本県及び鹿児島県関係はチッソ株式会社、新潟県関係は昭和電工株式会社を指します。以下、支給等に関する規定については、同じとします。

（ア）一時金等対象者一人当たりの金額 210万円

（イ）一時金等対象者であって、一時金の支給等を要望する活動を行ってきた次の団体に所属している方に関しては、一人当たりの金額の他に一定の金額を加算します。この金額については所属する団体ごとに次に定める金額とします。

水俣病出水の会 20億円

上記金額のほか、社会福祉法人を設立し、鹿児島県出水市又は近隣市町村において、胎児性水俣病患者等の地域生活支援事業を行うための施設整備費及び10年以上の運営費に充てる金額として9億5千万円を同団体に所属している一時金等対象者に加算します。

水俣病被害者芦北の会 1億6千万円

水俣病被害者獅子島の会 4千万円

（ウ）一時金の加算金額は、当該団体に対し一括して支給し、団体の合意によりこれを各人に対して配分するものとします。その支給に当たっては、団体の会員の方々が、団体として一括して一時金の加算金額の支給を受けること及び関係事業者や国・関係県との間で争いのある状態を終了させることについて合意することが必要です。

② 療養費

関係県は、一時金等対象者に水俣病被害者手帳を交付します。水俣病被害者手帳の交付を受けた方が、通常起こり得る程度を超えるメチル水銀のばく露を受けたことによって発症すると考えられる症状（以下、「特定症状」といいます。）に関連して、社会保険各法の規定による療養を受けたときは、社会保険の医療費の自己負担分を支給します。

また、関係県は、水俣病被害者手帳の交付を受けた方が特定症状の軽減を図るために、はり師又はきゅう師から、はり又はきゅうの施術を受けたときや、温泉療養を行ったときは、月7, 500円を上限として、要した費用を支給します。

③ 療養手当

関係県は、一時金等対象者が特定症状に関連して社会保険各法の規定による療養を受けたときは、療養手当として次の金額を支給します。

入院による療養を受けた方	1月につき1万7,700円
通院による療養を受けた日数が1日以上70歳以上の方	1月につき1万5,900円
通院による療養を受けた日数が1日以上70歳未満の方	1月につき1万2,900円

(4) 申請の受付

- ① 一時金等の申請は、十分な周知措置を講じた上で、いずれかの時点では、終了することとなりますが、平成7年の政治解決に際しても、その内容を十分に知らなかった、四囲への遠慮から申請を行わなかった、などの事情で申請漏れをした方がいると指摘されていることを考慮して、十分慎重に取り運ぶ必要があります。
- ② このため、救済措置の開始に当たってはあらかじめ申請の受付の時期を定めることはしませんが、特措法第7条にかんがみ、極力速やかに対象者を確定し支給を行うこととします。
- ③ まずは、平成22年5月1日において保健手帳（注7）の交付を受けている方及び公害健康被害の補償等に関する法律（以下、「補償法」といいます。）第4条第2項の水俣病に係る認定の申請を行っている方で、これらに代えて一時金等の申請を行おうとする方については、原則として平成22年度中にはその申請に基づき判定を終え、一時金等対象者及び2.（3）で定める療養費対象者を確定して救済を行うこととします。
- ④ その上で、新たに救済を求める方については、平成23年末までの申請の状況を、被害者関係団体とも意見交換の上で十分に把握し、申請受付の時期を見極めることとします。

（注7）水俣病総合対策医療事業の保健手帳のことです。

2. 水俣病被害者手帳

一時金等の対象となる程度の感覚障害を有しないまでも、一定の感覚障害を有する方で、水俣病にも見られる症状のいずれか（注8）を有する方にも、関係県は、水俣病被害者手帳を交付し、水俣病被害者として安心して治療を受けていただけるようにします。

（注8）具体的には、次の10症状。

しびれ、ふるえ、カラス曲がり（こむら返り、痙攣、足がつる）、見える範囲が狭い・はっきり見えない、耳が遠い・耳鳴り、味覚・嗅覚の異常、言葉を正確に発せない、めまい・立ち眩み、つまずきやすい・ふらつく、物を落としやすい・手足の脱力感。

- （1）水俣病被害者手帳は、これを病院で提示すると医療費の自己負担分の支払が不要となる手帳です。1.（3）②に定められた療養費の支給を受けることができます。
- （2）水俣病被害者手帳は、一時金等の受付を開始した後、速やかに、少なくとも3ヶ月以内に交付を開始することとします。
- （3）水俣病被害者手帳の交付開始に伴い、保健手帳はこれに統合することとし、以下に定める療養費対象者に交付します。
 - ① 現に保健手帳の交付を受けている方であって、今後も療養費の支給のみを求める方（すなわち、水俣病に係る、一時金等の申請、補償法第4条第2項の認定の申請又は裁判による請求をしない方）に対しては、公的診断や判定を受ける必要はないこととし、3ヶ月以内に水俣病被害者手帳への切り替えを実施します。
 - ② 一時金等の申請をした方については、その方が一時金等対象者と判定されて1.（3）②により水俣病被害者手帳の交付を受けている場合のほか、一時金等対象者と判定されなかった場合にも、一定の感覚障害を有する方で、水俣病にも見られる症状のいずれかを有すると判定された方に、水俣病被害者手帳を交付します。
 - ③ 手帳の統合に伴い、保健手帳の申請・交付はなくなりますが、1.（4）のとおり当分の間は、一時金等の申請を受け付けていますので、症状に不安のある方は、その申請をして、一定の感覚障害を有する方で、水俣病にも見られる症状のいずれかが認められれば、水俣病被害者手帳が交付され、安んじて医療を受けることができることとなります。

3. その他

- (1) 関係事業者、国及び熊本県は、直近の適切な機会において、水俣湾の周辺地域及び阿賀野川流域における、すべての水俣病被害者の方々に対し、おわびの意を表します。
- (2) 1. 及び2. の施策の実施に当たっては、国、関係県及び関係事業者は、緊密に連絡をとりつつ実施体制を整備し、また、申請を行う方にその内容を丁寧に説明するとともにご意見を伺うよう努め、円滑な申請を行うことができるように心がけることとします。
- (3) 一時金については、関係事業者、国及び関係県との間で争いのある状態を終了させ、今後とも争わない旨の協定を関係事業者との間で締結の上、支給するものとします。また、一時金のうち1. (3) ① (イ) により加算される金額については、1. (3) ① (イ) に掲げる各団体と関係事業者、国及び関係県との間で争いのある状態を終了させ、今後とも争わない旨の協定を関係事業者との間で締結の上、一括して支給するものとします。
- (4) 既に水俣病に係る補償又は救済を受けた方及び補償法第4条第2項の認定の申請、訴訟の提起その他の救済措置以外の手段により水俣病に係る損害のてん補等を受けることを希望している方は、一時金等対象者又は療養費対象者となることはできません。また、一時金等対象者となる方は、今後ともこれらの手段を取らないように約束していただきます。水俣病被害者手帳の交付を受けながらこれらの手段を取ることができないことも同様です。
- (5) 環境大臣は、特措法第4章の規定に基づき、公的支援を受けている関係事業者の経営形態の見直しが行われる場合には、個別補償協定に係る補償債務の履行や特措法の救済措置の実施が確実に果たされるように対応します。

(6) 国、関係県及び関係事業者は、特措法第7条にかんがみ、裁判による解決を求めている方とも、争いのある状態を早期に終了できるよう取り組みます。

(7) この救済措置の方針の細目その他実施に必要な事項は、環境大臣が別に定めます。

(参考資料)

救済措置の実施と併せて行う、水俣病発生地域における地域再生・振興及び健康調査・環境調査等に係る施策の具体的事項について

国及び関係地方公共団体は、引き続き水俣病問題に真剣に向き合い取り組むこととし、関係事業者による取組や地域の幅広い関係者と連携協力しつつ、次のような施策を進めます。

1. 医療・福祉施策

- (1) 高齢化が進む胎児性患者とその家族の方など関係の方々が安心して住み慣れた地域で暮らしていけるよう、国、関係地方公共団体、関係事業者及び公益団体などの協力の下、必要な通所やショートステイ等の在宅支援サービス、地域の医療との連携などの医療・福祉施策について所要の取組を行います。
- (2) 一時金等対象者又は療養費対象者のうち、熊本県天草市御所浦町と鹿児島県出水郡長島町獅子島などの離島（島外の医療機関への交通手段が船舶又は航空機以外にない島をいいます。）に居住する方が、月1回以上、島外の病院に通院した場合には、関係県は離島加算を支給します。

2. 地域社会の絆の修復

水俣病に関する偏見・差別の解消と、水俣病問題で疲弊した地域の再生を図るため、地域社会の絆の修復、地域の再生・融和（もやい直し）について所要の取組を行います。

3. 水俣病に関する健康調査

水俣病に関する調査研究を進め、水俣病被害者の方などの症状の改善、地域全体の環境管理に役立てていきます。

- (1) メチル水銀が人の健康に与える影響を把握するための調査研究（健康不安者のフォローアップ）

将来に水俣病被害者が存在するか否かの可能性とそれに関する対応については、今後の調査研究による新しい知見によるべきものですが、当分の間、過去に相当の期間、熊本県及び鹿児島県においては水俣湾又はその周辺水域の魚介類を食べたことに伴い、

あるいは、新潟県においては阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴える方について、以下のとおり健康診査等を実施し、その推移をモニタリングします。

① 対象

- (ア) 一時金等の申請を行った方で、一時金等対象者又は療養費対象者のいずれにもならないとされた方のうち、熊本県及び鹿児島県においては、昭和49年末までに1年以上、水俣湾又はその周辺水域の魚介類を、新潟県においては、昭和46年末までに1年以上、阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴え、登録する方
- (イ) 平成22年5月1日現在において補償法上の認定申請を行っている方で、一時金等の受付が終了した後に棄却処分となって一時金等の対象となくなつた方のうち、熊本県及び鹿児島県においては、昭和49年末までに1年以上、水俣湾又はその周辺水域の魚介類を、新潟県においては、昭和46年末までに1年以上、阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴え、登録する方

② 内容

- (ア) 健康に不安のある方を登録して、医師による健康診査、保健師による保健指導が無償で受けられるようにします。
- (イ) 希望者には、必要に応じて、国立水俣病総合研究センターが実施する研究に参加し、脳磁計(MEG)等による高度な検査が受けられるようにします。なお、この研究では、今回の一時金等の対象となつた方も含め、幅広い方々の参加を求めています。

(2) 高度な治療に関する調査研究

胎児期に脳がメチル水銀の影響を受けたことによりしびれや疼痛、不随意運動などがある者に対して脳磁計などの検査を行い、障害部位を特定し、将来的に磁気刺激や電気刺激などによる治療に結びつけるための研究を行います。

(3) 効果的な疫学調査を行うための手法の開発

関係する地域に居住している方の水俣病に関する不安を解決することに向け、関係者の協力や参加の下、毛髪中水銀値等の過去のメチル水銀ばく露データを持っている方について、高ばく露地域に居住していた集団、低ばく露地域に居住していた集団、対照集団に分けて、それぞれ、長期的に健康状態の追跡調査を行いながら、水銀値及び健康影響との関係について、比較して分析を行います。

(4) その他の健康調査

以下のような健康調査を継続して行っていきます。

- ・胎児期のメチル水銀の低濃度ばく露による健康影響に関する研究
- ・メチル水銀に対する細胞感受性の解明など水俣病の発症機序に関する研究
- ・メチル水銀ばく露による健康影響に関する国際的なレビュー

4. 水質汚濁状況の監視の実施

原因企業が排出したメチル水銀による環境汚染を将来にわたって防止するため、水質汚濁の状況の継続的な監視やその他必要な所要の措置を講じます。

5. 国際協力

メチル水銀に関する海外の研究者や環境・公害行政の担当者等の受入れを積極的に行い、国内の研究者や行政担当者との交流を進めます。また、国内でのメチル水銀に関する研究成果や水俣病の教訓などを、国内外に広く発信していきます。加えて、水俣病発生地域の研究者や行政担当者、技術専門家、水俣病被害者などを、現在、公害問題の発生している開発途上国や新興国に派遣し、直接、研究成果や知見、技術、教訓などを伝えていきます。

6. 国立水俣病総合研究センター

水俣病における医療・福祉や調査研究、国内外への情報発信等において中核となるような役割を適切に果たすこととします。

7. 環境教育・学習、環境モデル都市としての取組、その他の地域振興

水俣市の進める環境モデル都市づくりや、みなまた環境大学構想の検討に協力するとともに、水俣病に関する経験と教訓を学ぶ学校・企業・団体研修等の受け入れ、環境教育プログラムの充実、市民や企業による環境学習や環境意識啓発を積極的に進めるなど、水俣病発生地域が、地域内外の環境人材育成を図るための拠点となって、幅広い世代への環境教育を積極的に進めます。

新潟においても、阿賀野川流域の環境資源を活用した地域づくりや環境学習を行うフィールドミュージアム事業、環境と人間のふれあい館を活用した環境学習・体験学習など、地域に根付いた取組を積極的に進めます。

また、環境に対する高い市民意識や蓄積された環境産業技術、美しい自然や豊富な地域資源などを積極的に活かして、エコツーリズムをはじめ、環境負荷を少なくしつつ、経済発展する新しい形の地域づくりを積極的に進めます。

(以上)